

駒ヶ谷遺跡Ⅲ

— 国道165号(南阪奈道路)の建設に伴う発掘調査報告書 —

2003年3月

財団法人 大阪府文化財センター

序 文

駒ヶ谷遺跡は、大和と河内・難波宮をつなぐ古代の官道である竹内街道を北東に望む丘陵上に位置する。目を東に転じれば二上山がそびえ、周囲はぶどう畑、雑木林など緑豊かな環境である。

昭和50年度に当センターの前身である財団法人大阪文化財センターが南阪奈道路路線決定の参考にするための分布調査を実施してから、今回の調査で27年が経過した。

平成8、9年に当センターがおこなった発掘調査では、6世紀後半の前方後円墳である「蔵塚古墳」が発見された他、飛鳥・奈良・平安時代の建物群も多数検出された。

平成11、12年の調査は、前回調査区の西側丘陵尾根を中心におこなった。東側では古代を中心とする建物群、古墳時代初頭の竪穴住居群が検出された。これにより平成元年度から平成2年度に駒ヶ谷遺跡調査会の調査で発見された遺跡西部丘陵尾根上の弥生時代後期～古墳時代初頭の集落跡が東に広がっていたことが確認できた。

今回の調査は、平成8、9年に実施した調査範囲内で未調査となっていた部分を中心に行った。弥生時代は、遺構は未検出であるが、剥片や石槍の未製品が多く出土したことから周辺で石器の加工を行っていた可能性が考えられる。古墳時代は、溝から須恵器器台が出土し、蔵塚古墳周辺に古墳の存在が想定される。飛鳥・奈良時代は、大型建物を含む掘立柱建物を多数検出した。過去の調査成果と考え合わせると、古代の官道沿いに位置する公的な建物群とも想定されるなど、多大な調査結果が得られた。

最後に、発掘調査と遺物整理・報告書作成作業の実施にあたり、多大なご協力を賜った大阪府教育委員会、国土交通省近畿地方整備局、羽曳野市教育委員会をはじめとする関係各位に深く感謝するとともに、今後とも当センターへのご支援を賜るよう切に希望する。

平成15年3月

財団法人 大阪府文化財センター
理事長 水野 正好

例言

1. 本書は、一般国道165号南阪奈道路の建設に伴って調査を行った、駒ヶ谷遺跡の発掘調査報告書である。駒ヶ谷遺跡は、羽曳野市駒ヶ谷・大黒・飛鳥に所在する。
2. 発掘調査および遺物整理・報告書作成事業は、大阪府教育委員会の指導の下、国土交通省近畿地方整備局大阪国道事務所の委託を受けて、財団法人大阪府文化財センターが実施した。
3. 発掘調査、遺物整理事業は、平成14年度に行われた。調査、遺物整理・報告書作成作業の実施にあたっては、南部調査事務所が所管し、南部調査事務所所長 渡邊昌宏、調査第2係長 寺川史郎の指示の下、調査第2係技師 島崎久恵、専門調査員 鈴木雅美が担当した。
4. 発掘調査および報告書作成作業の過程で次の方をはじめとする諸氏、諸機関に御協力・御教示を賜った。記して感謝の意を表する。(敬称略、所属団体50音順)
 阪田育功、堀江門也、松岡良憲 (大阪府教育委員会)、河内一浩、高野 学 (羽曳野市教育委員会)
5. 現地写真は調査担当者が、遺物写真は南部調査事務所 立花正治が撮影した。
6. 現地調査および遺物整理・報告書作成作業には下記の非常勤職員の協力を得た。また当センター職員より全般にわたって教示・協力を得た。
 秋山教子 片山憲子 川田嘉代子 久禮孝志 久木眞美
 中筋英子 中村慎子 松永しのぶ 山口純枝
7. 本書の執筆は、第2章第1節は鈴木が、他は島崎が担当し、編集は島崎が行った。
8. 本書に関わる出土遺物、実測図等調査記録、写真などは、財団法人大阪府文化財センターで保管している。広く活用されることを希望する。

凡 例

1. 本書に掲載した遺構図、その他の図に付した北方位はすべて国土地標第Ⅵ座標系の座標北を示す。
2. 本書で用いる標高はすべて東京湾平均海面で、図中では原則的にT.P.+を省略した。
3. 遺構図に付した座標値はkmをすべて省略した。
4. 土色は農林水産省農林水産技術士会議事務局監修『新版 標準上色帖』2001を用いた。
5. 本書では本文、図、表、図版の遺構番号、遺物番号はすべて一致する。
6. 各遺構図は各図にスケールを付しているが、縮尺1/20を原則とし、掘立柱建物は縮尺1/80を原則としている。
7. 出土遺物図の縮尺は、各図にスケールを付しているが、原則として、土器1/4、石器1/2で掲載している。

目次

序文

例言

凡例

| | |
|----------------------|----|
| 第1章 調査に至る経過 | 1 |
| 第2章 位置と環境 | |
| 第1節 遺跡をとりまく環境 | 3 |
| (1) 地理的環境 | |
| (2) 歴史的環境 | |
| 第2節 既往の調査 | 8 |
| 第3章 調査の成果 | |
| 第1節 調査の方法 | 11 |
| 第2節 基本層序 | 13 |
| 第3節 調査の概要 | 15 |
| 第1項 8Cトレンチ | 16 |
| 第2項 7Cトレンチ | 18 |
| 第3項 6Cトレンチ | 36 |
| 第4項 3Bトレンチ | 43 |
| 第4章 基礎分析 | |
| 古代における駒ヶ谷遺跡の変遷 | 59 |
| 第5章 まとめ | 63 |

挿 図 目 次

| | | | | | |
|------|------------------------------|----|------|---------------------|----------|
| 図 1 | 南阪奈道路と興金地 | 1 | 図 34 | 土坑110、溝111 平・新断面 | 33 |
| 図 2 | トレンチ配置図 | 2 | 図 35 | 土坑318 平・新断面 | 33 |
| 図 3 | 周辺の地形図 | 4 | 図 36 | ビット183 平・立断面 | 33 |
| 図 4 | 周辺の道路分布図 | 5 | 図 37 | 7 Cトレンチ 出土遺物 | 34 |
| 図 5 | 跡ヶ谷遺跡周辺地形図 | 9 | 図 38 | 6 Cトレンチ 遺物配置図 | 36 |
| 図 6 | 高住の興金地 | 9 | 図 39 | 6 C-3トレンチ 新断面 | 37 |
| 図 7 | 岡土原跡とそれに伴う地区 | 11 | 図 40 | 6 C-1トレンチ 新断面 | 37 |
| 図 8 | 地区別配置図 | 12 | 図 41 | 掘立柱建物13 平・新断面 | 38 |
| 図 9 | 南東区新断面式図 | 14 | 図 42 | 掘立柱建物14 平・新断面 | 38 |
| 図 10 | 8 Cトレンチ 遺物配置図 | 15 | 図 43 | 掘立柱建物15 平・新断面 | 39 |
| 図 11 | 土坑1 平・新断面 | 16 | 図 44 | 掘立柱建物16、構列6、7 平・新断面 | 39 |
| 図 12 | 土坑1 出土遺物 | 16 | 図 45 | ビット80 新断面 | 39 |
| 図 13 | 音部跡トレンチ 断面図 | 17 | 図 46 | 6 C-1トレンチ 出土遺物 | 41 |
| 図 14 | 7 Cトレンチ 遺物配置図 | 18 | 図 47 | 3 B-1トレンチ 遺物配置図 | 42 |
| 図 15 | 7 Cトレンチ 北側部遺物配置図 | 19 | 図 48 | 3 B-1トレンチ 斜交断面図 | 43 |
| 図 16 | 7 Cトレンチ 西側部遺物配置図 | 20 | 図 49 | 掘立柱建物17 平・新断面 | 44 |
| 図 17 | 7 Cトレンチ 南東部遺物配置図 | 21 | 図 50 | 構列9 平・新断面 | 44 |
| 図 18 | 掘立柱建物1 平・新断面 | 22 | 図 51 | 構列8、ビット 平・新断面 | 45 |
| 図 19 | 掘立柱建物2 平・新断面 | 22 | 図 52 | ビット 平・新断面 | 45 |
| 図 20 | 掘立柱建物3、構列1 平・新断面 | 23 | 図 53 | 構46 平・新断面 | 47 |
| 図 21 | 掘立柱建物4 平・新断面 | 24 | 図 54 | 構47 平・新断面 | 47 |
| 図 22 | 掘立柱建物5 平・新断面 | 25 | 図 55 | 3 B-1トレンチ 出土遺物 | 48 |
| 図 23 | 掘立柱建物6 平・新断面 | 26 | 図 56 | 3 B-1トレンチ 出土遺物(瓦版) | 49 |
| 図 24 | 掘立柱建物8 平・新断面 | 26 | 図 57 | 3 B-2トレンチ 遺物配置図 | 50 |
| 図 25 | 掘立柱建物7 平・新断面 | 27 | 図 58 | 掘立柱建物18 平・新断面 | 51 |
| 図 26 | 掘立柱建物11、12 平・新断面 | 27 | 図 59 | 構列10 平・新断面 | 51 |
| 図 27 | 掘立柱建物10 平・新断面 | 28 | 図 60 | ビット6、土坑29 断面図 | 52 |
| 図 28 | 構列2 平・新断面 | 28 | 図 61 | 溝1 平・新断面、遺物出土状況図 | 53 |
| 図 29 | 構列3 平・新断面 | 28 | 図 62 | 3 B-2トレンチ 出土遺物 | 54 |
| 図 30 | 構列4 平・新断面 | 28 | 図 63 | 出土遺物(土器) | 56,57,58 |
| 図 31 | 溝117、ビット 平・新断面 | 30 | 図 64 | 掘立柱建物配置図 | 61 |
| 図 32 | ビット39 平・新断面 | 32 | 図 65 | 掘立柱建物断面式 | 77,78 |
| 図 33 | 土坑130、溝210、216、252、132 平・新断面 | 32 | | | |

図 版 目 次

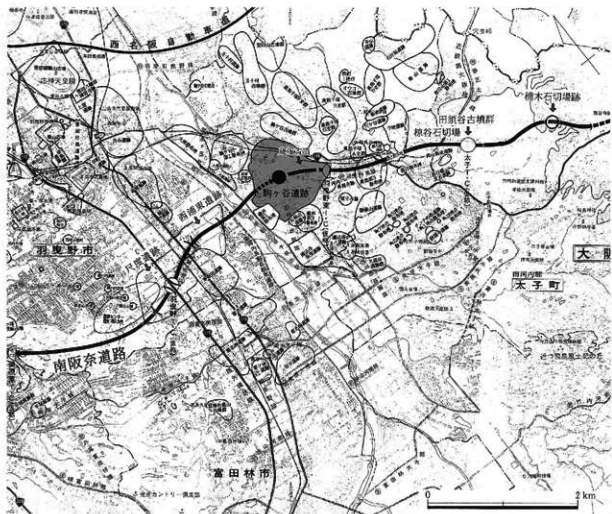
| | | | |
|-----|--------------------------------|----------------------------------|------------------------------|
| 図版1 | 1 調査区近景 飛鳥川を望む(南から) | 図版10 | 6 Cトレンチ |
| | 2 調査区近景 丘陵部を望む(東から) | 1 6 Cトレンチ北西壁 金泉(南から) | |
| 図版2 | 1 7 Cトレンチ北・西側部 航空写真 | 2 6 Cトレンチ 建物13(南西から) | |
| | 2 3 B-1トレンチ 航空写真 | 3 6 Cトレンチ 建物14(南西から) | |
| 図版3 | 8 Cトレンチ | 図版11 | 6 Cトレンチ |
| | 1 8 Cトレンチ北 金泉(南東から) | 1 6 Cトレンチ南東側 金泉(南西から) | |
| | 2 8 Cトレンチ南 金泉(北から) | 2 6 Cトレンチ 3層上面(南から) | |
| | 3 8 Cトレンチ北 雑跡トレンチ(南東から) | 3 6 Cトレンチ 母部 断面(北東から) | |
| | 4 8 Cトレンチ北 土坑1(南東から) | 4 6 Cトレンチ ビット11 断面(南西から) | |
| | 5 8 Cトレンチ北 土坑1 南東壁断面 | 5 6 Cトレンチ ビット80 痕跡部出土状況(南東から) | |
| 図版4 | 7 Cトレンチ | 図版12 | 3 B-1トレンチ |
| | 1 調査区から二上山を望む(西から) | 1 3 B-1トレンチ 金泉(北から) | |
| | 2 7 Cトレンチ 雑物群(北東から) | 2 3 B-1トレンチ 建物17(北から) | |
| | 3 3 B-1トレンチ 構列8(西から) | 3 3 B-1トレンチ 構列8(西から) | |
| 図版5 | 7 Cトレンチ | 図版13 | 3 B-1トレンチ |
| | 1 7 Cトレンチ北西側 金泉(北東から) | 1 3 B-1トレンチ西側 全壁(北東から) | |
| | 2 7 Cトレンチ北西側 金泉(北から) | 2 3 B-1トレンチ ビット31 断面(東から) | |
| | 3 7 Cトレンチ南側部 金泉(北から) | 3 3 B-1トレンチ ビット20 断面(西から) | |
| 図版6 | 7 Cトレンチ | 4 3 B-1トレンチ ビット19 断面(西から) | |
| | 1 7 Cトレンチ南側部 全壁(東から) | 5 3 B-1トレンチ ビット66 荏原山土状況(東から) | |
| | 2 7 Cトレンチ 建物11、12(東から) | 6 3 B-1トレンチ ビット66 荏原山土状況(北から) | |
| | 3 7 Cトレンチ 建物1(北西から) | 7 3 B-1トレンチ 溝46 断面(東から) | |
| 図版7 | 7 Cトレンチ | 8 3 B-1トレンチ 溝47 断面(東から) | |
| | 1 7 Cトレンチ 建物2(南西から) | 図版14 | 3 B-1トレンチ |
| | 2 7 Cトレンチ 建物3(南東から) | 1 3 B-1トレンチ 新断面(南から) | |
| | 3 7 Cトレンチ 建物4(南から) | 2 3 B-1トレンチ 新断面A(北から) | |
| 図版8 | 7 Cトレンチ | 3 3 B-1トレンチ 新断面B(西から) | |
| | 1 7 Cトレンチ 建物5(東から) | 図版15 | 3 B-2トレンチ |
| | 2 7 Cトレンチ 建物6(東から) | 1 3 B-2トレンチ 金泉(北西から) | |
| | 3 7 Cトレンチ 建物8(東から) | 2 3 B-2トレンチ ビット6 土師器出土状況 | |
| 図版9 | 7 Cトレンチ | 3 3 B-2トレンチ 土坑29 ヤヌカイト出土状況(南西から) | |
| | 1 7 Cトレンチ ビット183 土師器出土状況(南東から) | 4 3 B-2トレンチ 溝1 断面(東から) | |
| | 2 7 Cトレンチ ビット183 土師器出土状況(南東から) | 5 3 B-2トレンチ 溝1 痕跡部出土状況(東から) | |
| | 3 7 Cトレンチ 土坑318 荏原山土状況 | 図版16 | 7 Cトレンチ 出土遺物 |
| | 4 7 Cトレンチ ビット23 荏原山土状況(南東から) | 図版17 | 8 C、7 C、6 C-1、3 B-1トレンチ 出土遺物 |
| | 5 7 Cトレンチ ビット39 断面(北東から) | 図版18 | 3 Bトレンチ 州土遺物 |
| | 6 7 Cトレンチ ビット323 断面(東から) | 図版19 | 3 B-2トレンチ 出土遺物 |
| | 7 7 Cトレンチ ビット243 断面(北から) | 図版20 | 州土瓦類 |
| | 8 7 Cトレンチ ビット242 断面(北から) | 図版21 | 出土石器 |

第1章 調査に至る経過

今回の調査は南阪奈道路建設に伴って行われた。南阪奈道路は大阪府南河内郡美原町丹上の美原ジャンクションで近畿自動車道松原郡智勝浦線と接続し、南河内地域を横断し、奈良県北葛城郡新庄町弁之庄で国道165号線に接続する自動車専用道路である。高速自動車道の近畿自動車道と連絡することにより、広域および地域間交通を処理し、交通流動の円滑化を促し、都市機能の向上に資することを目的としている。道路建設予定地は、多くの遺跡や、遺物散布地が存在しており、発掘調査が行われている。

今回の調査地は羽曳野市飛鳥に所在している。周辺は、1985年に羽曳野市駒ヶ谷地区の地域振興、整備に先立って羽曳野市教育委員会によって分布調査が行われた。さらに、1989年に羽曳野市教育委員会が中心となって「駒ヶ谷遺跡調査会」が組織され、試掘調査が行われている。その結果、この地域では、広域に遺跡が分布していることが明らかになった。

この成果に基づき、財団法人大阪府文化財調査研究センター（現、財団法人大阪府文化財センター）が1996年以降、南阪奈道路の建設に伴って、これまで二次の発掘調査を行っている。調査を実施していくにあたって、従来、飛鳥第1・第2散布地、駒ヶ谷第2散布地として掌握されていた範囲も、周知の「駒ヶ谷遺跡」の範囲に含むことが、大阪府教育委員会、羽曳野市教育委員会の協議により定められた。



1996・1997年の調査では古墳時代後期の前方後円墳、古代～中世の建物群が検出された。この新規に見発された前方後円墳は、小字名を冠して「蔵塚古墳」と呼称されることになった。

1999・2000年の調査は弥生時代後期～古墳時代初頭の竪穴式住居や古代の掘立柱建物が検出されている。

これまでの調査については、それぞれ発掘調査報告書が刊行されている。

今回の調査は当センターが大阪府教育委員会の指導の下に建設省近畿地方整備局大阪国道工事事務所からの委託を受け、一般国道165号南阪奈道路 駒ヶ谷遺跡発掘調査その4、として行った。調査期間は平成14年4月～平成15年3月である。

調査地は1996・1997年度調査の未調査地にあたり、古代の建物群の広がり予想された。現地調査は平成14年6月～10月にかけて行い、竪柱建物を含む掘立柱建物の広がり確認された。その後11月～3月にかけて、整理作業を行い、平成15年3月本書の刊行をもって事業を終える。

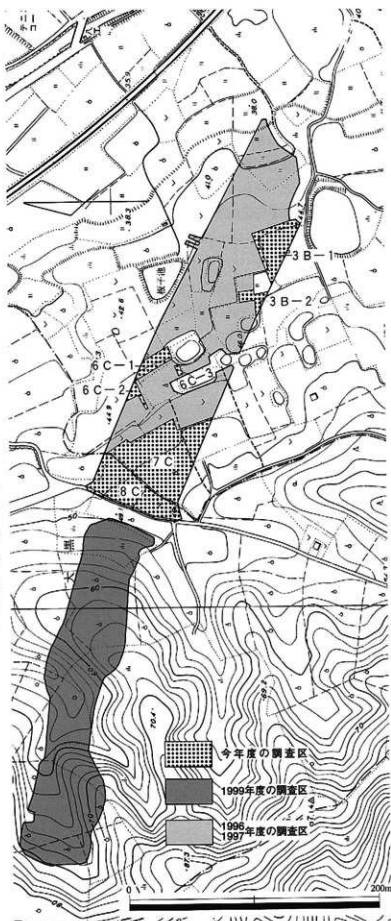


図2 トレンチ配置図

第2章 位置と環境

第1節 遺跡をとりまく環境

(1) 地理的環境

駒ヶ谷遺跡は二上山西麓、羽曳野市の東南部である駒ヶ谷・大黒・飛鳥に位置し、太子町に隣接する。当遺跡周辺の地形分類等は、原秀禎氏により空中写真の判読及び現地踏査から詳細な分析がされ¹⁾、周辺の既往の報告書²⁾でも氏の論考を基に駒ヶ谷周辺のミクロな地形分類を行っている。以下、これらと図3を参考にしながらややマクロな地域に視野を広げ、石川流域での地理的環境を捉えたい。

石川は羽曳野市の中央を南から北に貫流し大和川に合流する。石川右岸には標高約25～150mの玉手山丘陵、左岸には標高約50～100mの羽曳野丘陵が南北に連なる。丘陵と石川の間には、丘陵から派生した、あるいは石川によって形成された低位段丘・中位段丘や氾濫原などが広がり、標高は約14～50mを測る。駒ヶ谷遺跡は丘陵頂部にも広がるが、今回の調査地は石川と飛鳥川に挟まれた標高約35～90mの大黒丘陵のなだらかな北東斜面の発達した下位段丘、ないしは飛鳥川に向かい樹枝状に侵食した開析谷上に立地する。その標高は概ね48m±1mを測り、調査地の南西側と北東側では大体2mの比高差が生じている。また当遺跡周辺には丘陵を侵食する開析谷内を堰き止めた溜池が多く、周辺の地形を見渡しても当調査地が比較的平坦な地であり、集落形成し易かった地勢が読み取れる。

駒ヶ谷遺跡の東方、玉手山丘陵の東側の二上山周辺は良質な石材の宝庫であり、かつてより頻繁に活用されてきた。旧石器～弥生時代にかけて石器の原材となったサヌカイトや、横穴式石室や石棺、寺院等基壇、五輪塔を始めとする中世石造物など様々な用途の石材となった凝灰岩などがそれである。また現代においてもザクロ石は金剛砂と呼ばれ、良質な研磨材として採掘されている。飛鳥川流域は金剛砂の一大産地であり、当遺跡周辺はその採掘により深く掘削された所も多い。

(2) 歴史的環境

石川流域の歴史的環境においても当遺跡周辺の既往の報告書で弥生時代～飛鳥・奈良時代を詳論しているのので、ここでは広域かつ通史的流れの中で遺跡を概観する。

旧石器時代 石川流域は二上山が近くサヌカイトを入手し易い。羽曳野丘陵北側の国府台地やその縁辺を中心に遺構を伴わないものも含め、多くの遺跡がある。特に国府遺跡は「国府型」ナイフ形石器の名祖遺跡として知られる。また遺構を伴う遺跡としては、住居跡やナイフ形石器の素材の盤状剥片を発見したはさみ山遺跡や良好なユニットを確認した西大井遺跡、石器製作跡の翠鳥園遺跡などがある。

縄文時代 まだ明確な遺構を検出した遺跡は少ない。前期では国府遺跡で当該期の土器を伴った埋葬人骨を発見している。後期では林遺跡では埋蔵や住居跡を検出した。また西浦東遺跡では屋外炉などの検討からキャンプサイトの可能性を示唆する。東阪田遺跡では後～晩期の遺物が出土し、晩期には土師の里遺跡で住居跡や土器棺墓や「船橋式」の突帯文土器の標式遺跡で名高い船橋遺跡が成立する。

弥生時代 前期の遺跡は国府遺跡・西大井遺跡・船橋遺跡・土師の里遺跡など大和川と石川の合流する左岸域に多く広がるが、東阪田遺跡・駒ヶ谷遺跡でも確認している。これらの遺跡の大半では、前期中段階のものも僅かにみられるが新段階を中心とした遺物出土のみであり、遺構は国府遺跡で土器棺墓を確認したにすぎない。中期前葉に遺跡数は若干増加するが、遺構の検出は国府遺跡と喜志遺跡に限ら

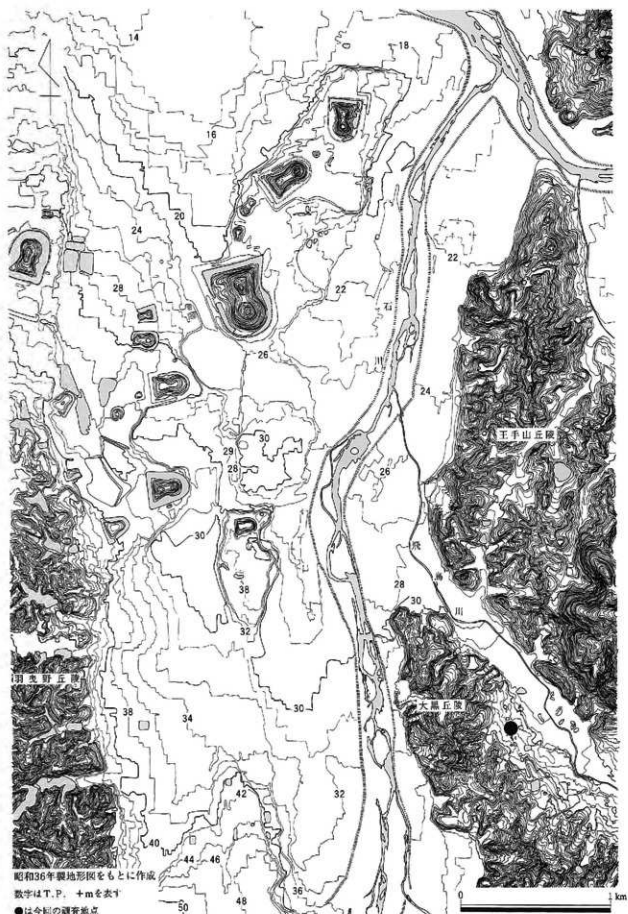


図3 周辺の地形図

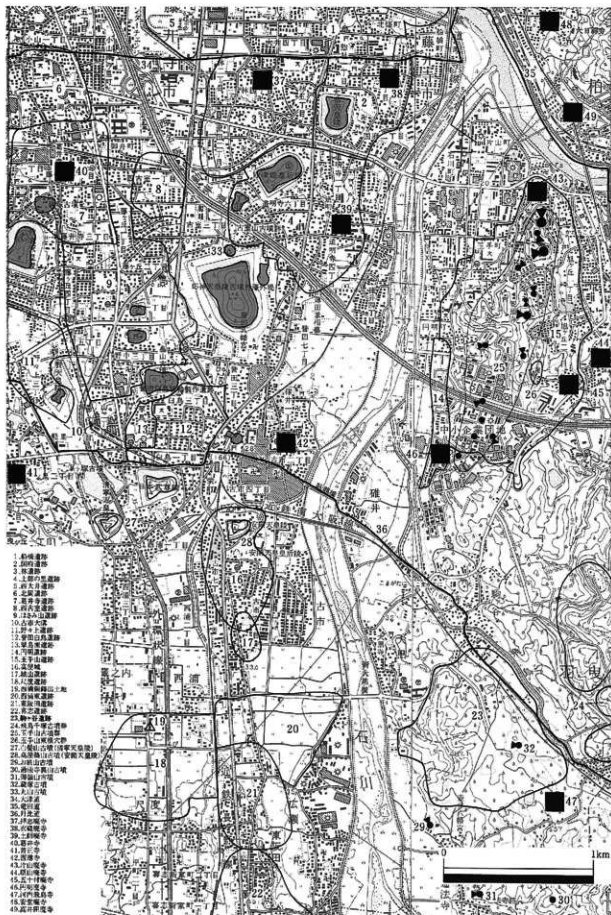


図4 周辺の遺跡分布図

れる。この地域には前期～中期前葉を通して遺構が伴わず遺物のみ出土する傾向がみられ、付近に集落の存在は窺えるものの詳細を把握するに至っていない。

中期後葉～後期にかけ石川左岸域を中心に遺跡数は急増する。中期には国府遺跡・喜志遺跡の他、船橋遺跡・喜志西遺跡・中野遺跡・城山遺跡などに集落が展開し、喜志遺跡・中野遺跡・城山遺跡では石器製作が窺える。後期になると中期までの低位段丘上の遺跡が衰退し、新たに丘陵上に石曳遺跡・高屋城跡・尺度遺跡・玉手山遺跡・駒ヶ谷遺跡などの集落を形成する。しかし後期後葉から続く堅穴住居群を検出した尺度遺跡や駒ヶ谷遺跡のように庄内式期まで継続する集落は少なく、集落の大半は後期中に終焉を迎える。また西浦銅鐸出土地では突線紐期の銅鐸を発見している。

古墳時代 古墳時代初頭（庄内式期）になると丘陵上の集落は衰退し、船橋遺跡・西大井遺跡・尺度遺跡・東阪田遺跡・駒ヶ谷遺跡など再び低地～段丘上に集落形成する。古墳時代前期（布留式期）もまた庄内式期から引き続いて同様の集落の立地条件を踏襲し、東阪田遺跡・喜志遺跡などに展開するが、これらの集落は古墳時代中期に継続しないものが多い。

古墳時代中期の集落としては土師の里遺跡・林遺跡・小山遺跡・はさみ山遺跡などが挙げられる。

一方、古墳は玉手山丘陵上や石川と羽曳野丘陵から国府台地を中心に形成される。古墳時代前期の玉手山古墳群や古墳時代中期の古市古墳群がそれである。前方後円墳を中心とする玉手山古墳群は数群に細分でき、その東方には松岳山古墳群が造営される。大黒丘陵の西側にも詳細不明の丸山古墳・通法寺裏山古墳や、粘土椀や仿製三角縁神獸鏡・小型仿製鏡の出土したお旅山古墳などの前方後円墳が営まれる。中期からの玉手山古墳群の衰退に伴い、入れ替わって津堂城山古墳から始まる古市古墳群が築造される。大王墓と隠される大型前方後円墳の周囲に陪塚が継続する。また古墳の大きさは400mを越えるものから10mに満たないものまで様々で、その数は約100基を有す。

古市古墳群内では土師の里遺跡や誉田白鳥遺跡・野々上遺跡で埴輪焼成窯を確認し、埴輪製作集団の存在も知られる。この古市古墳群の間を通る古市大溝は5世紀代の掘削とされるが、近年では耕地開発に伴う7世紀代の掘削とする説が有力となりつつある。

また駒ヶ谷遺跡内に存在する塚家古墳は、古市古墳群南群の白髪山古墳（伝 清寧天皇陵）や高屋築山古墳（伝 安閑天皇陵）などの前方後円墳と同時期の築造であるが、古市古墳群とは別系統と考えられる。

古墳時代後期になると平尾山古墳群や飛鳥千塚古墳群など、多くの横穴石室主体の群集墳が形成される。この地域の群集墳はミニチュア炊飯具を埋葬する例が多く、渡来人との密接な関係が窺える。更に玉手山東横穴群・高井田横穴群などの横穴群のほか、横口式石椁を埋葬施設とする終末期古墳も急増する。駒ヶ谷遺跡周辺には鉢伏山西南麓のオウコ古墳群や仏教との関連を窺わせる御嶺山古墳があり、図4よりも東南方向に広がる鏡長谷（別称「王陵の谷」）には田須谷古墳群や多く天皇陵がある。

飛鳥時代～平安時代前期 飛鳥～奈良時代の集落遺跡としては国府遺跡・北岡遺跡・小山遺跡・津堂遺跡・林遺跡・土師の里遺跡・葛井寺遺跡・はさみ山遺跡・西古室遺跡・駒ヶ谷遺跡などがある。

飛鳥時代以降官道が整備され、難波宮と飛鳥とを繋ぐ丹比道や大津道・竜田道などがこの地域を横断する。大化の改新以降行われてきた律令体制の確立・整備と共に郡郷里制が発展し、石川流域には安宿郡・古市郡・石川郡・丹比郡・志紀郡などが成立した。河内国府の所在は明らかではないが、その候補地として国府遺跡・船橋遺跡・はさみ山遺跡などがある。はさみ山遺跡では飛鳥時代からの大型掘立柱建物群を検出し、官衙的施設の可能性も問われている。

駒ヶ谷遺跡は安宿郡賀美郷に属す。『和名抄』に拠れば安宿郡は賀美郷〔飛鳥川両岸域〕のほか、資

母郷〔玉手山丘陵並びにその石川右岸〕、奈加郷〔天平20(748)年以降に尾張郷と改称、玉手山丘陵北側域〕から成る。なお文献によっては奈加・資母郷の比定域を逆転して捉えるものもある²⁾。安宿郡衙については、墨書土器「郡田」「安宿寺」の出土から玉手山丘陵上の円明遺跡が推定されるが、資母郷に属す事からその所在を賀美郷に求める説もある⁴⁾。しかし、一般的に郷名の賀美・資母はある河川(今回は石川)などの上流か下流かといった理由での付与が多く、郷の序列を意味しない。ところで当遺跡で検出した8~9世紀の掘立柱建物群は、周辺域に比べ緩斜面のやや開けた、飛鳥川の氾濫を受けない安定した段丘面に展開する(図3)。丹比道を眼下におき、東は磯長谷に至る谷への入口までも眺望し得るその立地条件は交通の要所としての意味合いが強い。その様な観点からみれば西側に隣接する古市郡の厨を連想させる「古厨」の墨書土器は、官術的饗応施設の存在の可能性を示唆するのであろうか。

さて南河内地域には飛鳥~奈良時代にかけて30寺以上の古代寺院が密集し造営されている。石川流域に限っても、左岸方向に津堂廃寺・船橋廃寺・大井廃寺・押志廃寺・衣縫廃寺・土師寺・葛井寺・野中寺・善正寺・西珠寺や、右岸方向に片山廃寺・田辺廃寺・原山廃寺・五十村廢寺・円明廢寺・河内飛鳥寺など多数存在する。これらの古代寺院はその大半が7世紀代建立の渡来系氏族寺院といったこの地域独特の特徴を持ち、多くが古代官道沿いに面す。また玉手山丘陵を越え、更に図4を東方に進んだ竜田道と大和川沿いの地には河内国分寺や聖武天皇の竹原井頓宮と推定される青谷遺跡も存在する。

なお平安時代の集落は、船橋遺跡・はさみ山遺跡・葛井寺遺跡・駒ヶ谷遺跡が奈良時代より継続し、平安時代前期にかけて多くみられる。しかしながら中期以降は、前時代と比べ縮小傾向をみせている。

註

- 1) 原秀楨 1992 「羽曳野市駒ヶ谷地区周辺地域の地形分類」(引用・参考文献3所収)
- 2) 引用・参考文献7・10・11 以下、本文中で同様に表記しているところではこれら3文献を指す。
- 3) 柏原市史編纂委員会1973・1975 『柏原市史』第2巻木編Ⅰ・第4巻史料編Ⅰ、平凡社 1986 『大阪府の地名』
- 4) 羽曳野市教育委員会 1975 『河内の古代遺跡と渡来氏族』

引用・参考文献

- 1 羽曳野市教育委員会 1986 『羽曳野市 駒ヶ谷地区 埋蔵文化財分布調査概報』
- 2 駒ヶ谷遺跡調査会 1990 『平成元年度 羽曳野市駒ヶ谷地区埋蔵文化財調査概要』
- 3 羽曳野市教育委員会 1992 『羽曳野市駒ヶ谷地区埋蔵文化財試掘調査報告書』
- 4 羽曳野市史編纂委員会 1994 『羽曳野市史』第3巻 史料編Ⅰ
- 5 藤井寺市史編さん委員会 1986 『藤井寺市史』第3巻 史料編
- 6 (財)大阪府文化財調査研究センター 1998 『船橋遺跡』
- 7 (財)大阪府文化財調査研究センター 1998 『磯塚古墳』
- 8 (財)大阪府文化財調査研究センター 1999 『尺度遺跡Ⅰ』
- 9 (財)大阪府文化財調査研究センター 1999 『田須谷古墳群』
- 10 (財)大阪府文化財調査研究センター 1999 『駒ヶ谷遺跡』
- 11 (財)大阪府文化財調査研究センター 2002 『駒ヶ谷遺跡Ⅱ』
- 12 (財)大阪府文化財調査研究センター 2002 『西浦東遺跡』
- 13 古代を考える会 1976 『古代を考える7 玉手山遺跡の検討』
- 14 古代を考える会 1977 『古代を考える10 河内国府と国分寺址の検討』
- 15 鍋島隆宏 2000 『南河内・石川流域における弥生後期の集落動向』 『古代文化』52・7 (財)古代学協会

第2節 既往の調査

駒ヶ谷遺跡周辺では1970・1971年に大阪府教育委員会によって、近飛鳥遺跡分布調査が行われており、1985年、羽曳野市教育委員会によって、南部丘陵部分の埋蔵文化財分布調査が行われた。その後、1989年度～1990年度にかけて、「駒ヶ谷遺跡調査会」によって試掘調査が行われ（以下試掘調査といった場合これを示す）、その後、南阪奈道路の建設に伴って、財団法人大阪府文化財調査研究センター（現、財団法人大阪府文化財センター）によって駒ヶ谷遺跡（1996、97年度、1999年度）、蔵塚古墳（1996、97年度）の調査が行われた。今回の調査地は、1996、97年度に行われた調査地と隣接している（図2）。

駒ヶ谷遺跡は石川右岸、二上山西麓に位置している。遺跡の東側は飛鳥川が北流し、石川に合流する。駒ヶ谷遺跡周辺の地形分類については前節で触れたように原秀禎氏が述べられており、また、既刊の駒ヶ谷遺跡の報告書でも原氏の論考をもとに地形分類について記載されている。飛鳥川の両岸には氾濫低地がみられる。右岸は丘陵が氾濫低地に接しており、左岸は大黒丘陵と挟まれた範囲で狭い下位段丘がみられる。段丘は氾濫低地から2～4m高く、丘陵から飛鳥川へと流れ込む開析谷によって細かく分断されている。『駒ヶ谷遺跡』の調査でも2箇所が開析谷を検出している。今回の調査地は、このような下位段丘面にあたる。現在は丘陵から段丘にかけてぶどう畑が広がっている。

ここでは既往の調査成果について簡単に述べたい。それぞれの調査では既に報告書が刊行されているので、詳細はそれを参考にされたい。なお、参考文献については、第1節を参照されたい。

弥生時代

丘陵裾部から段丘面にかけて位置する試掘No.72、58地点では多くのサマカイトの剥片や未製品が出土している。土器や、遺構は希薄ではあるが、弥生時代中期の石器製作を行っていたと考えられる。

弥生時代後期～古墳時代初頭の遺構は主に、丘陵部で検出されている。

丘陵の頂上部の平坦地では10棟の竪穴式住居が検出された（試掘No.1、2地点）。また、東側の尾根では9棟の竪穴式住居（99年度調査）が、北側の尾根では1棟の竪穴式住居が（試掘No.132地点）、確認された。南側の尾根にも住居のある可能性があり、大きく4箇所の居住域が想定できる。丘陵頂上部、南よりの地点では方形台状墓が2基確認されており（試掘No.7地点）、この集落の墓域と考えられる。

古墳時代

丘陵上では弥生時代後期の方形台状墓を利用した円墳が検出されている（試掘No.7地点）。谷筋を挟んで対面する丘陵上でも、古墳時代後期の包含層が確認され、6世紀後半頃の小規模な古墳の存在が推定されている（試掘No.118地点）。このことから、丘陵上に古墳が点在していたことが推定されている。

また、段丘面では蔵塚古墳が検出された（96、97年度）。墳長約53.5m、周濠まで含めると全長68.9mを測る6世紀中頃の前方後円墳である。調査では土囊列を用いた墳丘の築造工程が明らかになった。飛鳥川右岸には群集墳、飛鳥千塚古墳群が位置しており、その対岸に位置している蔵塚古墳が盟主墳である可能性が指摘されている。

その他、96、97年度、99年度調査では丘陵部斜面、段丘面で竪穴式住居、掘立柱建物が検出されている。特に96、97年度調査で検出した竪穴式住居からは埴輪片が多く出土しており、蔵塚古墳造営者の居住施設の可能性が考えられている。

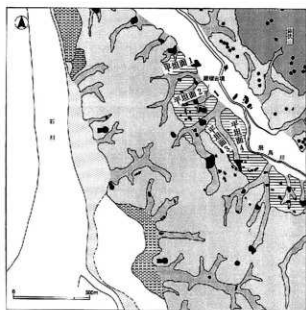


図5 駒ヶ谷遺跡周辺地形図
(文献7所収図に一部加筆)



図6 既往の調査地

飛鳥・奈良時代

古代の遺構は、段丘面と丘陵部でみられる。段丘面は先にも触れたように、開析谷によって細かく分断されており、その平坦地で7世紀～8世紀にかけての遺構が検出されている。ここでは、それぞれの平坦地を北から1～4と呼称する。

平坦面1では7世紀～8世紀と考えられる掘立柱建物、土坑等が検出された（試掘No88、79地点）。

平坦面2は96、97年度の調査で掘立柱建物をはじめとする多くの遺構が検出された。この調査では、開析谷が検出されており、平坦面は更に3つに分断される。調査では多くの掘立柱建物の他、倉庫と考えられる総柱建物、三彩や多量の製塩土器を含む井戸が検出されるなど、遺構の密度が高い。建物の時期は遺物から確定することは難しいが7世紀後半～8世紀を中心にすると考えられている。

平坦面3でも掘立柱建物、土坑などを検出している（試掘No15、16地点）。時期を確定することは困難ではあるが、7～8世紀の建物の可能性が考えられる。特筆すべき遺物として円面硯が出土している。

平坦面4は試掘調査が行われているが、金剛砂の採掘や、ぶどう畑の造成など後世の擾乱が著しい。以上のように、丘陵上では建物群を構成していることが分かる。比較的に広い範囲が調査された平坦面2では、掘立柱建物や倉庫と考えられる総柱建物、三彩の小壺、製塩土器、硯、漆塗りの土器や「古厨」と書かれた墨書土器、加工された凝灰岩などの遺物が注目できる。建物は整然と並んだ様子は見られず、また、倉庫の規模も小さい。しかしながら、このような遺物からは官衙関連の遺跡である可能性が考えられている。開析谷によって空間的に分断された狭い平坦地で、それぞれの平坦面に立地する建物群がどのように関連していたのか、古代の官道である丹比道（竹内街道）に面している点でも興味深い。

次に、丘陵上に目を向けてみると、傾斜面を整形して、古代の建物が検出されている。石川に面する西向き斜面地（試掘No142）では7世紀の掘立柱建物が検出されている。また飛鳥川に面する東側斜面でも多くの掘立柱建物が検出された（99年度調査）。建物の時期は古墳時代後期～奈良時代と考えられ、時期の限定は難しいものの、古代の建物が多くを占めていると考えられる。いずれも、等高線が込み入った傾斜地に築かれており、斜面側の柱穴は検出されていないものが多い。また北側では、尾根の突端部の狭い平坦地で掘立柱建物が検出されている（試掘No127地点）。これら丘陵上の調査では、鉄製品、鉄滓、羽口等が出土しており、99年度の調査では焼土坑が検出されている。工房的性格の強いものと考えられ、段丘上の建物とは密接な関係をもった、性格を異にする住居群と考えられよう。

平安時代、中世

この時期の遺構は古代の立地と大きく変えることはないと考えられ、段丘面を中心に建物のみられる。

平坦地2では、掘立柱建物、井戸、溝などがみられる。蔵塚古墳の墳丘上にも9世紀中頃～後頃の掘立柱建物がみられる。建物は区画溝を伴っており、邸宅的な性格を持つものと考えられている。流路内からは「大林宅」と書かれた墨書土器が出土している。その後、掘立柱建物がみられるのは、12世紀～13世紀で、井戸等の遺構のみられる（96年度調査）。

平坦地3では、特筆すべき点は基壇痕跡が確認されていることである（試掘No15地点）。平安時代後期の軒瓦が出土しており、その時期に創建された小規模な寺院があったと考えられる。また、周辺では同時期と考えられる掘立柱建物がみられた。河内飛鳥寺推定地に近接しているものの、古代の寺院に関連する遺構、遺物の出土は見られない。

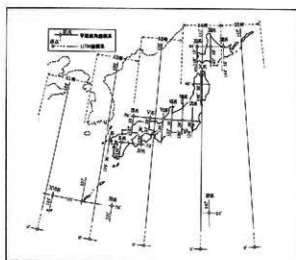
丘陵上では、南側の斜面地で掘立柱建物及び、平安時代後期の瓦竈関連遺構を検出している（試掘No83地点）。

第3章 調査の成果

第1節 調査の方法

地区割 今回の調査は1996、97年度に行った駒ヶ谷遺跡の発掘調査の未調査地にあたる。そのため、新測地系で行うべきであったが、前回の調査との関係上、旧来の日本測地系による測量を行っている。96、97年度の調査では、地区割については、当センターの前身である（財）大阪文化財センターが制定した「遺跡調査基本マニュアル」（財団法人大阪文化財センター 1988）に準じて設定している。

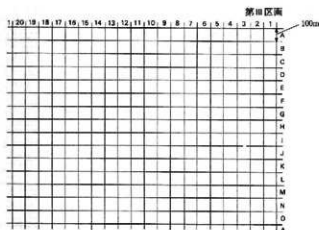
国土座標軸（第Ⅵ座標系）を基準線とし、大阪府全域を6段階で区画を設定している。第Ⅰ区画は、1万分の1地形図の地区割図を利用したもので、縦6km、横8kmが1区画となる（1万分の1地形図1枚分が1区画となる）。南西端を基点として縦軸A～O、横軸0～8で表す。第Ⅱ区画は、2500分の1地形図の地区割をそのまま利用する。第Ⅰ区画を縦、横各4分割、計16分割する。縦1.5km、横2.0kmが1区画となる（2500分の1地形図1枚分が1区画となる）。南西端を1とし、北東端を16とする東方向への平行式の地区名表示である。第Ⅲ区画は、第Ⅱ区画を100m単位で縦15、横20分割する区画であ



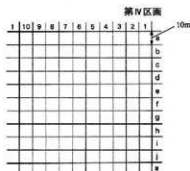
国土座標系図



第Ⅰ区画



第Ⅲ区画



第Ⅳ区画

図7 国土座標とそれに伴う地区

る。北東端を基点として、縦A～O、横1～20で表す。第IV区画は、第III区画を10m単位で縦、横各10分割する区画である。北東端を基点として、縦a～j、横1～10で表す。

本来であれば、遺物の取り上げなどもこのグリットに従うべきではあるが、今回の調査では、包含層が非常に希薄であり、遺物の出土も少なかったため、遺物の取り上げはグリットを使用していない。

各遺構図に示した座標値は上記の国土座標に準拠している。

方位 方位は地区割を国土座標に準じていることから、座標北をもって表示する。

水準 水準は東京湾平均海面（T.P.）を使用している。

測量 今回の調査ではヘリコプターを用いた空中測量を行い、50分の1の平面図、遺構図とそれを縮小編纂した100分の1図を作成した。その他、状況にあわせて、実測図を作成している。

調査区 今回の調査は7トレンチに分かれている。8Cトレンチ、7Cトレンチについては2分割して調査を行った。各トレンチのアルファベットは現地地形に合わせて設定しており、96、97年度の地区割に準拠している。図2を参照されたい。

遺構番号 遺構番号については遺構の種別に関わらず1から通し番号を付している。本書ではその番号の前に遺構名を付した。この番号は基本的に調査時の番号と同一である。但し、掘立柱建物、横列については、別に1から番号をつけ直している。

遺物番号 土器番号は各図毎に1からの通し番号をふっており、図●●と表記する。なお、この番号は、本文、表、図版の土器番号に対応する。

観察表 巻末に遺物、ピット、掘立柱建物について、観察事項を一覧表にして掲載した。各項目については、巻末に記載している。



図8 地区割設定図

第2節 基本層序

駒ヶ谷遺跡は先述のように石川右岸、二上山西麓に位置している。遺跡の東側を北流する飛鳥川の両岸には氾濫低地がみられ、右岸は丘陵が氾濫低地に接しており、左岸は大黒丘陵までの狭い範囲に下位段丘がみられる。段丘は氾濫低地から2～4m高く、丘陵から飛鳥川へと流れ込む開析谷によって細かく分断されている。今回の調査地は、このような下位段丘面にあたる。

調査地は南西から北東に向かって傾斜しており、ぶどう畑として利用されている。畑に伴う溝はこの傾斜に平行あるいは直行している。また、調査地の中央には開析谷がみられ、溜池として利用されており、現代の土地利用も旧地形をある程度、反映していることが分かる。今回の調査区は、96、97年度調査の未調査地であり、細かく分かれている。そのため、共通した土層の把握は困難であった。ここでは各トレンチについて土層の堆積状況について述べる。全体に包含層は薄く、表土除去面で基盤層に至る。

8Cトレンチ

8Cトレンチは、北側と南側で標高46.8m～49mと約2mの比高差をもつ。

0層 表土（耕作土）（ぶどう畑に伴う）

1層 耕作土

2層 にぶい黄褐色粗砂～礫混シルト 2層は調査区の南側で確認。

3層 西2/3は開析谷にあたり、砂層の堆積がみられる。

7Cトレンチ

7Cトレンチは8Cトレンチ東側と同様である。西側では2層がみられるが、東側では耕作土除去面でベースに至る。ベースは一定せず、サヌカイトを多く含む礫を主体とする部分と、黄色砂混シルトを主体とする部分、マンガンの沈着が多い明黄褐色シルトがみられる。

6Cトレンチ

6Cトレンチは開析谷の西側に位置し、標高43.5～44.0mである。ベース面は東の谷に向かって傾斜する（図40）。また北側は、溜池がみられる。

0層 表土（耕作土）

1層 耕作土

2層 整地層（黄褐色中細砂）

3層 オリーブ褐色粗砂混シルト

3B-1トレンチ

標高43.8m～44.6mの平坦地である。調査区の東端で大きく段差をもち比高差0.5mを測る。

0層 表土（耕作土）

1層 耕作土、床土

2層 耕作土、斜面整地層

3層 褐色中細砂

3B-2トレンチ

標高45.4m。北西に向かって緩やかに傾斜する。調査区の東、北側は溜池として利用されている。

0層 表土（耕作土、整地層）

1層 にぶい黄褐色砂質シルト

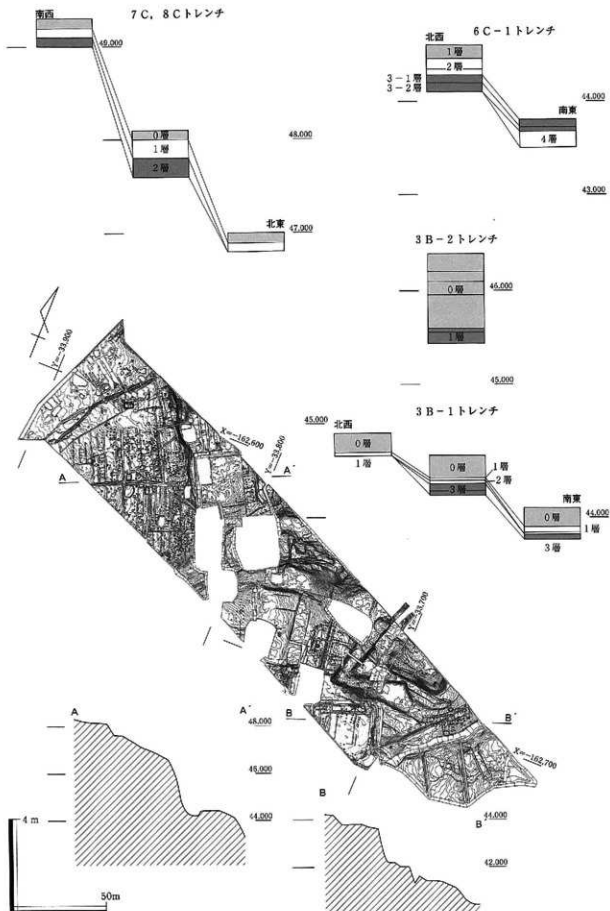


図9 調査区断面模式図

第3節 調査の概要

各トレンチごとに調査の概要を述べることにする。

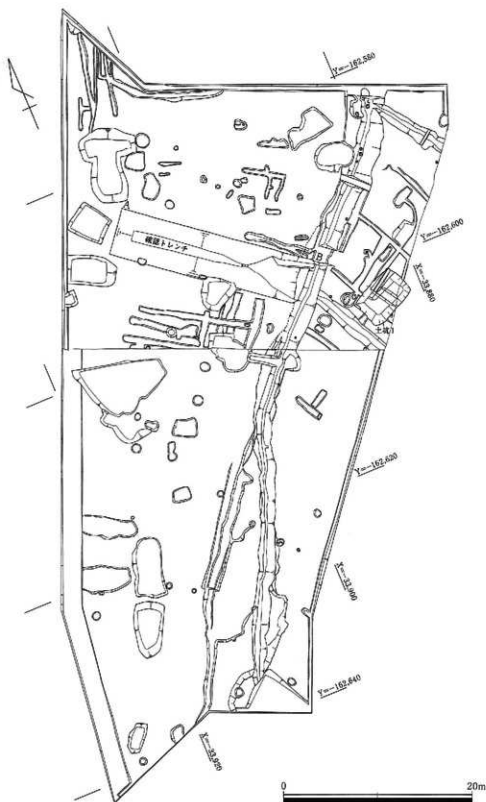
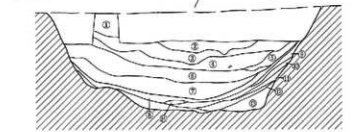
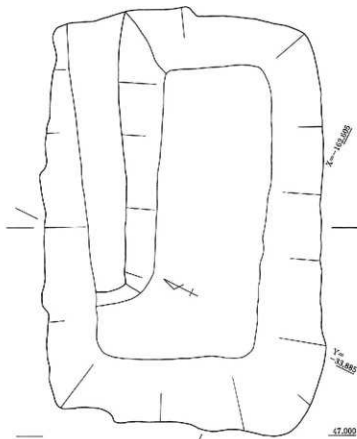


図10 8Cトレンチ 遺構配置図

第1項 8Cトレンチ



0 2m

| | | | |
|---|---------|-------|---------------------------------------|
| ① | 10YR7/4 | にんい黄壤 | 遺跡じり砂 (5cm前後の層多く含む) |
| ② | 10YR7/6 | 物質土 | 小礫 (0.5-1cm) 混じり砂 (5cm前後の地山ブロック状多く含む) |
| ③ | 10YR7/3 | にんい黄壤 | 物質土 (混じり砂含む。地山ブロック状が②より少ない、黄赤む) |
| ④ | 10YR7/8 | 黄壤 | 細砂 (地山ブロック状多く含む、黄赤む) |
| ⑤ | 2.5Y7/6 | 粘黄壤 | 細砂 (0.1-0.3mmの層含む、黄赤むにグライ化) |
| ⑥ | 2.5Y7/2 | 赤土 | 細砂 (粘土が0.5-1cmの層含む、グライ化) |
| ⑦ | 2.5Y6/2 | 赤黄 | 粘砂混じりシルト (粘性有り、グライ化) |
| ⑧ | 2.5Y6/4 | 赤 | 粘質土 (グライ化) |
| ⑨ | 2.5Y6/2 | 赤黄 | 粘砂混じりシルト (粘性有り) |
| ⑩ | 5YR6/4 | 赤 | 粘質土 (グライ化) ⑧と同じ |
| ⑪ | 5YR6/2 | 赤黄 | 粘砂混じりシルト (粘性有り) ⑧と同じ |
| ⑫ | 2.5Y6/2 | 赤黄 | 粘質土 (グライ化) ⑧と同じ |
| ⑬ | 5YR6/3 | 赤黄 | 粘砂混じりシルト (粘性有り、粘性のあるシルト層状に含む) ⑧と同じ |
| ⑭ | 2.5Y6/2 | 赤黄 | 粘砂 (シルト含む) |

図11 土坑1 平・断面図

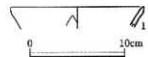


図12 土坑1 出土遺物

地形は地表面からベース面まで一貫して南西から北東に傾斜し、その高低差はおおよそ2.5mである。表土、及び耕作土を除去すると、調査区の北東側では基盤層に至る。調査区南東側ではにんい黄橙色粗砂～雑泥じりシルト層がみられる。2層として掘削したが遺物は全く含まなかった。調査区の東側1/3より西側は谷状の地形を呈し、谷の埋土である砂層が広がる。ぶどう畑、及び耕作に伴う溝がみられる他は、遺構は非常に希薄である。また、現代の擾乱が著しくみられた。谷地形の肩に沿う形でぶどう畑を区画する溝がみられた。溝は直線的ではなく、やや弧状を呈している。調査区の南隅はもともと池であった部分を埋めて耕地として利用している。その他、方形の土坑を1基確認した。

土坑1 (図11、図版3-4、5)

(遺物 図12-1、図版17)

調査区の東端で土坑を検出した。土坑は一部7Cトレンチにのびているが、ここであわせて述べる。土坑は5.5m×3.6mの方形を呈し、深さ1.3mを測る。北辺部に西に向かって傾斜するスロープを持つ。埋土は大きく2層に分かれる。上層(①～⑥)は地山ブロックを含む砂質土を主体とし、下層(⑦～⑭)は粘質土と粘性のある砂混じりシルトの互層である。遺物の出土は少なく、青磁碗、瓦器碗、磁器が各1点細片で出土している。近世以降の時期が考えられる。性格は不明。

図12-1は青磁碗である。外面には蓮介紋を施す。

確認トレンチ (図13、図版3-3)

調査区の東側1/3以西は谷状地形を成す。谷の落ち込み部分から谷部分にかけて確認トレンチを設定した。トレンチは幅5m (底は約0.8~1m)、深さ約2mである。谷の埋土は細~粗砂の互層であり、部分的に1.5cmまでの礫を含んでいる。ほぼ水平にラミナがみられた。堆積状況から、谷は一時に埋まったと考えられる。最上層で粘性のある細砂混じりシルトと砂の互層がみられる。一旦溝が埋まったあと部分的な窪みがあったものと考えられる。谷の肩部は僅かに土壌化層が確認できた (①~④)。谷底は2m掘削しても確認することができず、谷の肩際で更に約1m掘削を行ったが、同様に細~粗砂の互層であった。遺物は非常に希薄であり、土師器高杯片を1点確認した他遺物は出土していない。他に攪乱を掘削した際に、この砂層から、須恵器甕の体部片を1点採取している。この谷はいわゆる開析谷であって、谷の西肩は99年度の調査で確認されている。谷が埋まった時期は遺物が希薄であり不明である。

ぶどう畑を区画する南北の溝からは、図化していないが、現代~古墳時代の遺物が出土している。この溝は谷の肩に沿っており、他のトレンチも含めてぶどう畑にともなう溝が直線的であるのとは異なっている。あるいは、古代から同じ場所で溝が掘削されていた可能性も考えられる。溝は幅約2.4m、深さ約1mを測る。溝の埋土は、上層が明黄褐色細砂、中層が明黄褐色~黄褐色の細砂、下層が灰黄褐色砂質シルト。下層は地山ブロックを含んでいる。また、最下層に砂層が薄く確認できる。上、中層は明らかに現代の埋土であるが、下層はそれ以前の堆積である可能性が考えられる。

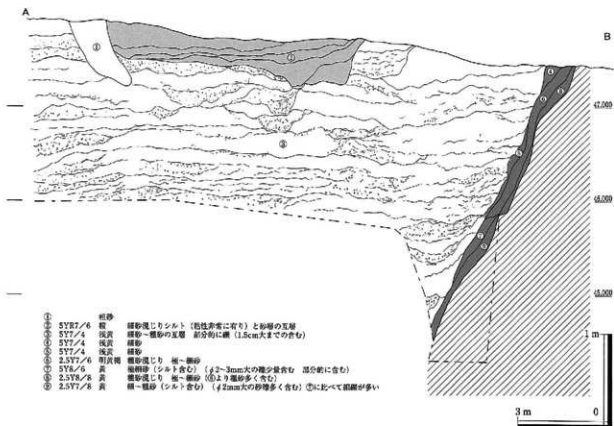


図13 谷部確認トレンチ 断面図

第2項 7Cトレンチ

7Cトレンチも8Cトレンチ同様に南西から北東に傾斜しており、比高差2.5mを測る。包含層はほとんど認められず、表土、耕作土を除去すると、基盤層に至る。調査区はぶどう畑として使用されており、基盤の傾斜に直交、あるいは平行して溝がみられる。その溝のうち、各畑を区画する大溝で分断されており、便宜状、7Cトレンチ北側部、南側部、西側部と呼称することとする（図14参照）。

7Cトレンチでは、掘立柱建物12棟、櫛列5列を検出した。その他にピット、土坑、溝を検出している。特に掘立柱建物は北側部を中心にみられた。建物は切り合いを持つこと、軸が異なっていることから、何時期かの変遷が考えられる。一方、西側部は遺構が希薄である。これは地盤が南西から北東にむかって傾斜しており、基盤の高い西側部は遺構面の削平が著しかったものと考えられる。

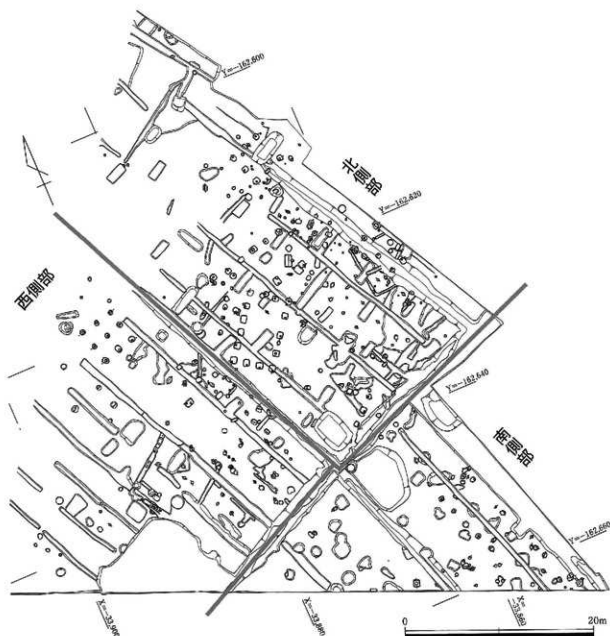


図14 7Cトレンチ 遺構配置図

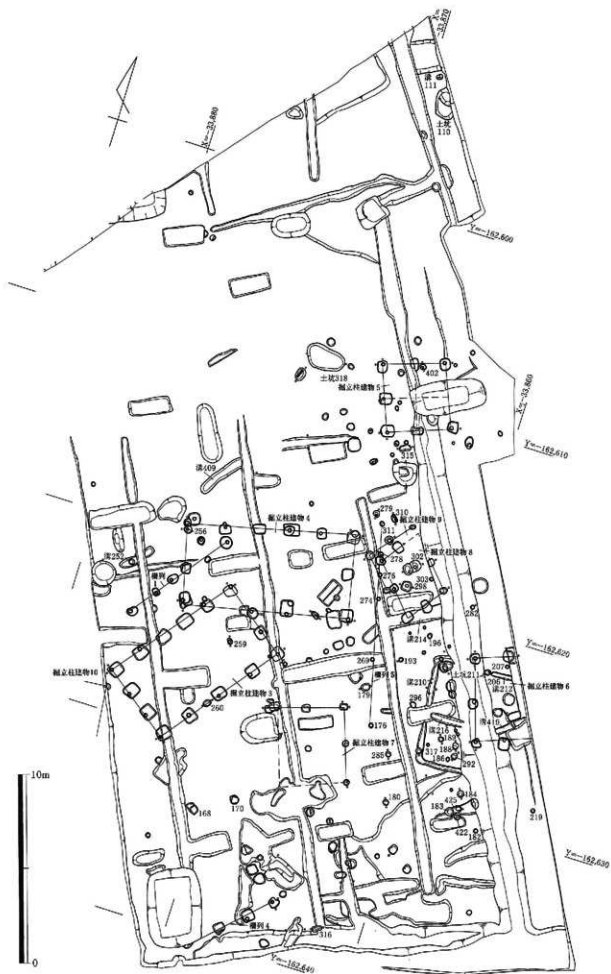


図15 7Cトレンチ北側部遺構配置図

掘立柱建物、柵列

掘立柱建物を構成するピットは隅丸方形のものと円形ものがみられる。ピット内からの遺物の出土は非常に少なく、また包含層が希薄であり、トレンチ全体にわたって遺物の出土は非常に少ない。そのため、掘立柱建物の所属時期を決定するのは困難である。7Cトレンチ全体を通して、土師器、須恵器の出土はみられたが、瓦器の出土は全く見られない。また、黑色土器はB類が1点出土したのみである。

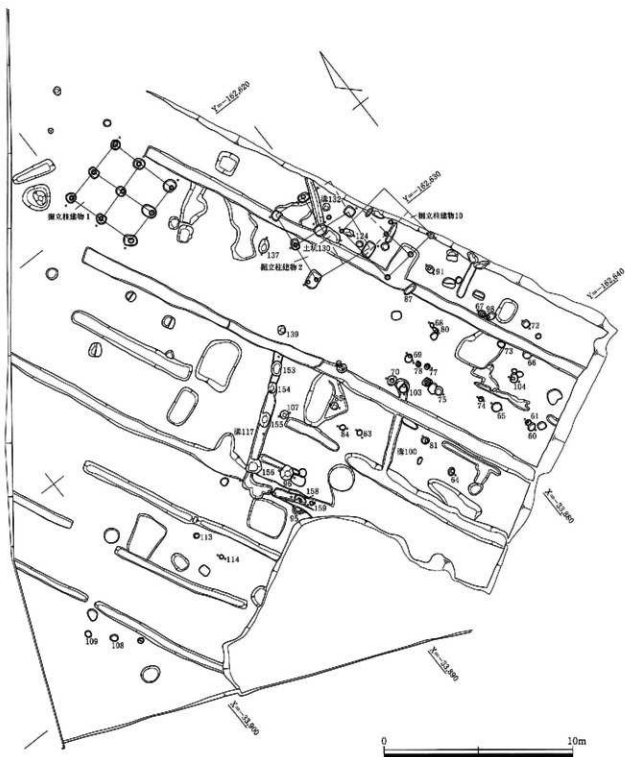


図16 7Cトレンチ 西側部遺構配置図

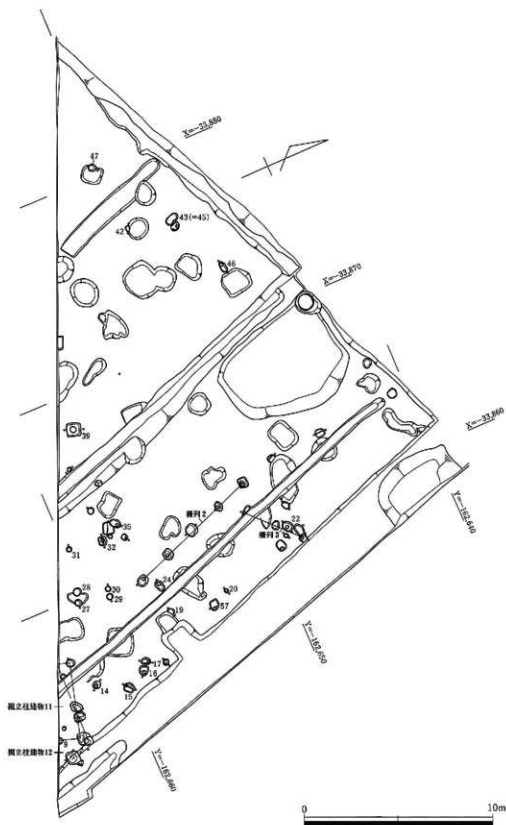


図17 7Cトレンチ 南側部遺構配置図

掘立柱建物 1 (図18、図版6-3)

西側部の8Cトレンチ側で検出した。2間×2間(3.82m×3.64m)の総柱建物である。面積は13.9㎡を測る。ピットは55cm×60cm前後の隅丸方形を呈し、深さは3cm~40cmを測る。北側は削平が著しく、約3cm残るのみであった。柱痕は直径20cmを測る。ピット146では、底部で柱痕部分に変色がみられた。埋土はにぶい黄褐色のシルト混じり細砂を主体とする。

出土遺物はなく、時期の比定は困難である。

掘立柱建物 2 (図19、図版7-1) (遺物 図37-9、12)

西側部の北よりで検出した。2間×2間(4.1m×3.3m)の総柱建物である。面積は13.53㎡を測る。ぶどう畑に伴う溝によって、2箇所ピットは検出できなかった。南片のピット135、122は60cm×95cm前後を測り、他は50cm×60cm前後の隅丸方形を呈する。深さは15cm~28cmを測る。南辺のピット135、122は他に比べて大きく、また、建物の軸に対して傾いている。このため、別の建物を構成している可能性も考えたが、周辺では対応するピットは検出されなかった。ピット135、122では柱痕が確認できた。ピット131、133、126、136では完掘後、ピット底部で柱のあたりと考えられる部分が確認できた。ピット131、136ではその部分が変色しており、柱の痕跡と考えることが出来る。これらのピットは柱が抜き取られたものと考えられる。埋土は褐色の中細砂を主体とする。

出土遺物は細片であり、図化できた遺物は図37-9、12である。9は土師器羽蓋の鐔である。12は土師器杯。口縁端部は内側に比厚する。内面は放射状の暗紋を、外面は横方向にヘラミガキを施す。7世紀後半~8世紀前半の時期が考えられる。

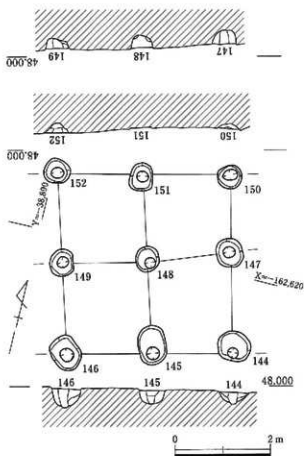


図18 掘立柱建物 1 平・断面図

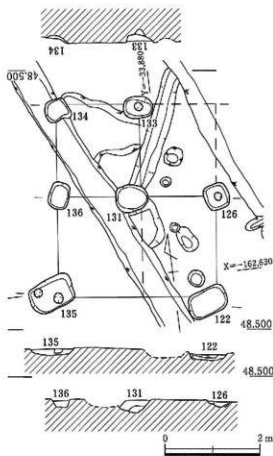


図19 掘立柱建物 2 平・断面図

掘立柱建物 3、柵列 1 (図20、図版 7-2)

北側部の中央で検出した。5間×3間 (7.66m×4.34m)、面積は33.24㎡を測る。南東側の桁は4間で、北西の桁より柱の数が少ない。北西辺のピット233、232間に南東辺ではピット225が位置している。ピットは60cm×70cmの隅丸方形を呈し、深さは3cm~36cmを測る。北東側は基盤が低く、削平が著しかったとみられ浅い。柱痕は直径15~20cmと掘方に比して小さい。また、柱痕は掘方の外側に偏る傾向が窺われた。特に南西辺、北西辺でその傾向が著しい。ピット225のように斜めに傾いた柱痕もみられた。ピット234、222では断ち割ったところでは、柱痕が掘方の底部に達していなかったが、完掘時には底部で柱のあたりが確認できる。これは柱が若干斜めになっていたためと考えられる。このような点

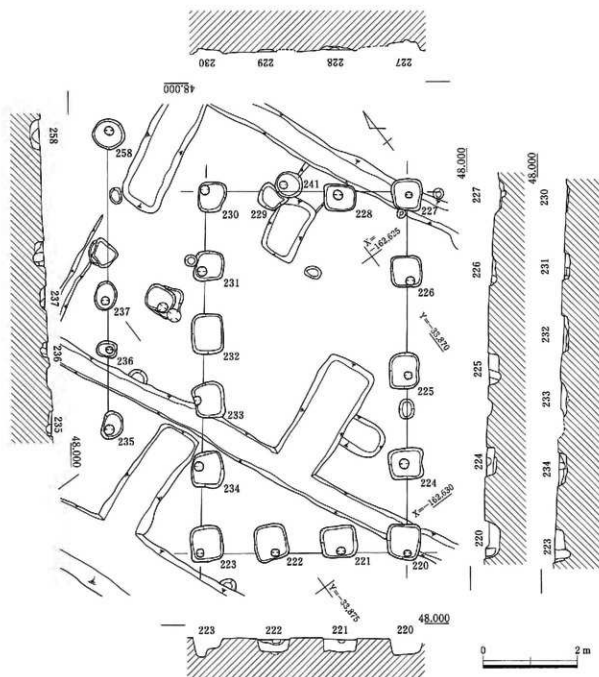


図20 掘立柱建物 3、柵列 1 平・断面図

から、本来の柱を補助するような材の痕跡である可能性も考えられた。しかし、掘方の中心部分でも一部、断ち割りを行ったが、柱の痕跡は認められなかった。ここでは、非常に小振りではあるがこの建物に伴う柱痕跡であると考えたい。埋土は明黄褐色のシルト混じり中細砂を主体とする。

掘立柱建物3の北西側には平行して横列がみられる(横列1)。掘立柱建物3に伴うものと考えられる。建物と横列間は約2.1mを測る。柱を4基確認したが、ピット258と237の柱間が広く、間にもう1基ピットがあった可能性も考えられる。ピットは直径約45cm、深さ13~25cmを測り、円形に近い。埋土は明黄褐色の中細砂を主体とする。

ピットからの遺物の出土は少なく、土師器片を僅かに含む程度であり、時期の比定は困難である。ピット229が掘立柱建物4のピット241に切られていることから、これより古い掘立柱建物である。

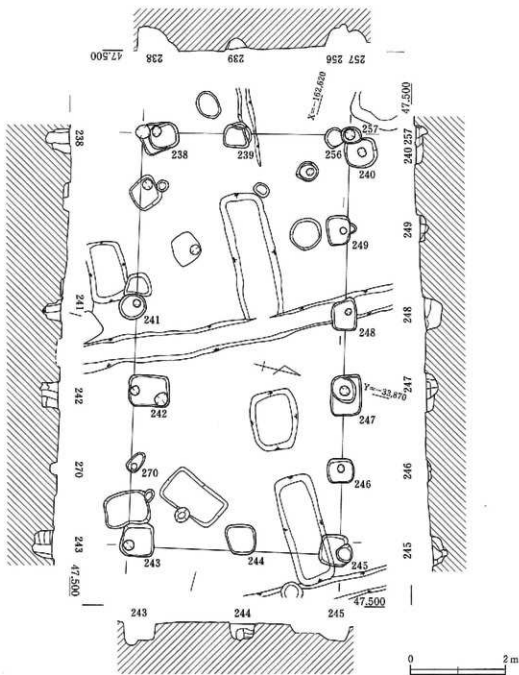


図21 掘立柱建物4 平・断面図

掘立柱建物4 (図21、24、図版7-3、9-7、8) (遺物 図37-10、11、18、21、22、図版17)

北側部の中央で検出した。掘立柱建物3を切る建物である。5間×2間(8.88m×4.5m)、面積は39.96㎡を測る。桁の柱間が掘立柱建物3と同様に異なっており、南側の辺は4間と北辺より柱が少ない。北辺のビット249に対面するビットがなく、ビット241と238の柱間が約3.6mと長い。ビットは50cm×65cm前後の隅丸方形を呈し、深さは11cm~41cmを測る。柱痕は15~20cm程度で掘方に比して小さく、掘立柱建物3と同様に掘方の外側に偏る傾向が見られ、特に南辺で著しい。また、四隅の柱は比較的柱痕が太い。南辺のビット270は他のビットに比べて非常に小さいが、掘立柱建物4を構成するビットの1つと考えた。ビット241は円形に近くビットの底部で根石がみられる。ビット245は柱痕が掘方の外側に張り出すようになっており、柱が抜き取られた結果と考えられる。ビット248は完掘時に柱のあたりが確認できた。プランでは柱痕跡は確認できず、断ち割った部分とずれてしまったため、断面では柱痕が確認できなかった。埋土はにぶい黄褐色の中細砂、暗褐色のシルト混じり細砂を主体とする。また、ビット238、256、247は切り合いが確認でき、建て直しを行った可能性が考えられる。

ビットからは土師器、須恵器片が出土した。図化できた遺物は、図37-10、11、18、21、22。しかし、いずれも非常に細片である。10は羽釜の罫である。同様な罫は他にも出土している。11は土師器壺口縁部。18は須恵器坏蓋。21は須恵器坏身で口径8.7cmと小さく、7世紀の時期を考えられる。22はビット257に切られるビット246から出土した土師器碗である。体部外面下半はヘラケズリを施す。8世紀。遺物は飛鳥時代のもも出土しているが、いずれも細片であり、時期の確定は困難である。

掘立柱建物5 (図22、図版8-1、9-6)

北側部、北東端で検出した。2間×2間(3.62m×3.44m)、面積は12.45㎡を測る。掘立によって、検出できないビットがあるが、総柱の建物と考えられる。ビットは50cm×65cm前後の隅丸方形を呈し、深さは18~45cmを測る。柱痕は20cm前後を測る。埋土は明黄褐色のシルト混じり細砂を主体とする。ビットからは遺物の出土はなく、時期の比定は困難である。

掘立柱建物6 (図23、図版8-2)

北側部で検出した。2間×2間(4.38m×3.20m)、面積は14㎡を測る。東側の辺は「駒ヶ谷遺跡」の調査で検出したビット(A、B、C)と建物を構成する。ビットは50cm×55cm前後の隅丸方形で、深さは11~42cmを測る。北側のビットが深い傾向がみられる。東西の辺に対して、南北は柱間隔が狭い。ビット199、200、202では柱痕は、掘方の端によっている。柱痕は確認されたものでは直径約15cm前後と小さい。

ビットから出土した遺物は土師器、須恵器の細片で図化できるものはない。8世紀と考えられる土師器杯(皿)片が出土している。96、97年度の掘立柱建物1(7世紀後半に推定)を構成するビット116を切ることから、これより新しい。

掘立柱建物8 (図24、図版8-3)

北側部で検出した。2間×2間(3.3m×2.5m)、面積は8.25㎡を測る。北側のビットは検出できなかった。ビットは45cm×60cm前後の隅丸方形で、深さ10~50cmを測る。北東側の辺はぶどう畑の溝の肩で検出したため、非常に浅く、プランも小さい。建物は、2間×2間ではあるが、北西-南東辺の柱間が長い。また、掘立柱建物の平面形はゆがんでおり、周辺には同様の隅丸方形のビットが多くみられ、別の復元案も考えたが建物を構成するには至らなかった。埋土は黄色のシルト混じり細砂、にぶい黄褐色の中細砂を主体とする。遺物は土師器の細片を僅かに含むのみで、時期の比定は困難である。

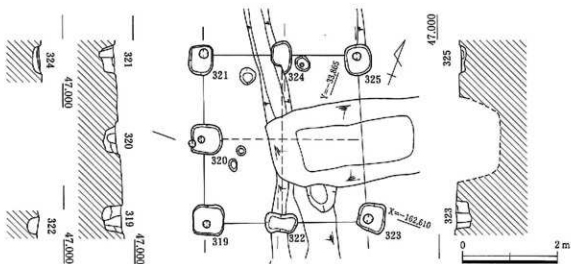


图22 掘立柱建物5 平·断面图

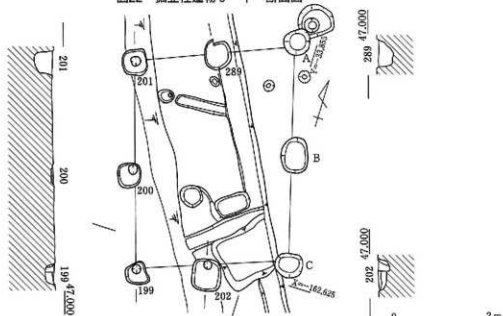


图23 掘立柱建物6 平·断面图

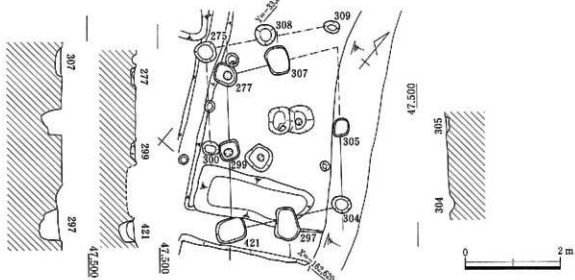


图24 掘立柱建物8 平·断面图

掘立柱建物9 (図24、図版8-3)

ピット300、275、308、309も掘立柱建物の可能性が考えられる。ピットは直径45cm前後の円形～楕円形を呈する。深さは10～30cmを測る。掘立柱建物8に平行しており、建替えと考えられる。しかし、ピットの形態が異なっており、隅丸方形というより、円形に近い。

ピットからは遺物の出土はなく、時期の比定は困難である。

掘立柱建物7 (図25)

北側部中央で検出された。ピットは攪乱によって検出されなかったものもあるが、2間×2間 (3.98m×3.46m)、と考えられる。ピットは隅丸方形に近いものもあるが、基本的に円形を呈し、直径35cm前後、深さ13～27cmを測る。浅いピットが多い。ピット290、261、295は切り合っている。埋土はにぶい黄褐色～褐色の細砂～中細砂を主体とする。

ピットから出土した遺物は非常に細片で、図化できるものはない。見込みで螺旋状の暗紋を施す土師器杯 (あるいは皿) の破片がみられた。建物の時期の比定は困難である。

掘立柱建物10 (図27)

西側部の北よりで検出された。建物は2間×2間 (3.42m×3.14m)、10.73mの総柱建物に復元できる。攪乱等により全てのピットは検出されていない。ピットは直径28cm前後と小さい円形を呈する。深さは4～21cmを測る。埋土は暗褐色のシルト混じり細砂を主体とする。

ピットからの遺物の出土は少なく、土師器甕、須恵器坏片を含むが、図化できるものはない。建物の時期の比定は困難である。

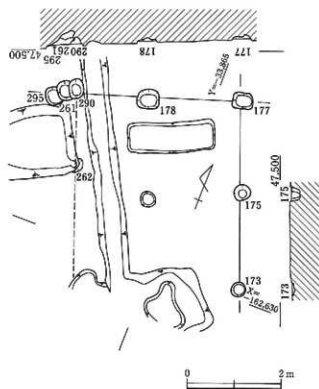


図25 掘立柱建物7 平・断面図

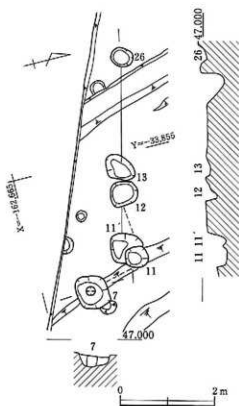


図26 掘立柱建物11、12 平・断面図

掘立柱建物11 (図26、図版6-2)

(遺物 図37-19)

南側部で検出された。建物11はピット12、11、7で構成される。調査区外にのびるため、規模は不明である。ピットは40cm×50cm前後の隅丸方形を呈し、深さ11~30cmを測る。掘立柱建物12を切る建物である。

出土遺物は細片であり、図化できたのは図37-19須恵器坏蓋である。つまみ部分は欠損している。8世紀の時期が与えられる。他に土師器杯(皿)片が出土している。

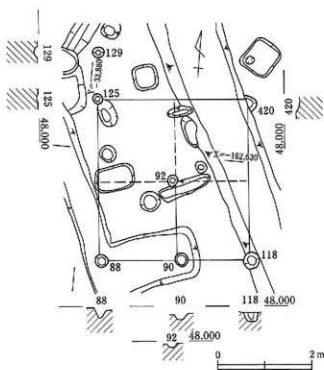


図27 掘立柱建物10 平・断面図

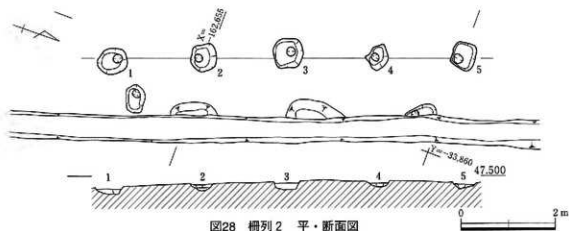


図28 柵列2 平・断面図

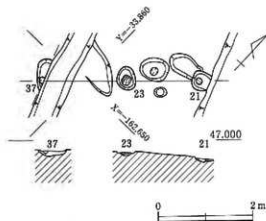


図29 柵列3 平・断面図

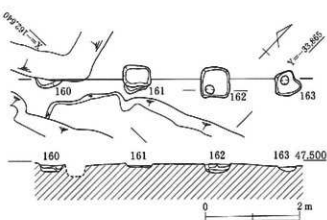


図30 柵列4 平・断面図

掘立柱建物12 (図26、図版6-2)

東側部で検出された。建物12はビット26、13、11'。調査区の南側、及び東側に広がる可能性が考えられ、規模は不明である。ビットは60cm×65cm前後の隅丸方形で、深さ10~40cmを測る。埋土はにぶい黄褐色~褐色中細砂を主体とする。

出土遺物は少なく僅かに土師器片がみられるのみである。図化できる遺物はない。

櫛列2 (図28、図版6-1)

南側部で検出された。4間(7.22m)である。ビットは隅丸方形を呈し、55cm×58cm前後、深さ0.13~0.2cmと非常に浅い。柱痕は掘方の外側に偏っている傾向がみられる。調査区の東側に展開する掘立柱建物の可能性も考えられる。櫛列の東側にビット2、5とそれぞれ対応する位置にビット57、22があり(図17)、梁間2間の掘立柱建物とも考えられる。また、北側に更にのびていた可能性もある。いずれにせよ、ビットの浅さから考えても、削平された可能性は非常に高い。しかし、ここでは検出状況から櫛列として扱う。埋土は黄褐色の中細砂を主体とする。

出土遺物はなく、時期の比定はできない。

櫛列3 (図29、図版6-1、図版9-4)

南側部で検出された。2間(3.30m)確認できたが、調査区の北東側に更にのびる可能性が考えられる。ビットは50cm前後で、隅丸方形あるいは円形を呈する。深さは0.1~0.14cmと非常に浅い。埋土はにぶい黄褐色の中細砂を主体とし、礫が混じるものもある。ビット23は、底部で根石を検出した。根石は、22×18cm、厚さ3cmを測り、扁平な形を呈する。

遺物の出土はなく土師器、須恵器の細片で、時期の比定はできない。

櫛列4 (図30)

北側部で検出された。3間(5.02m)確認した。東側に展開する掘立柱建物の可能性も考えたが、攪乱等に対応するビットが確認できず、ここでは櫛列として扱う。ビットは50×60cm前後の隅丸方形を呈し、深さ11~20cmを測る。ベース面が北東に向かって傾斜していることから、北東側のビットは浅い。ビット16は比較的深く、柱痕も明瞭であった。

遺物は含まず、時期は不明である。

櫛列5 (図15)

北側部の北東では直径20cm前後の小さいビットを集中して検出した(図15)。そのうち、深さのある同規模のビットが建物4に平行してみられた。ビット176、269、274、276、278、311である。各ビットの間隔は異なるが、掘立柱建物4に伴う掘方をもたない櫛列の可能性が考えられる。埋土は暗褐色のシルト混じり細砂、シルト混じり中細砂。遺物は土師器片を含むのみである。

掘立柱建物、櫛列からの遺物の出土は極めて少なく、また、図化できた遺物についてもその出土状況は遺構の所属時期を直接示すものではない。また、掘立柱建物以外の遺構が少なく、包含層も希薄であるため、時期の比定を更に困難にしている。ビットからは、古墳時代後期~7世紀初頭と考えられる遺物も出土しているが、土師器杯(皿)片をみると7世紀後半~8世紀の時期のものがみられる。周辺の調査成果から7世紀後半~8世紀の建物群と考えたい。掘立柱建物7、10は他の建物と比べて、ビットは小さく、円形を呈する点で大きく異なる。時期的な違いによる可能性が高い。ただし、7Cトレンチ全体で黒色土器は1点のみ、瓦器は1点も出土していない。掘立柱建物3、4は、今回検出された掘立柱

建物の中で、いずれも規模が大きく、中心となる建物であろう。この掘立柱建物は桁の一辺の柱が少ない点でも一致しており、また、ピットの切り合いから、掘立柱建物3から4への建替えと考えられる。掘立柱建物1、5、6は掘立柱建物4と軸が同じであり、掘立柱建物1の南辺と掘立柱建物4の北辺が揃う。これら4棟は同じ時期の建物である可能性が高い。掘立柱建物3と同じ軸を持つ建物は掘立柱建物8である。その他、横列3、4も軸を同じくしており同時期の可能性が高い。

溝117とピット (図31)

西側部で溝117の底部よりピットが検出された。溝117は深さ15cmを測る。北東側は1cmと浅い。「L」の字状の溝で、その北西辺に平行する溝100とあわせると「コ」の字状を呈する。布掘りをもつ建物の可能性を考えたが、溝のコーナー部分にはピットが見られず、溝100ではピットが検出できなかった。また、北西のピット列も間隔が一定しない。このような点から、建物を構成するようなものではないと判断した。溝の埋土は 明黄褐色の中砂混じりシルト、ピットの埋土に比べて明るい。ピット153～155は80×50cm前後の楕円形を呈し、深さ約20cmを測る。埋土は明黄褐色のシルト、156は明黄褐色の中細砂混じりシルトを主体とする。

溝117、100、ピット153～156からは遺物の出土はみられない。

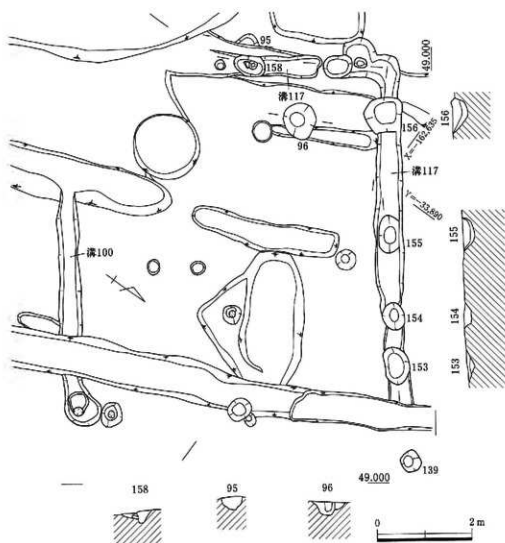


図31 溝117、ピット 平・断面図

ビット39 (図32、図版9-5)

南側部の調査区の端で検出した。約70cm×70cmの隅丸方形を呈し、深さ約20cmを測る。柱痕は直径約20cmで、柱痕の底部で根石が出土した。根石は焼けている。埋土は黄褐色のシルト混じり細砂を主体とする。規模の大きい隅丸方形のビットで、建物を構成するものと考えられたが、対応するビットは検出していない。ビットの軸から考えれば、やや不自然ではあるが、調査区外に展開するものと考えられる。

遺物の出土は少なく、土師器甕と考えられる破片、須恵器甕の破片が僅かに出土した。

ビット183 (図36、図版9-1, 2) (遺物 図37-1~3, 24、図版16)

北側部で検出した。直径45cmの円形を呈し、深さ約15cmを測る。土師器皿が3点重なって出土した。土師器皿は全て正位置で出土している。出土した土師器皿は3点とも法量、調整等異なっている。

出土した遺物は図37-1~3, 24である。2は一番上で出土し、約3分の1が残っている。直径15.6cm、器高2.5cmを測る。口縁端部は外側に開き、比厚する。3は真中で出土しほぼ完形で、直径23cm、器高2.5cmを測り、もっとも大きい。口縁端部は面をもち、体部内面には粗い放射状の暗紋、見込みに螺旋状の暗紋を施す。1は一番下で出土し、完形で直径14.4cm、器高2.4cmを測る。口縁端部はまるくおさめる。暗紋は施されておらず、ナデ調整がみられる。8世紀中~後半の時期が考えられる。遺物は完形に近く、正位置で出土しており、意図的に埋められている。このビットは地鎮などを目的とした、土器埋納ビットの性格が考えられる。24は土師器杯である。1~3より古い特徴をもつ。内面は放射状の暗紋を施し、口縁部下は連弧状の暗紋を施す。

その他のビット (遺物 図37-13, 14, 17, 20, 22, 23、図版17)

7Cトレンチでは掘立柱建物、構列を構成するビット以外に多くのビットを検出した。その多くは、本来、建物・構列を構成するものと考えられるが、攪乱や削平によって、遺存しなかったビットも多く、その結果、建物・構列を復元できなかったものと考えられる。ビット内からはいずれも遺物の出土は少なく、僅かに出土したのも細片である。

ビットは、直径40cm前後の円形~楕円形を呈するもの、直径20cm前後の円形を呈するもの、50cm前後の隅丸方形を呈するものに大きく分けることができる。これらのビットは場所によって集中している状況がみられた。北側部、及び南側部東では隅丸方形のビットで構成される掘立柱建物、構列、及びビットが多くみられる。調査区南側では比較的ビットが浅い傾向がみられる。一方、西側部東よりでは、円形~楕円形のビットが集中してみられる。3基のビットが切りあうようなものが多く、3棟以上の建物が存在していた可能性が考えられるが、復元するには至らなかった。北側部の東よりでは直径20cm前後の円形のビットを非常に多く検出した。構列5として復元したもの以外にも、同規模のビットが多くある。一定の深さがあるにも関わらず非常に小さいビットで、構列などが考えられる。また、西側部の南西側でみられたビット状のものは埋土が地山に似た黄色を呈し、しまりがいい細砂である。掘方自体もはっきりせず、柱穴とは考えられない。しみこみの可能性が考えられる。

ビットから出土した遺物のうち図化できたのは、図37-13, 14, 17, 20, 23である。13, 14, 17は須恵器杯蓋。口径が大きく、6世紀後半~7世紀初頭と考えられる。20は須恵器杯身。口径が10cmと小さく、7世紀の時期を与えられる。23は土師器杯。体部内面は一段の放射状暗紋を施す。8世紀中頃の時期を与えられる。その他図化できないがビット186からは黒色土器B類椀の破片が出土している。

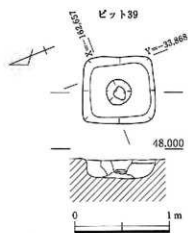
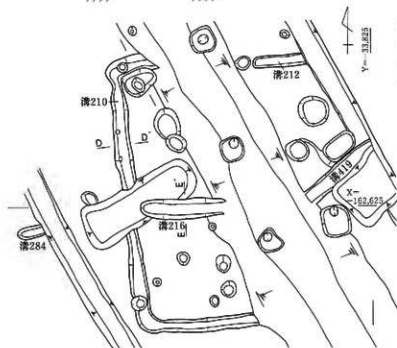
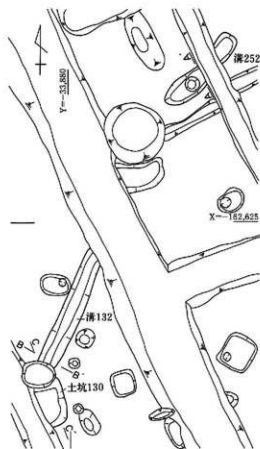
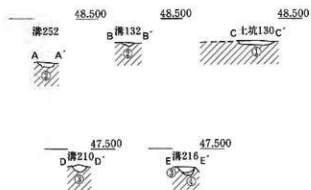


図32 ビット39 平・断面図



- ① 7.5YR4/4 褐色 シルト混じり中細砂 (炭、遺物含む)
- ② 10YR2.5/4 暗褐色 シルト混じり中細砂
- ③ 7.5YR2.5/3 暗褐色 シルト混じり細砂 (炭多く含む)
- ④ 7.5YR2.5/3 暗褐色 ③に焼山ブロック含む



図33 土坑130、溝210、216、252、132 平・断面図

その他の遺構

溝210、212、216、252、132、419（図33、図版8-2）（遺物 図37-4~6、8、図版17）

溝210は北側部東端で検出した。溝212も同一の溝と考えられ、「コ」の字状を呈している。攪乱によって全体の形状は不明であるが、調査区外にのびると考えられる。溝は幅約30cm、深さ約15cmを測る。北一南は約5.8m、東一西4.2m以上を測る。当初、竪穴式住居の可能性を考えて調査したが、主柱穴が確認できず、以前の調査区でも対応する東辺が確認されていない。溝は底のレベルは一定ではなく、北側が低い。他にも、規模の同じような溝を検出した。溝216、419は溝210の「コ」の字状の中に位置している。埋土は溝210、216、419は共通しており、暗褐色のシルト混じり細砂で炭を含む。西側トレンチで検出された溝132、北側トレンチ西側で検出された溝252は褐色のシルト混じり中細砂である。これらの溝はいずれも幅約30cm前後と狭い。同じような機能をもつ溝であったと考えられる。

遺物は、碎片ではあるが、出土している。図37-4は溝132から出土した須恵器坏蓋である。5は溝210から出土した土師器甕である。高台は断面長方形を呈すとみられ、あまり開かない。見込みに螺旋状の暗紋を、体部内面には放射状の暗紋を施す。6は溝216から出土した土師器杯である。器壁は薄く、体部内面に放射状の暗紋を施す。口縁端部は、外に開き丸くおさめる。8は溝212から出土した土師器甕である。出土遺物からこれらの溝は8世紀と考えられる。掘立柱建物と同様な時期の遺物を含んでいることから、掘立柱建物と関連した小規模な区画溝の可能性を考えたい。

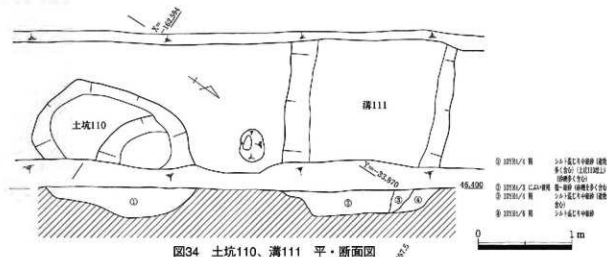


図34 土坑110、溝111 平・断面図

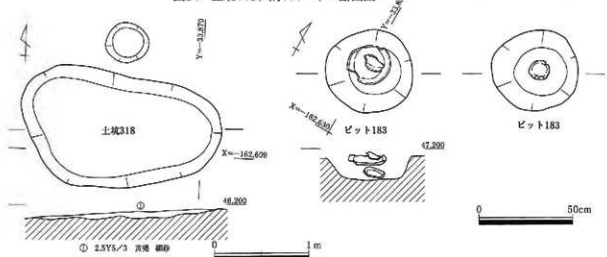


図35 土坑318 平・断面図

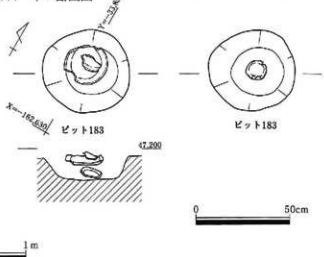


図36 ビット183 平・立面図

溝409 (図15)

北側部で検出した。幅50cm、深さ5cmを測る。埋土は黄褐色の細砂である。土師器の細片が出土している。

溝214 (図15) (遺物 図37-7)

北側部で検出した。耕作に伴う溝である。図37-7は須恵器短頸壺である。

土坑130 (図33)

ビット131に切られる土坑である。攪乱にも切られており、全体の形状は不明である。遺存している部分で1m×0.5mを測る。深さは約10cmを測る。埋土は褐色のシルト混じり中細砂。

出土遺物は細片で図化できなかったが、見込み部分に螺旋状の暗紋を施し、体部に放射状の暗紋を施す土師器片が出土している。

土坑211 (図33) (遺物 図37-28~30、図版16)

溝210と切合いをもって検出された。0.5m×0.6mの不定形を呈する。深さは約10cmを測る。埋土は明黄褐色細砂である。遺物は図37-28~30である。28は須恵器坏壺である。天井部にヘラ記号がみられる。29は須恵器垂底部である。30は土師器杯である。29は溝210の遺物である可能性が考えられる。

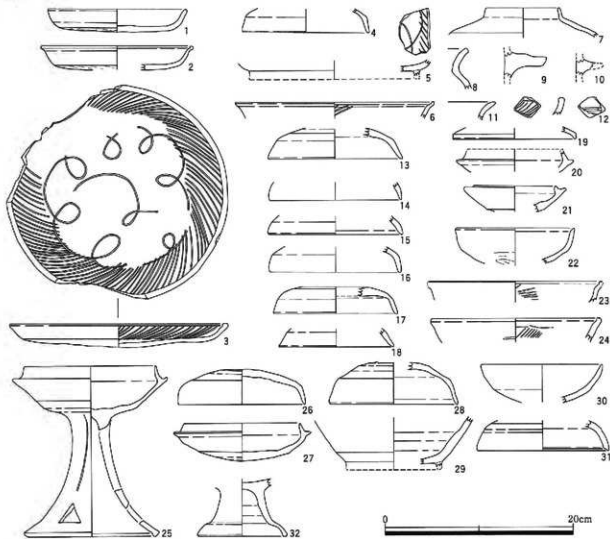


図37 7Cトレンチ 出土遺物

土坑110 (96年度 溝4) (図34) (遺物 図37-25~27、図版16)

北側部で検出した。調査区は一段下がっており、この部分では僅かに包含層が確認できた。土坑110は1.6m×0.85m以上で調査区外にのびている。96年度調査のC地区溝4につながる。土坑としたが、溝の一部と考えるほうが妥当であろう。埋土は褐色シルト混じり中細砂、砂礫を含む。

土坑110及び直上の包含層、ぶどう畑に伴う溝(攪乱として扱った)内で、遺物がまとまって出土した。図37-25~27は本来土坑110に伴う遺物であると考えられる。25は須恵器高坏である。長脚2段の3方透かしで上段は長方形、下段は三角形の透かしを施す。長方形の透かしは透かしというより、ほとんど刻みを入れたような状態である。26、27は須恵器蓋坏である。いずれも、粒子の粗い長石、チャートを含んでいる。26は、杯蓋。体部と口縁部の境は不明瞭で、天井部はヘラケズリを施す。27は杯身。底部内面に仕上げナデを施す。

溝111 (図34)

北側部で検出した。土坑110の北側に位置する。幅1.7mを測る。調査区外にのびるものと考えられるが、96年度の調査では、検出されておらず、削平を受けたものと考えられる。埋土は砂礫を含んだ、にぶい黄褐色粗〜細砂を主体とする。遺物は出土していないが、近接する土坑110と平行しており、同時期のものである可能性が高い。

土坑318 (図35、図版9-3) (遺物 図37-32、図版16)

北側部で検出した。2.0m×1.2mの不定形を呈し、深さ約5cmと非常に浅い。埋土は黄褐色細砂である。須恵器高坏が出土した。他に遺物の出土は見られなかった。図37-32は須恵器高坏である。坏部は欠損しており、脚部のみ出土した。透かしのない短脚である。焼成はやや軟質である。

土坑110、211、土坑318からはTK43~TK209の遺物が出土している。これらの遺構は北側部東よりの調査区の中でも、低い部分でみられる。

包含層出土遺物 (遺物 図37-15、16、31)

図37-15、16、31は須恵器杯蓋である。31は体部と天井部の境の稜線がわずかに凹線状を呈する。15、16は非常に破片であるがいずれも、古墳時代後期後半の特徴をもつ。

第3項 6Cトレンチ

6Cトレンチは1～3に分かれている。遺構が検出されたのは6C-1トレンチである。

6C-1トレンチ

6C-1トレンチは谷に向かって南東に傾斜する地形を呈する。基盤層上面は、調査区北西半分は標高43.5～44.3mのゆるく傾斜する平坦地である。南東半分は傾斜し南東部端では谷に向かって更に落ち込む。調査区東側は溜池である。

1層は表土、2層は整地層、3層は耕作土である。3層は調査区北西半分のみでみられ、3-1、

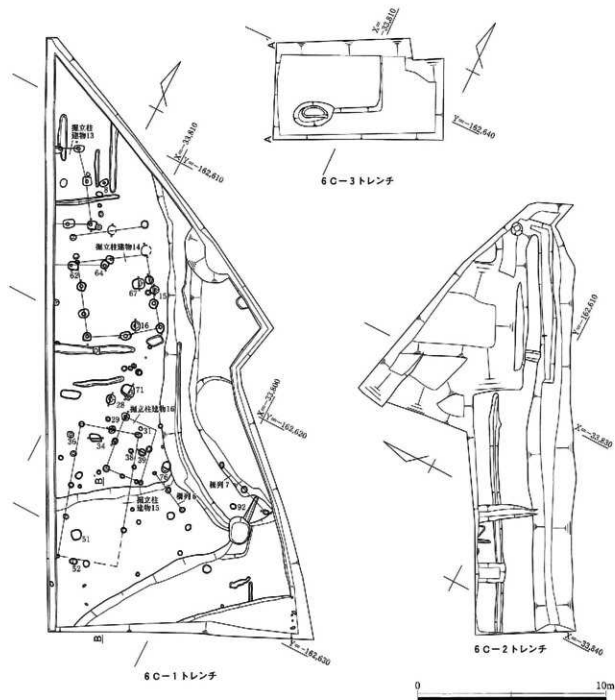


図38 6Cトレンチ 遺構配置図

3-2の2層に分層することが出来る。3層上面、3-2層上面では、幅約20~50cmの耕作溝がみられた(図版11-2)。3層上面では南東半分では南西-北東方向に、北西半分では北西-南東方向に溝がはしり、溝の方向に違いがみられる。平坦部分は3層除去後、基盤層に至る。谷部分は、3層を切り込む形で落ち込みであり、複雑な堆積状況がみられるが、大きく2層に分けることができる(図40、図版11-3)。上層は⑥~⑩で、基本的に耕作土、及び耕作に伴う溝埋土である。溝は3層上面の溝とは異なり、幅2~3mと広い。下層は⑫~⑭である。谷の埋土と考えられ、暗灰黄色シルト~粘土を主体とする。上層は中世以降、下層は中世の堆積層と考えられる。3層は古墳時代後期~中世の遺物を含んでいる。また、谷部分の下層、及び、⑬を4層として掘削した。

調査区の東側は溜池(落ち込み1として掘削)であるが一段テラス状になり、溝がめぐる。

基盤層上面では4棟の掘立柱建物、2列の櫛列の他、ピット、耕作溝を検出した。

掘立柱建物、櫛列

掘立柱建物、櫛列は平坦面と谷部でも検出された。櫛列、掘立柱建物を構成するピットは隅丸方形のもの、円形のものがある。ピットからの遺物の出土は少なく、掘立柱建物、櫛列の所属時期を決定するのは困難である。

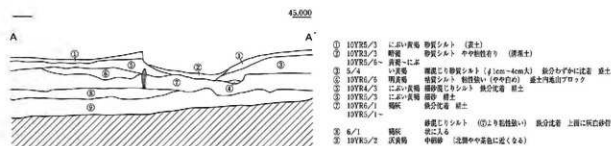


図39 6C-3トレンチ 断面図

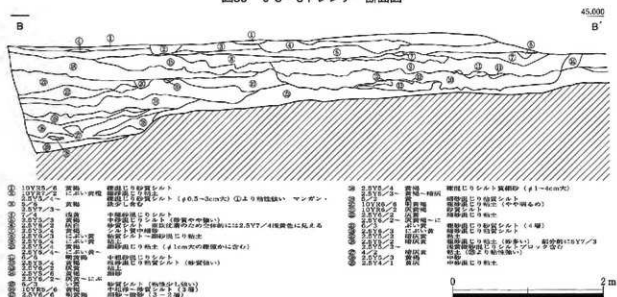


図40 6C-1トレンチ 谷部断面図

掘立柱建物13 (図41、図版10-2)

調査区北西側、平坦部に位置している。2間×1間以上(4.06m×1.2m以上)の建物である。南西方向に調査区外にのびると考えられるが、以前の調査では対応するピットは検出されておらず、南西側は削平されたものと考えられる。ピットは40cm×50cm前後の隅丸方形を呈し、北東—南西方向に長い長方形を呈する。北東—南西方向に長い建物である可能性が高い。深さ24cm~39cmを測る。柱間は北東—南西方向が短い。埋土は明黄褐色、にぶい黄褐色の細砂混じりシルトを主体とする。

建物の南東側に平行する横列を検出した。建物と横列の幅は2.1mを測る。ピットは隅丸方形を呈し、

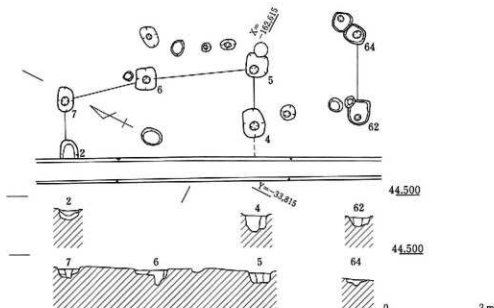


図41 掘立柱建物13 平・断面図

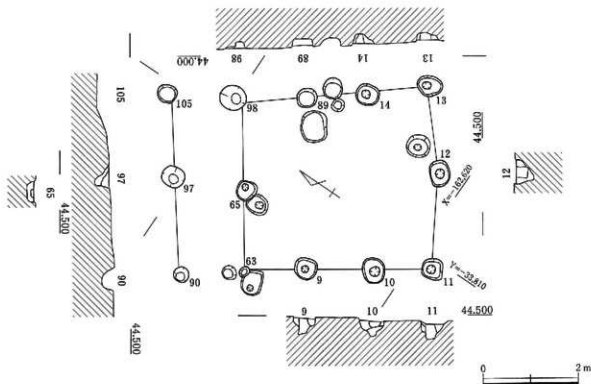


図42 掘立柱建物14 平・断面図

深さ約20cmを測る。建物と同様、調査区外にのびると考えられる。

ピットからは遺物の出土は少なく、土師器、須恵器の細片を含むのみで、時期の特定は困難である。

掘立柱建物14 (図42、図版10-3、図版11-4)

掘立柱建物13の南東側に位置する。3間×2間(3.94m×3.9m)、15.37㎡を測る。ピットは40cm×45cm前後の隅丸方形を呈し、深さ14~48cmを測る。ベース面は溜池側が傾斜しており、その結果、北東側のピットは浅い。柱間は桁間が梁間比べて狭い傾向が窺われる。その結果、3間×2間ではあるが、正方形に近いプランになる。埋土は明黄褐色、にぶい黄褐色を呈し、シルト混じり細砂を主体とする。南西側の辺のピットは、シルト質が強く、ベース土の違いに起因するものと考えられる。

建物の北西側に平行する櫓列を検出した。建物と櫓列の距離は1.5mを測る。櫓列は3間3.8mを測る。ピット105は僅かに痕跡が確認できるのみであった。

ピット内からの遺物の出土は少なく、土師器、須恵器の細片を含むのみで、時期の特定は困難である。

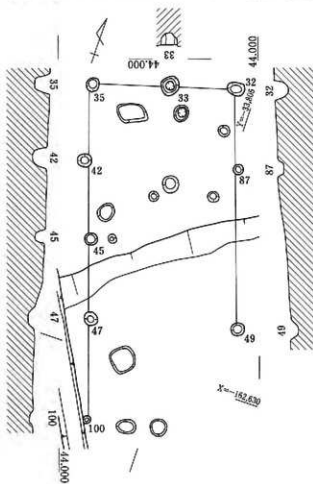


図43 掘立柱建物15 平・断面図

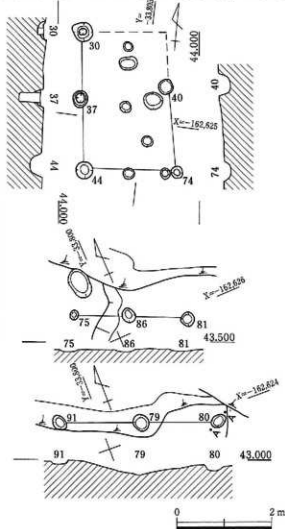


図44 掘立柱建物16、櫓列6、7 平・断面図

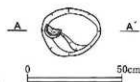


図45 ピット80 平面図

掘立柱建物13の櫓列（ピット64、62）は掘立柱建物14（ピット65、63）に切られており、掘立柱建物13は14に先行するものであると考えられる。ただし、建物は軸を同じくしており、時期差はあまりないものと考えられる。

掘立柱建物15（図43、図版11-1）（遺物 図46-1、3、図版17）

掘立柱建物15は4間×2間（7.08m×3.02m）の建物である。面積は21.38㎡を測る。南東側のピットは削平され検出できなかった。建物は更に調査区外にのびる可能性も考えられる。ピットは直径25cm前後の円形を呈し、深さ10～32cmを測る。直径は小さいが、周辺のピットに比べて深い傾向がみられる。埋土はにぶい黄褐色の砂混じりシルト、にぶい黄褐色～褐色のシルトを主体とする。

出土遺物は図46-1、3である。1は土師器羽釜、ピット49から出土した。口縁部は「く」の字状に屈曲する。口縁部端部は僅かに比厚する。12世紀の時期が与えられる。3は土師器甕、ピット87から出土した。口縁部は短く外側に屈曲し、端部は面をもつ。赤褐色を呈する。他のピットからは、土師器杯（8世紀）の破片等古代の遺物の破片が含まれているが、1の遺物より12世紀以降の掘立柱建物と考えられる。

掘立柱建物16（図44、図版11-1）

調査区の中央で検出した。2間×2間（2.9m×1.96m）の建物である。ピットは直径30cm前後の円形で深さ16～52cmを測る。掘立柱建物15に比べて、直径が大きい傾向がみられる。建物16を構成するピットも建物15と同様、周辺の他のピットに比して深い傾向がみられた。埋土はにぶい黄褐色の砂混じりシルト、黄褐色のシルトを主体とする。

ピットからは遺物の出土は少なく、土師器の把手部分が出土している他、図化できる遺物はない。時期の特定は困難である。

櫓列6（図44）（遺物 図46-2、図版17）

調査区の東側で検出された。谷に向う傾斜地に位置している。2間（2.4m）。柱間が約1.2mと狭い。ピットは直径24cmの円形を呈する。深さは4～6cmと非常に浅い。全体に削平が著しいものと考えられる。埋土はにぶい黄色の細砂混じりシルトを主体とする。

出土遺物は図46-2土師器甕、ピット75から出土した。口縁部は短く外反し、端部はまるく収める。口縁部は横方向のナデを施す。体部外面には指頭圧痕が明瞭に残る。他に図化できないがピット79からは放射状暗紋と螺旋状暗紋を施す土師器片が出土している。

櫓列7（図44、45、図版11-5）（遺物 図46-4、図版17）

調査区の北東端に位置する。溜池の西方、テラス状になっている部分で検出した。2間（3.4m）。北東は溜池となっているため、削平されており、本来は調査区外にのびる掘立柱建物であった可能性も高い。ピットは直径30cm前後の円形を呈し、深さ6～12cmを測る。埋土はにぶい黄色の砂混じりシルトを主体とする。ピット80からは須恵器坏身（図版11-5）が出土した。坏身は高台部分を上にして出土している。体部は欠損しており底部の約2/3が遺存している。

出土遺物は図46-4須恵器坏身。ピット80から出土した。「ハ」の字状に張出した高台を有する。他のピットからの遺物の出土はない。4の遺物から8世紀の時期を与えたい。

掘立柱建物、櫓列からは遺物の出土は極めて少ない。しかし、掘立柱建物13、14は隅丸方形の掘方を持ち、周辺の調査成果から、7世紀後半～8世紀の建物と考えたい。また、掘立柱建物15は出土遺物より、中世の時期が考えられる。掘立柱建物16は掘立柱建物3と切り合っているが、ピットの切り合いは

なく、前後関係は不明である。横列7は出土遺物から7世紀後半～8世紀前半の時期が考えられ、並行する横列6も同時期と考えられる。

ピット

掘立柱建物、横列を構成するピット以外にも多数のピットが検出された。掘立柱建物13、14周辺では、隅丸方形のピットがみられ、調査地の中央では円形のピットを多数検出している。ピットからの遺物の出土は少ないが、古代～中世にかけて居住域として利用されていたことが分かる。その後、耕作地としての利用に移行したものであろう。

包含層他出土遺物（遺物 図46-5～12、図版17）

6C-1からは古墳時代後期から中世の遺物が出土している。遺物は非常に細片である。土師器片は7Cトレンチに比べて、赤みが強く、胎土が粗いものが多い傾向がみられた。

図46-5、6は落ち込み1（溜池）から出土した。5は須恵器坏身。底部のみの出土である。高台を有するもので、四角形の短い高台を外側に貼り付ける。8世紀の時期が与えられる。6は備前播鉢。

図46-7～12は包含層出土遺物である。7、8、10は3層から出土した。7、8は須恵器蓋である。7は天井部外面ヘラケズリ、天井部内面には仕上げナデがみられる。10は土師器羽釜である。鈿は欠損している。口縁部は「く」の字状に屈曲し、口縁端部はわずかに比厚する。摩滅しており、内外面の調整は不明瞭である。9、11、12は4層から出土した。9は須恵器坏身である。11は須恵器甕の口縁部である。口縁部は横に広がり端部は断面三角形を呈する。頸部は、ヨコナデを施すが、外面は縦方向に板状工具の痕跡がみられる。内面は自然釉が付着する。12は土師器甕である。細片で直径は復元できない。頸部と体部の境に強いナデを施す。

6C-2 トレンチ

6C-1 トレンチの北側に位置する。調査区のひとつが溜池と溜池に続く溝である。南西側の高い部分でも遺構は確認できなかった。また、遺物もほとんど出土していない。

6C-3 トレンチ（遺物図版21）

6C-1 トレンチの西側に位置している。谷の西肩部にあたる。遺物の出土は非常に少ない。6C-1 トレンチ谷部と同様に、中世以降の耕作土、及び耕作に伴う溝埋土の堆積がみられる（図39）。

遺物の出土は少ないが、叩き石が出土している（図版21-h）。

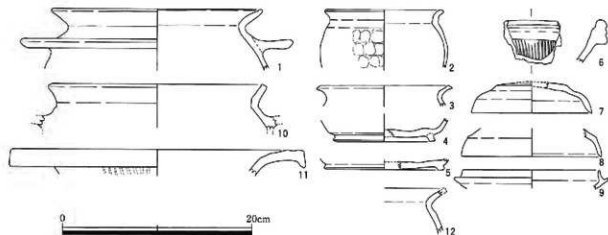


図46 6C-1トレンチ 出土遺物

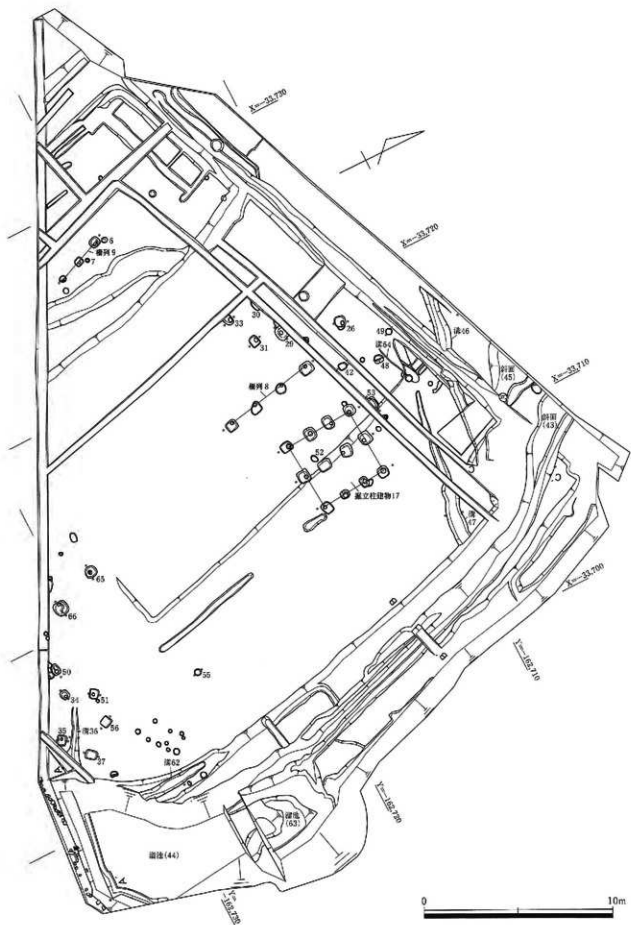


図47 3B-1トレンチ 遺構配置図

第4項 3Bトレンチ

3B-1 トレンチ

3B-1トレンチは、東に向かって低くなり、3段の耕地にわたる。耕地化した際にこのような段差がつくられたと考えられ、本来は、東に向かって緩やかな傾斜をもつ地形であったと考えられる。各段の下には段に平行して溝がみられる。調査区東端は1~1.2mと比高差があり、段の下には幅50cmの溝がめぐる。段際では整地を行って、耕作地を広げていることが分かる。整地は少なくとも2回行われており、1回目は段の下の溝を埋めて段との比高差50cm前後の高さに盛土している。段際は1部ベースが削られたものと考えられる。2回目は更に盛土をして上段と同じ高さにし、耕作地を広げている。この最終的な盛土は近代以降のものと考えられる(図48、図版14)。

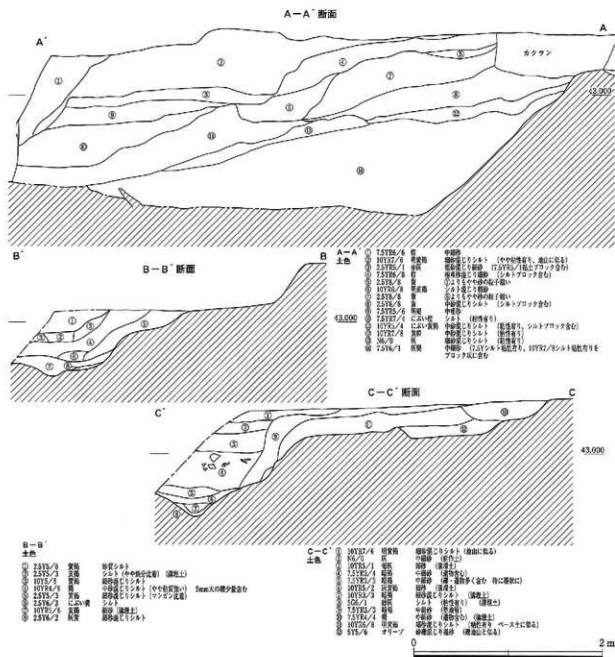


図48 3B-1トレンチ 斜断面図

基礎層上面で掘立柱建物、ピット、溝、土坑を検出した。下段では間析谷を利用した溜池が作られている。トレンチの南東コーナーは塚塚周濠の肩にあたるが(斜面43)段の下にめぐる溝が連続しており、新しい段階に整地されたと考えられる。

掘立柱建物、柵列

掘立柱建物1棟、柵列2列を検出した。

掘立柱建物17(図49、図版12-2、図版13-3、4)

調査区中央(1段目)で検出した。3間×2間(3.66m×3.66m)の総柱建物である。面積は13.4㎡を測る。今回の調査でもっとも大きい総柱建物である。ピットは55cm×60cm前後の隅丸方形を呈する。深さは17~32cm前後を測る。柱痕は比較的明瞭で、断面観察を行ったところ、柱の底が直線的で非常に平らになっていたことが分かる(ピット20、15)(図版13-3)。またピット掘方の埋土は互層になっており、いわゆる版築状を呈しているものもみられた。柱間は一定ではなく、桁間が梁間に比べて狭い傾向がみられる。その結果、3間×2間ではあるが、正方形に近いプランになっている。埋土は黄褐色シルト混じり中細砂を主体とする。

ピットから出土した遺物は細片で図化できるものや、時期を特定できるものはない。

柵列8(図51、図版12-3)

掘立柱建物17の西側で検出した。掘立柱建物17とは平行せず、伴うものとは考えにくい。柱は3間(4.9m)検出した。ピットは60cm×65cm前後の隅丸方形を呈し、深さは7cm~26cmを測る。ピット22~25は黄褐色細砂混じりシルトを主体とする。柱痕は掘方の西側に偏っている。ピット29、30、33を含めて、掘立柱建物である可能性も考えられたが、南辺及び西辺の一部が検出できず、ここでは柵列として扱っている。ピット25は26cmと深いがピット22~24は15cm以下と浅い。段の隙間は、整形の際に削られている可能性が高く、西辺が削平された可能性も考えられる。しかし、ピット29、30、33は埋土が非常に似ており、明黄褐色シルト混じり中細砂を主体とし、柵列8のピットとは埋土が異なっていた。ここでは柵列として扱う。

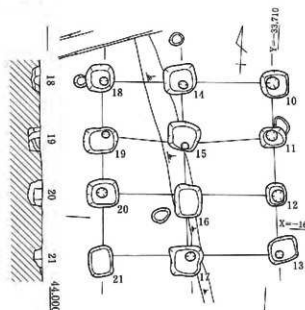


図49 掘立柱建物17 平・断面図

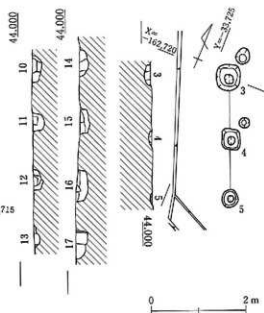


図50 柵列9 平・断面図

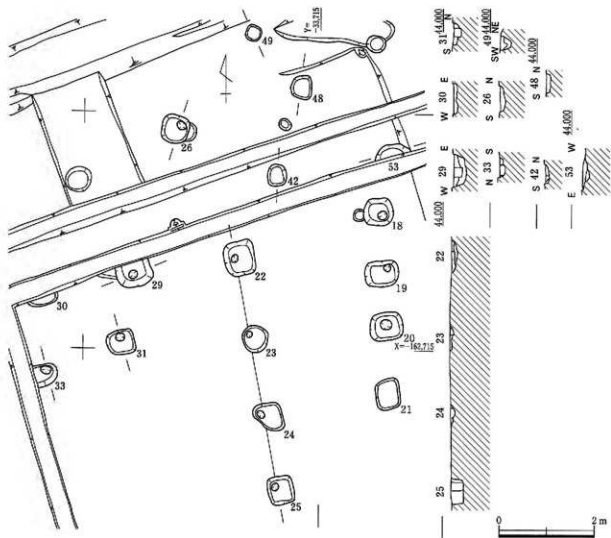


図51 柵列8、ピット 平・断面図

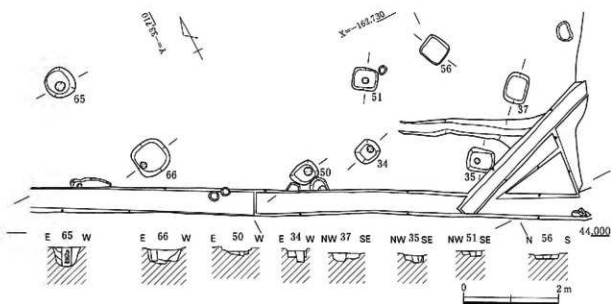


図52 ピット 平・断面図

ピットからは遺物の出土は少なく、須恵器、土師器の細片を出土するのみで、時期を特定出来ない。

横列9 (図50)

2段目で検出された。2間(2.5m)検出した。ピットは45cm×50cmの隅丸方形を呈し、深さは6～14cmと浅い。もともとベース面が高い部分で、その結果削平を受けたものと考えられる。横列の西側にはぶどう畑に伴う現代の溝があり、本来は北西側に建物がのびる可能性が考えられる。

時期を特定できるような遺物の出土はみられない。

その他のピット (図51、52、図版13-2、5、6)

掘立柱建物17周辺及び、調査区の南端で多くのピットを検出した。ピットは隅丸方形のものが多くみられた。調査区中央ではピットは検出されていない。調査区南端で検出されたピット65、66は深さ大きさと他の周辺のピットとは異なる。ピット65は60cmの隅丸方形を呈し、深さ41cmを測る。注目できる点は、柱が遺存していたことである。柱は直径8cmを測り、長さ28cm残っていた。断面観察したところ、柱はもともとは20cm前後と考えられ、粘質土に置き換わっている。ピット66は約60cmの隅丸方形を呈し、深さ33cmを測る。柱痕は、掘方の西側に偏っており、掘方に対して小さい。この2つのピットを含む建物が存在した可能性は非常に高いが、対応するピットは検出できなかった。ピットは共に30cm以上と深く、同一の建物を構成するピットが削平されたとは考えにくい。南西側に調査区外にのびる建物が存在する可能性が考えられる。しかし、この場合東西の柱間は3.5m以上と長いことになる。ピット65と66は距離で2.3mを測る。

調査区南端ではピットが集中していることから、掘立柱建物群は更に南西に広がる可能性が考えられる。円形のピットは少ないが検出している。

溝

溝46、47 (図53、54、図版13-7、8) (遺物 図55-1～8、29、図版17、18)

溝46、47は平行してはしる溝である。溝46は幅約80cm、深さ約35cmを測り、断面台形を呈する。埋土は上層が褐色シルト混じり中細砂、下層は明黄褐色細砂混じりシルト。溝47は幅約70cm、深さ約13cmを測り、溝46に比べて浅い。埋土は上層が灰褐色のシルト混じり細砂、下層は明黄褐色の細砂混じりシルトである。この2条の溝は平行しており、同時期に存在していた可能性が高い。溝46は96、97年度の調査でも検出している。

溝46からは図55-1、2が出土した。1は土師器碗である。体部外面には指オサエが残る。2は須恵器甕である。体部外面は平行タキのあとカキメを施す。内面は同心円圧痕が残る。口縁部は僅かに厚みをもつのみで断面四角形を呈する。溝47からは図55-3～5が出土した。3は土師器皿である。体部は下半に指オサエが残る。口縁端部は面をもつ。4は土師器甕である。口縁部は大きく外側に開く。全体に摩滅が著しいが外面にハケメが残る。5は須恵器甕である。高台は高く断面台形を呈する。内面には自然軸が付着している。図55-29は鉄器である。欠損しており、全体は不明。他に図4にないが、須恵器長脚二段透かしの高環が出土している。図55-6、7、8は溝46、47付近で出土した。6は須恵器坏蓋である。7は須恵器高坏脚部と考えられる。8は須恵器甕である。1、3、5の遺物から9世紀以降と考えられる。

溝46、47は掘立柱建物、横列とは軸を異にしており、時期が違うものと考えられる。

その他の溝

溝36、62 (遺物 図55-11)

溝36は調査区南東で検出した。幅30cm、深さ15cmを測る。埋土は暗オリーブ褐色中細砂である。須恵器坏片が出土している。溝62は溝36の東側で検出された。平坦面から一段下がったところで検出している。幅50cm、深さ15cmを測る。埋土はにぶい黄褐色シルトである。

溝62からは須恵器高坏が出土している (図55-11)。この2本は溜池に向かって深くっており溜池と関連した溝と考えられる。

溝64 (遺物 図55-10)

調査区の北側で検出した。耕作に伴う溝と考えられ、中世以降と考えられる。10は土師器皿である。

包含層他出土遺物 (遺物図55-9、12~28、図56-1~9 図版17、18、20)

調査区の東端段の整地層 (2層)、下段の池などから遺物が出土している。いずれも二次的な堆積の結果によるものであり、遺構に伴うようなものではない。古墳時代後期~近、現代の遺物を含むが、ここでは中世以前の遺物について述べる。

斜面からは特に、南東コーナーで遺物が多く出土した (斜面43、45)。図55-12、13、15~17は斜面45からの出土である。12、13は須恵器坏身、15は瓦器碗である。15は内外面に密にヘラミガキがみられ、12世紀前半と考えられる。16は須恵器壺である。器壁が薄く、口縁部は横にのび、端部は上へつまみあげる。17は須恵器甕である。口縁部が外側に比厚する。9は斜面43から出土した土師器皿である。底部は指頭圧痕を残す。

図55-14、18は溜池から出土した。14は須恵器坏身である。18は須恵器甕である。外面が平行タタキ、内面は同心円の圧痕が残る。口縁部は外側におれる。

図55-19~26は包含層、掘乱から出土した遺物である。19は瓦器皿である。調整不明瞭。20~22は須恵器蓋坏である。22は低い高台がつく。23は須恵器壺の底部と考えられる。断面長方形の高い高台が外に開くハの字状につく。内面に自然軸付着。24、25は須恵器甕。いずれも、胎土は密でうすい灰白色を呈する。口縁部端部は断面四角形を呈し、わずかに厚くなる程度である。また、口縁部はあまり開かな

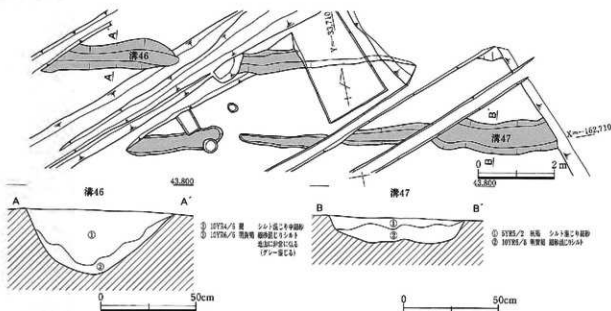


図53 溝46 平・断面図

図54 溝47 平・断面図

い。25は須恵器甕である。外面は平行タタキ、内面は同心円の圧痕が残る。26は土師器甕である。摩滅が著しく調整は不明瞭である。他に図化できないが、青磁碗（図版17-a）、黒色土器B類碗が出土している。内面に非常に密なヘラミガキを施す。

図55-27、28は埴輪片と考えられる。溜池、斜面43から出土した。直接遺構に伴うものではない。28は器壁が薄く、内面にハケメがみられる。27は器壁が厚く、タガがみられる。調整は不明瞭。

図化できなかったが鈴が1点出土している（図17-f）。斜面45から出土した。

溜池を中心に瓦が多く出土している。軒瓦はなく、平瓦が大半を占める。池を埋める際に混入したものと考えられ、近現代の瓦も出土している。図56-1、3は凸面に縄目叩きを施し、凹面には布目が残る。離れ砂はみられず、他に比べて薄い。1は凹面の側縁側、狹端面側に面取りを施す。二次焼成を受けている。3はやや軟質で、摩滅が著しい。図56-2は凸面に粗い縄目叩きを施し、凹面は布目が残る。図56-4~8は凸面に縄目叩き、凹面は布目が残る。凸面側の離れ砂が著しいものが多い。4は側面の凹面側に圧痕が残り、凸面側は面取りを施す。二次焼成を受けている。6は凹面の狹端面側に面取りを施す。側面側も狭い面取りを施す。6、7は凹面側にコビキ痕が残る。8は凹面狹端面側に幅広の面取りを施す。両面にコビキ痕がみられる。9は丸瓦である。凸面は横方向にナデ、凹面は端面側に横方向の幅広のケズリを施している。4~8は中世の時期が与えられる。1~3はそれより古い特徴がみられる。96、97年度の調査でも瓦の出土は認められたが、軒瓦はなく点数も少ない。

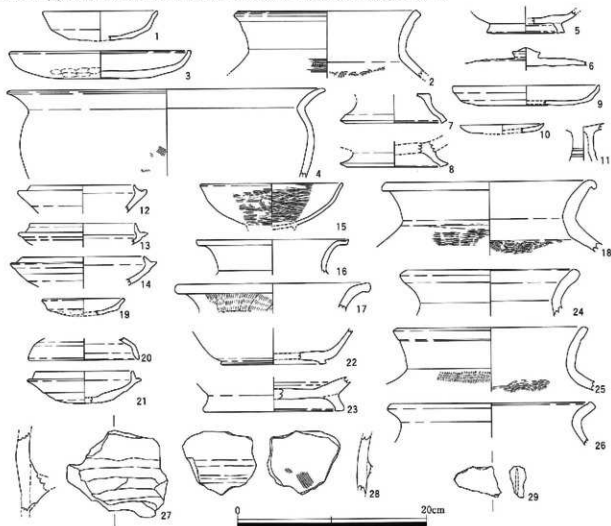


図55 3B-1トレンチ 出土遺物

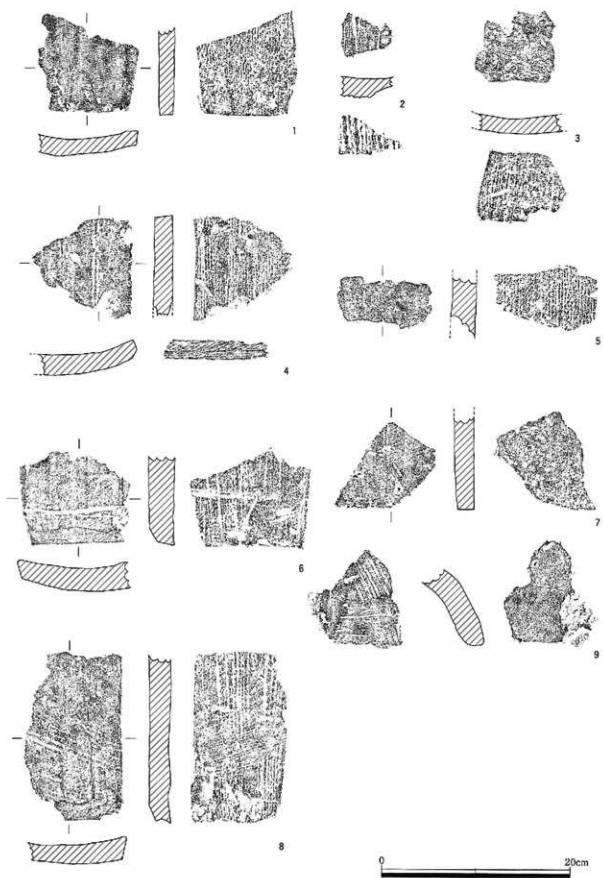


図56 3B-1トレンチ 出土遺物(瓦類)

3B-2 トレンチ

標高45.4m～44.6mのゆるやかな傾斜地である。調査区北側、東側は溜池として利用されている。表土を掘削すると厚い盛土がみられる。1層は細砂。基盤層は北に向かって緩やかに傾斜する。基盤層上面では掘立柱建物、土坑、溝が検出された。

掘立柱建物

掘立柱建物18 (図58)

1間×3間(2.64m×3.14m)(8.29㎡)の建物である。梁間が桁間に比べて長い構造をもつ。ピットは直径30cm前後の円形を呈し、深さ14～26cmを測る。埋土は黒褐色、暗褐色のシルト混じり細砂を主体とする。建物は一部調査区外にのびており、更に南西にのびる可能性も考えられる。

遺物の出土は少なく時期は不明である。しかし、ピットの形状から中世の建物である可能性が高い。

柵列10 (図59)

調査区の東端で検出された。ピット52、53、30、57は南北方向の柵列である。3間(4.1m)確認できた。基盤層が北に向かって傾斜しているため北側のピットは僅かに残るのみであった。ピット52、53は

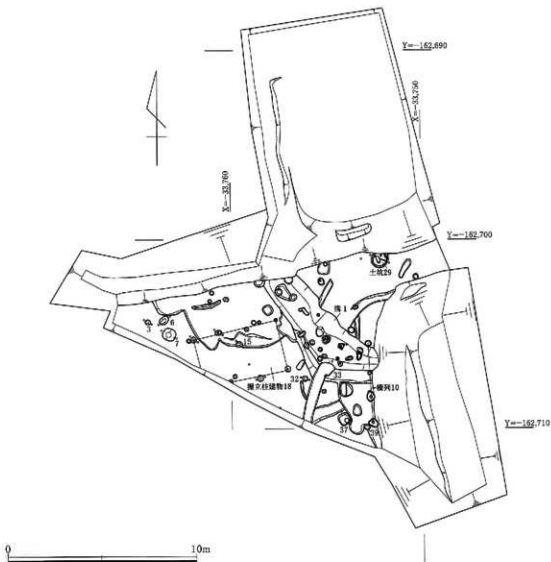


図57 3B-2トレンチ 遺構配置図

直径40cm前後を測る。円形というより楕円形に近い。調査区東側は溜池となっており、本来は東側に広がる掘立柱建物であった可能性が高い。遺物の出土はない。

ビット

ビット37 (図59)

調査区の南東で検出した。約55cm×60cmの隅丸方形を呈し、深さ24cmを測る。埋土は黒褐色シルト混じり細砂。掘立柱建物を構成するようなビットの一部と考えられたが、他に対応するビットは検出されなかった。ビットは比較的深く削平されたとは考えにくい。調査区の南側に展開するものと考えられる。

ビット7 (遺物図62-3、図版18)

調査区の西側で検出した。直径65cm前後の隅丸方形を呈するビットである。深さは50cmと深い。埋土は暗赤褐色の中細砂である。ビットからは図62-3土師器杯が出土した。体部内面は2段の放射状暗紋を施す。底部内面は、摩滅しているが僅かに暗紋が確認できる。外面は疎ではあるがヘラミガキを施す。8世紀前半の時期があたりえられる。建物を構成するような他のビットは検出できなかったが、調査区外にのびる可能性が考えられる。

ビット6 (図60、図版15-2) (遺物 図62-1、2、図版18)

調査区の西側で検出した。38cm×58cmの楕円形を呈する。深さは約40cmを測る。埋土は粘性のある褐色細砂混じりシルトで、炭を含んでいる。ビットからは土師器甕、羽釜が出土した。土器は完形に復元することは出来ず、破損した状態であったと考えられる。下に甕、上に羽釜その間に扁平な石がみられる。

出土遺物は図62-1、2である。1は土師器甕である。口縁部は短く外反し端部は丸くおさめる。2は土師器羽釜である。口縁部は厚みもち短く外反する。端部は面をもつ。甕は端部が丸みを帯びている。ともに古代末～中世初頭の遺物と考えられる。

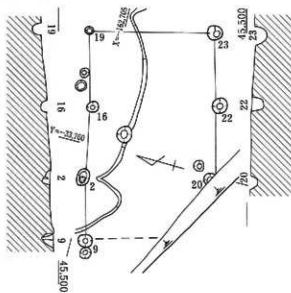


図58 掘立柱建物18 平・断面図

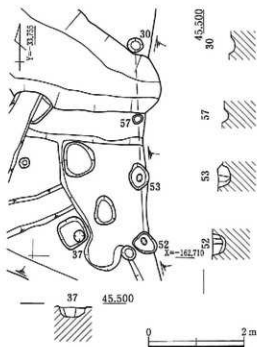


図59 楕列10 平・断面図

土坑29 (図60、図版15-3)

調査区の北側で検出した。北側は段によってきられている。約60cm×80cmの楕円形を呈する。土坑からはサヌカイトの原石が出土した。最も大きいサヌカイトは35cm×15cm×8cmを呈する。他に20cm前後のものもある。埋土はにぶい黄褐色、粗砂混じり細砂である。

溝1 (図61、図版15-4、5) (遺物 図62-6~13、図版19)

調査区は中央から北側に傾斜する落ち込みがみられる。落ち込みの埋土は1層灰褐色細砂と同様である。落ち込みの底部で溝1を検出した。調査区の北西-南東に横断する。幅2.3m、深さは深い部分で約0.7mを測る。断面は台形を呈しており、等高線に並行することからも、人工的に掘削された溝と考えることができよう。埋土は大きく2層に分かれる。上層は灰褐色シルト混じり中〜細砂、下層は褐色シルト混じり中細砂で、中央付近の楕円形に窪んだ部分でみられる。この窪みは1×2mの楕円形を呈しており、窪みの周囲には小さいビットがめぐる。溝自体もこの部分で幅が若干広がり僅かに湾曲している。この窪みからは須恵器の高坏形器台が出土した。攪乱によって分断されており破損していたが、器台はほぼ全体を復元することができる。南側には坏部の破片が集中しており、反対側では脚部の破片が集中している。南を頭にして横倒しになった状況を窺うことができる。下層からは他に須恵器壺が出土している。溝からは他に須恵器壺等が出土しており、6世紀中頃〜後半の年代を考察することができる。調査範囲が狭く溝がどのように伸びていたかは不明であるが、遺物の出土状況からも、単なる溝ではなく古墳の周溝といった可能性も考えられる。調査区では他に古墳時代の遺構は認められない。

図62-6~13は溝1から出土した遺物である。6は土師器碗である。口縁端部はやや尖りぎみで、摩滅が著しく調整は不明瞭である。8、9は須恵器蓋坏である。8は坏蓋で、天井部と体部の境は凹線状を呈している。9は坏身で、体部下半はヘラケズリを施す。10は須恵器高坏である。脚部は欠損しており不明。底部内面は同心円痕をなでけしている。11は須恵器脚付壺である。頸部、脚部は欠損し、体部は最大径の部分で列点紋を施す。12は須恵器壺である。口径13.9cm、器高22cmを測る。上半はカキメ、下半は平行タキを施す。体部内面は当て具痕が明瞭に残る。頸部外面にもカキメを施す。13は須恵器高坏形器台である。口径39.4cm、裾部径31.0cm、器高48.2cmを測る。坏部上半は沈線で区画された2帯の波状紋を施し、下半は平行タキのあとカキメを施す。口縁部はシャープさに欠ける。脚部は6方の4段の透かしで、上3段は長方形、最下段は三角形を呈する。三角形の透かしは長方形の透かしの間に位置するよう配されている。4段とも波状紋を施す。坏部内面は自然軸の付着が著しい。12、13は溝1最下層から出土した。一部、溝1を切る攪乱内から出土した破片と接合している。その他ヘラ記号のある須恵器坏が出土した (図版19-g)。

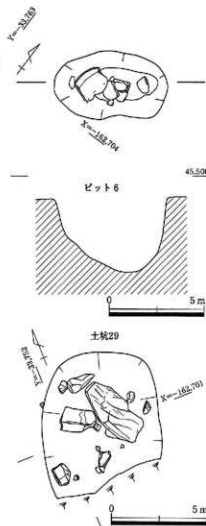


図60 ビット6、土坑29 平面図

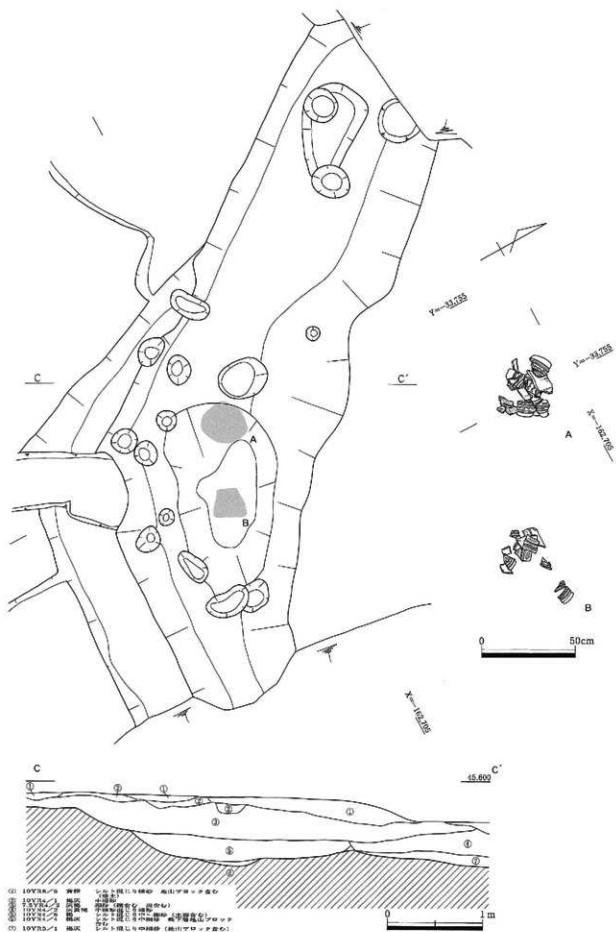


図61 溝1 平・断面図、遺物出土状況図

包含層他出土遺物 (遺物 図62-4、5、14~24)

調査区では北側に向かって傾斜する落ち込みがみられる。図62-4、5は落ち込みから出土した土師器皿である。摩滅が著しい。口径は4が14cm、5が14.8cmに復元できる。図62-14~23は1層から出土している。14は土師器碗で高台部分のみの出土である。15は黒色土器B類の椀で、高台部分のみの出土である。16~18は須恵器坏身である。高台を有するもので16、17は断面台形の高台が付く。8世紀の時期を考える。18は16、17に比べて高台が内側に貼り付き「ハ」の字状を呈する。底部内面は不定方向のナデ。16、17より新しい特徴をもつ。19は坏蓋である。つまみは欠損している。20は有蓋短頸壺の蓋と考えられる。21は黒色土器B類碗である。内外面に比較的幅の狭いヘラミガキを施す。他にも黒色土器

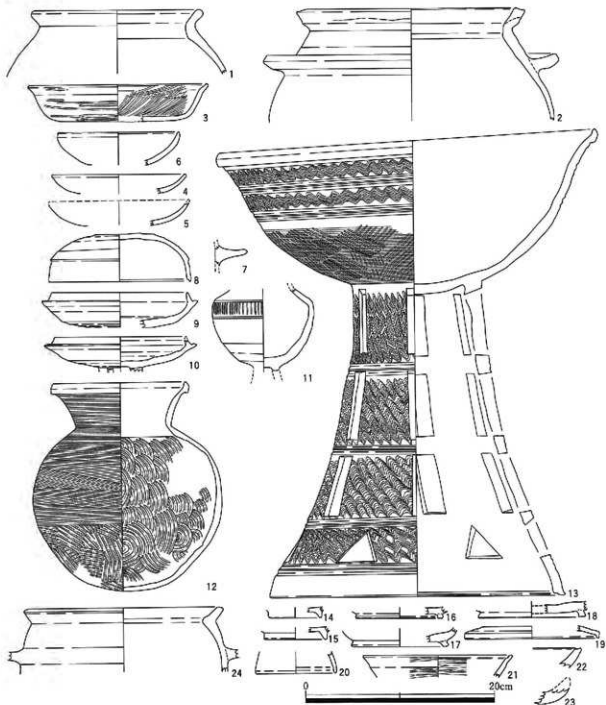


図62 3 B-2トレンチ 出土遺物

B類腕が出土している（図版17-d, e）。22は土師器甕。口縁部のみ出土である。23は土師器把手。平たく舌状を呈する。

出土石器（遺物図63-1~18、図版21）

注目できる遺物に石器が挙げられる。特に石槍の未製品が多くみられた。他に剥片、石核が出土している。このあたりでは、ベース土にもサヌカイトが多く含まれており、上層からのサヌカイトの出土が全て人工的に加工されたものであるとは言えず、風化の著しいサヌカイトも含まれている。その結果、他のトレンチでも遺構埋土（古代~中世）などからサヌカイト片が多く出土している。しかし、3B-2トレンチで出土したサヌカイトは剥片が非常に多く明らかに加工されたとみられるものが多い。ここでは、他の調査区も含めて、今回の調査で出土した石器類についてまとめてみていくこととする。

図63はサヌカイト製の打製石器である。1、2は石鎌である。1は凹基式。2は基部が平らで形は整っていないが完成品と考える。3は二次加工のある剥片である。背面には原稜面が残り、打点は欠損している。下縁、側縁に微細な加工を施す。

4~13は石槍の欠損品、未製品である。4~6はいずれも上下が折損している。全体に加工が及び、側縁部が平行して、形が整っている。横断面はレンズ状を呈する。4、5は中央部に主要剥離面が残り、5は裏面中央部に原稜面が残る。これらはほぼ製品に近いと考えられるが、側縁部の調整剥離が一部では確認できるが十分ではなく、未製品と考えたい。折損したため、放棄されたものであろうか。7~9は先端部の整形が行われている。7は下端が折損している。9も折損しているが、これは新しい割れと考えられる。加工は全体に及んでおり、断面は4~5と同様である。側縁部の調整剥離も一部みられる。しかし、7で顕著のように側縁部からの剥離痕が大きく、結果、側縁部の後はジグザグ状を呈する。8も側縁からの剥離加工を行っているものの、厚みが取り除かれていない。9は先端部も整っており、側縁部も調整剥離を行っているが左側縁部は調整剥離が十分ではない。10、11は全体の形を整える剥離を行っているが、側縁部からの剥離痕が大きく、側縁部の後はジグザグ状を呈している。10、11共には下端は折損している。11も石材はサヌカイトであるが、青い縞状の石目が見えるもので、粗い印象を受ける。10、11は4~9に比べて、側縁部の加工は進んでいない。12、13は全体の形状が分かるものである。12、13とも基部に原稜面が残っている。先端部は意識され、形のある程度整えている。12は両面ともに、側縁から大きな剥片を剥離しており、その結果側縁の後は大きなジグザグ状を呈する。13は片側の側縁部に両面とも大きな剥離痕がみられる。裏面は側縁部からの剥離を行っていない。

14~18は剥片である。14は下端部に微細な調整剥離が確認できるが、刃部を形成するものではない。15、16は縦長の剥片である。15は主要剥離面の打点が残らない。裏面には原稜面が残る。16は裏面がほぼ原稜面である。主要剥離面に剥離加工を施す。17は横長の剥片である。裏面に一部原稜面が残る。18は幅9.3cm、長さ10.2cmと大きい剥片である。打面に原稜面が残る。裏面にも一部原稜面が残る。

ここで、注目されるのは石槍の未製品が非常に目立つことである。美園遺跡では弥生時代前期の石槍の未製品が出土しており、その製作過程が述べられている。第1工程は片面の側面部から粗い剥離をし次の打面を形成する、第2工程は第1工程で得られた打面を利用し、幅を削減、形状を整える、第3加工は整形加工がほぼ全体にわたり、全体の形状が整えられる、第4工程は微細な調整剥離により、先端、基部を整える、仕上げの工程としている。今回出土した未製品は第3工程にあてはまるものが多い。しかし、4~6、9などは第4工程に近く完成品に近いといえる。13は全体の整形加工が進んでおらず、第2工程の段階といえる。

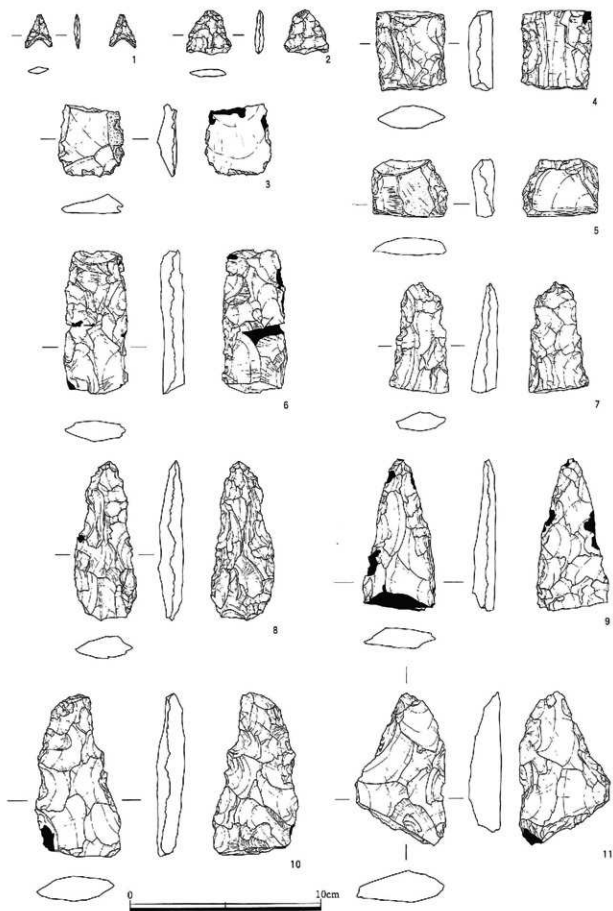


图63—1 出土遺物 (石器)

トレンチでは弥生時代の遺構、遺物は出土しておらず、(竪底部1点のみ)これらのサヌカイトの多くは1層茶褐色土、あるいは溝1埋土からの出土であり、直接的な出土の仕方ではない。しかし、周辺の調査でも(試掘No58、72地点)で未製品が出土しており、96、97年度調査でも蔵塚古墳周溝内より同様の石器が出土している。周辺で石器の製作を行っていたことが考えられる。

胸ヶ谷遺跡周辺では中谷遺跡で槍先形石器の未製品が多く採集されており、石器生産地と位地づけられている。中谷遺跡は今回の調査地から約2km離れた、飛鳥川右岸の丘陵に位置している。今回の未製品の出土は中谷遺跡のあり方に近く、原石採集可能な石器生産地といえよう。

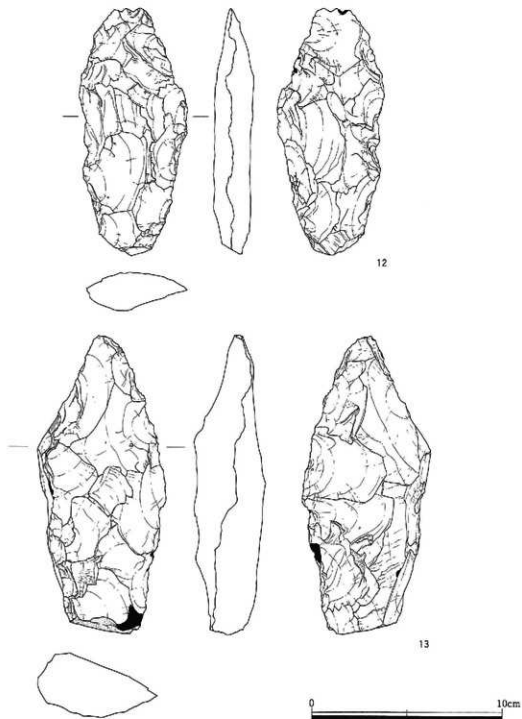


図63-2 出土遺物(石器)

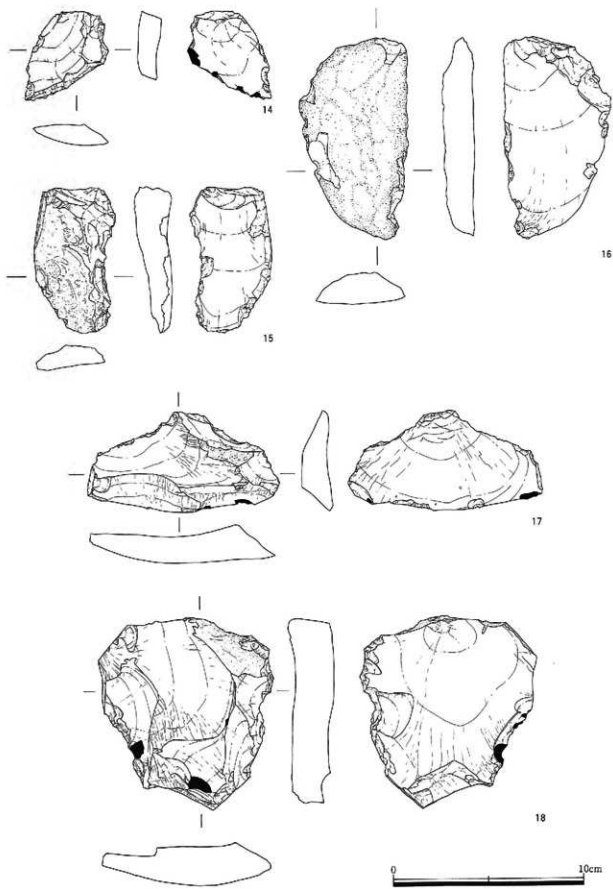


圖63-3 出土遺物 (石器)

第4章 基礎分析

古代における駒ヶ谷遺跡の変遷

今回の調査では多数の掘立柱建物群が検出された。96、97年度の調査では駒ヶ谷遺跡の変遷の中でⅠ期～Ⅳ期にわたる変遷が考えられている。その中で、最も中心的な時期はⅡ期で総柱建物を含めた掘立柱建物が多くみられ、7世紀後半～8世紀の時期が与えられている。この時期の掘立柱建物はピットの形態が隅丸方形を呈している。Ⅲ期は9世紀の時期が与えられているが、この時期の建物を構成するピットは円形を呈している。この成果から、今回検出された建物群のうち、隅丸方形のピットで構成される掘立柱建物は7世紀後半～8世紀のものである可能性が高い。ここでは、96、97年度の調査に今回の調査成果を含め、隅丸方形のピットで構成される建物群について若干の検討を行いたい。

調査の概要の中でも繰り返し述べているように、ピットからの遺物の出土はなく、遺物から建物の時期を考えることは非常に困難である。しかし、建物群は主軸を違えており、ある程度グループ化できるものと考えられる。なお、ここでは96、97年度調査で検出された遺構については、掘立柱建物96-1というように前に年度の数字をつけて表すこととする。

まず、建物群が立地する地形を見ていくこととする。調査地は流路96-580を挟んで、2箇所と比較的傾斜の緩い面として捕らえることが出来る。西端は8Cトレンチで検出された開析谷、東端は流路96-1237である。この緩傾斜面は基本的に南西から北東に傾斜している。以後、西側平坦地、東側平坦地として表すこととする。

西側平坦地はCトレンチにあたり、南西-北東約100m、南東-北西80m、標高は43.0～49.0mを測る。本来は連続した緩い傾斜面であったと思われるが、5Cトレンチでフラットな平坦面を造成しているために段差をもつ。5Cトレンチでは遺構は希薄であるが、削平の結果と考えられ連続して建物群が広がっていた可能性が高い。東側平坦面は南西-北東100m、南東-北西120mを測り、標高41.0～45.0mを測る。西側同様に本来連続した面であったと考えられる。ただし、フラットな平坦面造成のために大きく削られており、遺構が希薄な部分でも、本来建物が存在していた可能性が考えられる。また、蔵塚古墳が存在しており、古代の段階にこの部分でも土地利用がされていることが分かる。

西側、東側平坦地はともに、図2、6でも明らかなように、調査区外に広がりをもっており建物群が更に広範囲に広がる事が推測される。

西側平坦地をみると、中心部分で掘立柱建物3、4、96-1と比較的大型の掘立柱建物がみられる。この3棟は位置的に近接しており、同じ性格をもつものと考えられる。この3棟は建物の主軸方向に違いが見られ、特に掘立柱建物3、4は切りあっており、建物群の変遷と考えることが出来る。この3棟を中心にして、周辺の建物を主軸の違いによって、グループ化を行いたい。

グループ1

掘立柱建物4を中心とするグループである。建物4は北に対して77°度東に傾く。これに軸がほぼ平行、あるいは直交するのは掘立柱建物1、5、6、96-4、96-9である。また、欄列2もこのグループに分けられる。

グループ2

掘立柱建物3（欄列1）を中心とするグループである。建物3は北に対して38°東に傾く。これと軸

がほぼ直交あるいは平行するのは掘立柱建物3の北東に位置する掘立柱建物8、96-8、横列3、4があげられる(掘立柱建物の可能性あり)。溝96-10、12も掘立柱建物3に平行する。このグループでは総柱建物はみられない。

グループ3

掘立柱建物96-1を中心とするグループである。建物96-1は北に対して西に28°傾く。これに軸がほぼ直交、あるいは平行する建物は南に位置する掘立柱建物96-2が挙げられる。また、全体は検出されていないが、掘立柱建物96-6も軸がほぼ揃う。掘立柱建物13、14もこのグループに含まれる。

グループ4

大型の3棟のいずれにも属さないもので、北に近い軸をもつ。掘立柱建物2、96-3、5があてはまる。96-3、5の北側には溝が平行しており、この建物に付随するものと考えられる。

次に東側平坦地を見ていくこととする。掘立柱建物96-11、14、15は北に向かって西に25°前後傾くものである。溝96-679は建物96-11に平行する。横列8、9もこのグループに含まれよう。西側平坦地のグループ1に近い軸をもつ。また、掘立柱建物18は、駒ヶ谷遺跡の調査の中では最も大きい総柱建物で、3間×2間を測る。西側のグループ4に近い軸を持つ。

以上、掘立柱建物は西側、東側を通して、上記の1~4のグループに分けることが出来る(第64図参照)。一見乱雑且つ無秩序な建物配置であるが、建物の軸は意識しているものと考えられる。

最も多くの掘立柱建物が検出されたのは、グループ1である。掘立柱建物4を中心に、東に2間×2間の掘立柱建物、北に2間×2間の総柱建物を2棟配している。掘立柱建物4の北辺と建物1の南辺は柱筋が揃い、掘立柱建物5の東辺と建物6の西辺の柱筋が揃う。これら4棟は1つの群として捉えられよう。掘立柱建物96-4、9はこれより離れており、横列2(掘立柱建物の可能性がある)も含めて一つのまとまりと見ることが出来よう。東側平坦地では掘立柱建物96-14、15が並列しており、柱筋はとまらないものの、同時並存していたと考えられる。横列8、9は掘立柱建物の可能性も考えられ、3Bトレンチでもグループ1の建物が存在していた可能性が高い。このように、グループ1の建物群は、掘立柱建物と総柱建物が組み合わさった、まとまりをもっている。

グループ2は掘立柱建物3を中心に北東に掘立柱建物8を、掘立柱建物8の南に掘立柱建物96-8を配している。このグループは調査範囲内では総柱建物がみられず、また、東側平坦地で展開していない。

グループ3は掘立柱建物96-1、2がほぼ東の辺を揃えており同時並存したものと考えられる。掘立柱建物14は96-2と同じ3間×2間の建物で、梁間が桁間に比して長い特徴をもつ。掘立柱建物14の西に位置する掘立柱建物13は建物に付随すると考えられる横列が建物14と切りあうことから、建替えと考えられる。掘立柱建物96-6は全体の形状が不明であり総柱建物である可能性も高いが、確実な総柱建物は存在しておらず、東側平坦地での展開は見られない。このことはグループ2と同様で、グループ1より狭い範囲での展開がみられる。

グループ4は掘立柱建物96-3、5が並列しており、同時並存していたものと考えられる。西側平坦地では掘立柱建物2が西側に位置している。東側平坦地では掘立柱建物17があげられたが、これらは全て総柱建物である。特に建物17は今回の調査区の中で唯一の3間×2間の総柱建物である。これを中心とした建物群が調査範囲外に広がることは十分に期待できる。

次にグループの前後関係を見ていくこととする。ピットの切り合い関係から、掘立柱建物3は掘立柱建物4に先行しており、グループ2はグループ1に先行する。掘立柱建物2は掘立柱建物6に切られる

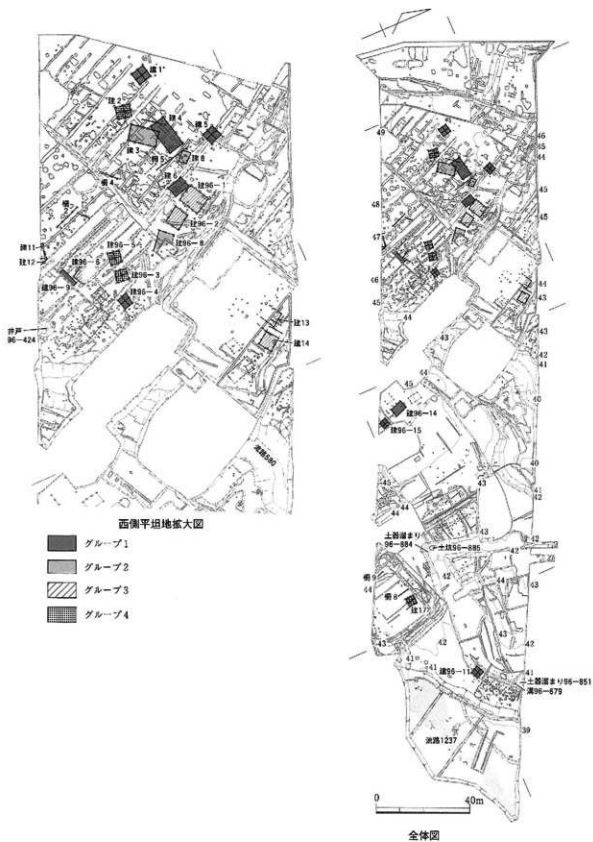


図64 据立柱建物配置図

ことから、グループ3はグループ1に先行する。グループ2とグループ3の前後関係は直接分らないが、掘立柱建物3と4はその規模が近く、ともに東に面する桁側の柱が1本少ない。また、掘立柱建物4に対して東に建物6、掘立柱建物3に対して北に位置する建物8の組み合わせは共通するものである。掘立柱建物6、8はともに、2間×2間であるが、東西の柱間が狭いという点でも共通する。以上の点から掘立柱建物3、4を中心とする建物群は同じ性格をもつものが建替えを行ったと考えることができる。このように考えるとグループ1と2はさほど時期差がないと考えられ、グループ3はグループ1に先行する可能性が高い。次にグループ4である。これは、全体が分かるものは全て総柱建物で構成されている。他の建物との前後関係は切り合いを持たず前後関係は不明である。ここで興味深い点は、グループ2、3では総柱建物のみならず、逆にグループ4は総柱建物のみで構成されていることである。この点を考えると、グループ2、3の倉庫がグループ4と考えることもできようが、グループ4は最も北に近い軸を持っており、最も新しい建物群の可能性も考えられる。

掘立柱建物からの遺物が少なく、それぞれのグループに時期を当てはめるのは非常に困難ではあるが、西側平坦地と東側平坦地を分断する流路96-580からは、概ね8世紀前半～9世紀前半頃の遺物が出土しており、東側平坦地、掘立柱建物96-11周辺では、溝96-679からは7世紀後半～8世紀、土器溜まり96-851から8世紀前半～8世紀中頃、流路96-1237からは7世紀後半～8世紀の遺物の出土がみられる。また、土器溜まり96-884、885からは8世紀前半～中頃の遺物が集中してみられる。西側平坦地では三彩の小壺が出土した井戸96-424からは8世紀中頃～9世紀初頭の遺物がみられ、ピット183からは地鎮を目的としたと考えられる8世紀中ごろの土師器皿が出土している。このような状況から7世紀後半～8世紀の建物群と推測でき、その中でグループ3→2→1の変遷が考えられる。

また、今回検出した各掘立柱建物は、柱間が一定せず、特に桁間の1間の長さが梁間の1間の長さ比べて短い傾向がみられた。また、グループ2、3はグループ1に比べて柱間が短い傾向が強くみられた。細かい検討は行っていないが、建物の軸の違いと一致する点で興味深い。

以下、整理してみると

1. 7世紀後半～8世紀にかけて、建物の軸を異にする4つのグループにわけることができ、少なくとも3期以上の変遷を考えることができる。
2. 最もこの地点で建物が広範囲かつ、密集して建てられたのはグループ1であり、軸を同じくした倉庫を伴っている。
3. これに先行するグループ2、3は倉庫を伴わず、東側平坦地で展開していない。
4. グループ2、3はグループ4に比べて柱間が狭い。
5. グループ4は総柱建物のみで構成されており、西側、東側平坦地でみられた。調査区外にこのグループの建物群が展開する可能性が考えられる。

このように、調査では整然と並んだ建物配置をもつ建物群は検出されていない。しかしながら、全く無秩序に建物が存在していたわけではなく、ある程度の規則性をもっていたことが明らかとなった。また、今回は触れていないが、駒ヶ谷遺跡Ⅱ(99年度調査)では8Cトレンチ北西側の丘陵斜面において、多くの古代の掘立柱建物が検出されている。これらの建物を含めて、飛鳥川を望む段丘、丘陵上では多くの建物がまとまりをもって展開していたことが考えられる。

第5章 まとめ

弥生時代

3B-2トレンチで石器が多く出土した。剥片、チップも多く出土しているが、特に石槍の未製品と考えられるものが多く出土しており、96、97年度調査でも蔵塚古墳周濠下層から未製品と考えられる石槍（石剣）の出土がみられる。トレンチの南西側の試掘調査においても、同様の未製品が出土している（図6）。石器は遺構に伴うものではなく、今回の調査では弥生時代の遺構、遺物は見つかっていないが、周辺一帯で石器の加工を行っていたと考えられる。

石器の製作地としては、飛鳥川右岸に位置する中谷遺跡が良く知られている。やはり、石槍の未製品が多く出土しており注目される。ここでも、石器以外の遺物の出土はみられない。石川左岸に位置する喜志遺跡では未製品を含む多量の石器が出土している。しかし、集落内での石器製作址という点では、駒ヶ谷遺跡や中谷遺跡とは異なっている。素材を採取できる生産地として、駒ヶ谷遺跡や中谷遺跡がどのように消費地と結びついていたのか、今後の課題である。

古墳時代後期

96年度調査では蔵塚古墳が新規に見えられた。蔵塚古墳は6世紀中頃に築造された前方後円墳で、飛鳥川を挟んだ対岸に位置する飛鳥千塚古墳群の盟主墳の可能性を指摘されており、飛鳥戸造氏との関連が考えられている。今回、蔵塚古墳の南東に位置する3B-2トレンチでは古墳時代中頃～後期に所属する溝1を検出した。溝1は人工的に掘削された溝で、須恵器器台がほぼ完形で出土するなど、古墳の存在を示唆するものとして興味深い。既往の調査で述べたように、周辺の丘陵上では、後期の小規模な円墳が点在している可能性が指摘されている。3B-2トレンチは非常に狭く、他に古墳時代の遺構は検出されていないが、後方には連続する平坦面が続いており、興味深い。

7Cトレンチでは土坑318、110、210などで、6世紀後半～7世紀初頭の遺物を含む遺構が検出された。当該期の遺構が検出される範囲は狭く、7Cトレンチ東側に限られ、96、97年度調査で検出された6世紀中頃の埴輪を出土した竪穴住居が近接している。99年度調査では丘陵裾部で当該期の竪穴住居、掘立柱建物が検出され、これらの住居について、蔵塚古墳造営者達の一時的居住施設の可能性が述べられており、今回の遺構もこれに附随するものと考えられる。

飛鳥・奈良時代

今回の調査では掘立柱建物を多数検出した。この時期の遺構が最も密度が高い。柱穴内からの遺物の出土は非常に少なく、建物の時期の確定は非常に困難であった。しかし、僅かに出土した遺物や周辺の調査成果から、隅丸方形の柱穴をもつ建物は7世紀後半～8世紀の建物と考えられよう。調査地は中央に流路580（96、97年度調査）を挟み、西側と東側に分かれている。掘立柱建物は軸によって4つにグループ化することができ、少なくとも3期の変遷を考えることが出来た。西側では30mを超える大型の建物がみられ、この大型の建物はこの地点での中心的な建物であり、同じ軸をもつ倉庫を含めた建物との組み合わせが考えられる。東側では2間×3間の大型の総柱建物が検出されており、調査区外に建物群が更に展開する可能性が高い。また、これらの建物群を形成するにあたり、蔵塚古墳の周濠を一部埋めており、これまでの報告で指摘されているように、この古墳の破壊を伴う開発という点は非常に意味深く、新しい体制のもと、開発がすすめられていることを示唆している。

当地域は、古代の官道である丹比道（竹内街道）を見下ろす交通の要衝にあたり、また、三彩壺や製

塩土器、硯、凝灰岩切石、墨書土器の出上から一般的集落ではなく公的な施設である可能性が指摘されている。今回の調査地の掘立柱建物4（前段階の3）、を中心とした建物群は、調査地点での中心的な建物であることは間違いないであろう。しかし建物の配置にはその軸を描える意識はみられるものの、配置自体にさほど計画性が見られず、倉庫や掘立柱建物の規模に突出した様子は見られず、一般に官衙といわれるものとは景観を異にしている。ただ、このように多くの建物が集中している7Cトレンチで、廃棄土坑などが全く見られない点は特徴的である。また、今回の調査区外で連続した緩斜面が続いており、今後、更に建物群がみられる可能性は高い。周辺の段丘面上でも、7世紀から8世紀と考えられる建物が検出されており、それぞれの調査は小規模なもので、建物の広がりや構成は不明ではあるが、開析谷で分断された緩斜面上で、まとまりをもった建物群の存在が推測できる。また、99年度調査で明らかのように、丘陵斜面にも当該期の建物群がみられる。焼土坑、鉄釘、輪の羽口などがみられることから、工房的性格をもった集落と考えられ、段丘上の建物群と密接な関係を持つものと考えられる。このように、飛鳥川を望む丘陵、段丘上においては、広範囲に建物群が広がる景観が復元できよう。

古代律令期において、地方と中央を結ぶ官道は、交通のみでなく計画的な土地区画の基準になるなど非常に重要な意味をもつ。石川左岸では丹比道沿いに多くの寺院が建立され、野々上遺跡、はさみ山遺跡、菅田白鳥遺跡、伊賀遺跡、高鷲中島遺跡、真福寺遺跡、郡戸遺跡など、計画的な配置された掘立柱建物群がみられ、一般集落とは性格を異にする遺跡が多くみられる。一方、駒ヶ谷遺跡は石川と飛鳥川に挟まれ、大黒丘陵を背に一種閉鎖的な環境の中に立地している。それにも関わらず、限られた緩斜面を利用し、あるいは丘陵地に至って、広範囲に建物群が立ち並ぶ状況は、やはり丹比道とのかかわりの中での意味が大きいものと考えられる。また、この地域が安宿戸造氏をはじめ、渡米系氏族と関係の深い地域であったことも、忘れてはならない。駒ヶ谷遺跡は安宿郡に属しているが、郡衙は、「郡田」「安宿寺」の墨書土器が出土した円明遺跡が推定されている。従来から指摘されているように、駒ヶ谷遺跡は官道に面した饗宴施設といった公的な性格が考えられよう。

平安時代以降

今回の調査でも、平安時代と考えられる溝、中世の掘立柱建物、土坑等、検出しているが、飛鳥、奈良時代に比べて、遺構は希薄である。

以上、簡単ではあるが調査成果の概要である。特に飛鳥、奈良時代については、官道沿いの類似した遺跡との比較検討が重要であり、今後の課題とした。

最後に、古代の飛鳥川に思いをはせてみたい。

明日香川 もみじ葉流る 葛木の山の木の葉は今し散るらし 万葉集

第3章、第4章、第5章 参考文献

- 1) 同志社大学旧石器文化談話会 1974年 『ふたがみ』 学生社
- 2) 藤森 武 1985年 『美濃遺跡における石棺製作工程の分析』 『美濃』 大阪府教育委員会 (財)大阪文化財センター
- 3) 羽曳野市教育委員会 1992年 『羽曳野市駒ヶ谷地区埋蔵文化財試掘調査報告書』
- 4) 羽曳野市教育委員会 1994年 『羽曳野市史』 第3巻
- 5) 羽曳野市教育委員会 1997年 『羽曳野市史』 第1巻
- 6) (財)大阪府文化財調査研究センター 1998年 『蔵塚古墳』
- 7) (財)大阪府文化財調査研究センター 1999年 『駒ヶ谷遺跡』
- 8) (財)大阪府文化財調査研究センター 2002年 『駒ヶ谷遺跡II』

表1 (1) ~ (3) 報告書掲載遺物一覧 67ページから69ページ

表2 (1) ~ (7) 主要ピット観察表 70ページから76ページ

報告書中、詳細について触れられなかったピットについても、主要なものは出来る限り、アーターとして記載するよう努めた。

埋土については、掘方埋土をBとし、上層、下層に分かれるものは下層をCとしている。また、柱痕はAとしている。ピットの法量について、平面は1/50の空測図から計測した。深さについては、基本的に1/20の断面図から計測した。() 内のものは1/50の空測図から計測している。

図65-(1) ~ (2) 掘立柱建物・柵列模式図 77ページから78ページ

表3 掘立柱建物・柵列観察表 78ページ

掘立柱建物の柱間の距離については、1/50の空測図より計測した。基本的には柱痕の心心距離であるが、柱痕が遺存しないものについては、その限りではない。また、桁行、梁行については、隣の柱から直線距離のうち、長いほうを採用している。

表1-(1) 報告書掲載遺物一覧

| No. | No | トレンチ | 遺物、層名 | 寄附 | 口径 | 底径 | 器高 | 色調 | 検定 | 取上 | 備考 | |
|-----|----|---------|---------------|------|-----------|---|--------------------------------|------------------------------|-------------------|----|---|---------------|
| 12 | 1 | 8C | 土塊 1 | 骨組 | φ4 | 残高2.1 | | | | 骨 | 遺物群 | |
| 37 | 1 | 16 7C | ④-①①③ 土師器 皿 | 14.4 | 2.4 | 残高5.8 底 | 良 | 2m以下灰石、石灰 | | | 外部、口縁部ロコナデ、底部内面ナデ、底面外面ナデナデ | |
| 37 | 2 | 16 7C | ④-①①③ 土師器 皿 | 15.6 | 2.5 | 内外 5YR6/6 底 底面 7.5YR6/6 灰褐色 | 良 | 0.5m以下灰石、石灰 | | | 口縁部灰、器取うすい、底部外面ヘラクスリ | |
| 37 | 3 | 16 7C | ④-①①③ 土師器 皿 | 23 | 2.5 | 外側 5YR6/4にぶい 内 5YR5/6赤褐色 | 良 | 0.5m以下灰石、石灰 | | | 口縁部灰、底面内面灰状検定、底面内面灰状検定、底面外面ナデナデナデ | |
| 37 | 4 | 17 7C | ④-1 3 2 土師器 杯 | 12.2 | 残高2.5 | 4/ 灰 | 悪 | 0.5m以下灰石、石灰、黒色粒 | | | ロコナデ | |
| 37 | 5 | 7C | ④-2 1 0 土師器 杯 | 18 | 残高1.7 | 5YR5/6 底 | 良 | 0.5m以下灰石、石灰 | | | 高付片、底面内面灰状検定、底部内面灰状検定 | |
| 37 | 6 | 7C | ④-2 1 5 土師器 杯 | 20.8 | | 5YR5/6 底 | 良 | 0.1m長石、石灰 | | | 口縁部外に黒く、口縁部灰、器取うすい | |
| 37 | 7 | 7C | ④-2 1 4 土師器 杯 | 7.6 | 残高2.1 | 5B6/ 青灰 | 良 | 2m以下灰石、石灰 | | | ロコナデ、口縁部灰よく残る | |
| 37 | 8 | 7C | ④-2 1 2 土師器 杯 | | 残高4.2 | 外 5YR6/6 底 | 良 | 2m以下灰石、石灰 | | | 口縁部外にもつ、口縁部内面ナデにヘラ | |
| 37 | 9 | 7C | ④-①①③ 土師器 杯 | | | 内 5YR6/4 にぶい赤褐色 外側 5YR5/6赤褐色 | 良 | 2m以下灰石、石灰 | | | 跡のみ | |
| 37 | 10 | 7C | ④-①①③ 土師器 杯 | | | 外 5YR5/4にぶい赤褐色 内側 7.5YR5/2赤褐色 | 良 | 3m以下灰石、石灰、青 灰色 | | | 跡のみ | |
| 37 | 11 | 7C | ④-①①③ 土師器 杯 | | | 残高1.8 | 内外 5YR5/6 赤褐色 内側 5YR5/6 赤褐色 | 良 | 0.5m以下灰石、石灰 | | | 口縁部のみ |
| 37 | 12 | 7C | ④-①①③ 土師器 杯 | | | 残高1.7 | 外 5YR6/6 底 | 良 | 1m以下灰石、石灰、赤 色粒 | | | 内面灰状検定、外部ヘラミカ |
| 37 | 13 | 17 7C | ④-①①③ 土師器 杯 | 14 | 残高3.2 | 外 5B/ 灰 | 悪 | 3m以下灰石、石灰、黒 色粒 | | | 外側外面ヘラクスリ、他ロコナデ | |
| 37 | 14 | 7C | ④-①①③ 土師器 杯 | 13.7 | 残高1.9 | 内外 5YR6/6 底 底面 7.5YR6/2 灰 | 良好程度 | 1m以下灰石 | | | ロコナデ、破片 | |
| 37 | 15 | 7C | ④-①①③ 土師器 杯 | 11 | 残高2.0 | 7.5YR6/2 灰 | 悪 | 0.5m以下灰石、石灰 | | | ロコナデ、破片 | |
| 37 | 16 | 7C | ④-①①③ 土師器 杯 | 13.6 | 残高2.7 | 内外 5B/ 灰 内 5B/ 灰 | 悪 | 0.5m以下灰石、石灰 | | | ロコナデ、破片 | |
| 37 | 17 | 7C | ④-①①③ 土師器 杯 | 13 | 2.8 | 5YR/ 灰 | 悪 | 1m以下灰石、石灰 | | | 外側外面ヘラクスリ、他ロコナデ | |
| 37 | 18 | 7C | ④-①①③ 土師器 杯 | 12 | 残高1.9 | 内外 5B/ 灰 底面 2.0YR3/2 緑赤褐色 | 悪 | 0.5m以下灰石、石灰、黒 色粒 | | | ロコナデ、あるいは復原面露か | |
| 37 | 19 | 7C | ④-①①③ 土師器 杯 | 13 | 残高1.2 | 5Y7/1 灰 | 悪 | 0.5m以下灰石、石灰、黒 色粒 | | | つまみ欠損、ロコナデ | |
| 37 | 20 | 7C | ④-①①③ 土師器 杯 | 10.0 | 残高2.2 | 7.5YR5/1 緑灰 | 悪 | 0.5m以下灰石、石灰、黒 色粒 | | | ロコナデ | |
| 37 | 21 | 17 7C | ④-①①③ 土師器 杯 | 8.7 | 残高2.7 | 5B6/1 青灰 | 良好程度 | 3m以下灰石、チャート | | | 底部赤褐色、他ロコナデ、底部内面不定 方向ナデ、ゆがみ大きく、責任は特定 困難 | |
| 37 | 22 | 7C | ④-①①③ 土師器 杯 | 12.5 | 残高3.2 | 5YR6/6 底 | 良 | 2m以下灰石、石灰、赤 色粒 | | | 口縁部ロコナデ、外部外面下ヘラクスリ | |
| 37 | 23 | 7C | ④-①①③ 土師器 杯 | 18 | 残高2.2 | 2.5YR6/6 底 | 良 | 1m以下灰石 | | | 口縁部厚く、底面内面灰状検定 | |
| 37 | 24 | 7C | ④-①①③ 土師器 杯 | 17.8 | 残高2.6 | 7.5YR6/6 底 | 良 | 密 | | | 内面灰状検定、および底面灰状検定、外 面ヘラミカ | |
| 27 | 25 | 16 7C | ④-①①③ 土師器 杯 | 13.8 | 13.3 | 18 灰 / 灰 5Y/ 灰白 | 良好程度 | 2m以下灰石、チャート | | | 長径約2倍、(3方向)、上縁灰方 露出し、(ほとんど取り込みだけ)、下縁 三角露出 | |
| 27 | 26 | 16 7C | ④-①①③ 土師器 杯 | 13.2 | | 外 5B/ 灰 3.7 内側 5B/ 灰 | 良好程度 | 4m以下灰石、チャート | | | 外部上から灰層部ヘラクスリ、他ロコ ナデ | |
| 27 | 27 | 16 7C | ④-①①③ 土師器 杯 | 12.2 | 4.1 | 5B6/1 青灰 | 良好程度 | 3m以下灰石、チャート | | | 外部外面下から底部ヘラクスリ、他ロ コナデ、底面内面仕上げナデ | |
| 27 | 28 | 16 7C | ④-①①③ 土師器 杯 | 12.4 | 4.4 | 外 5Y7/1 灰白 | 悪 | 1m以下灰石、石灰 | | | 外部上中、外側ヘラクスリ、他ロコ ナデ、外側ヘラミカあり | |
| 27 | 29 | 7C | ④-①①③ 土師器 杯 | 10 | 残高3.6 | 内外 5B/ 灰 底面 2.5YR5/2 緑赤褐色 | 良 | 1m以下灰石、石灰 | | | 下のみ、ロコナデ、断面形状の小さい 片、内面内面露出 | |
| 37 | 30 | 16 7C | ④-①①③ 土師器 杯 | 12.6 | 残高3.0 | 内側 7.5YR6/6 底 | 良 | 0.5m以下灰石、石灰 | | | 器蓋らしい、外部外面下ナデナデナデ | |
| 37 | 31 | 7C | ④-①①③ 土師器 杯 | 12.8 | 残高3.2 | 外 5B/ 灰 | 悪 | 1m以下灰石、石灰 | | | 外側外面ヘラクスリ、他ロコナデ、外 部口縁部の灰層検定、口縁部灰層あり | |
| 37 | 32 | 16 7C | ④-①①③ 土師器 杯 | 12.4 | 9.2 | 残高5.1 | 外 5Y7/1 灰白 | 悪 | 2m以下灰石、石灰、黒 色粒 | | 跡のみ、ロコナデ、遺物 | |
| 46 | 1 | 17 6C-1 | ④-①①③ 土師器 杯 | 21.8 | 残高3.5 | 外内 7.5YR7/4 にぶい 5YR5/4 にぶい | 良 | 2-1mの石灰石かつ0.5 m以下の灰石、石灰あり | | | 器蓋よく調整不可、底面内面灰方ナ デ | |
| 46 | 2 | 17 6C-1 | ④-①①③ 土師器 杯 | 12.1 | 残高5.1 | 外 7.5YR6/3 赤 内側 7.5YR6/4 にぶ い | 良 | 1m以下灰石、チャート | | | 口縁部外、口縁部ロコナデ、内部 内面ナデのナデ、外面露ナデ | |
| 46 | 3 | 6C-1 | ④-①①③ 土師器 杯 | 12.6 | 残高2.0 | | 良 | 良 | | | 口縁部 | |
| 46 | 4 | 17 6C-1 | ④-①①③ 土師器 杯 | 10.7 | 残高2.5 | 外 5B6/1 青灰 | 良好程度 | 2m以下灰石、チャート | | | 底部のみ、ロコナデ、底面外面灰方ナ デ | |
| 46 | 5 | 6C-1 | ④-①①③ 土師器 杯 | 12.7 | 残高1.1 | 外 5B/ 灰 内側 7.5YR5/4 赤褐色 | 良好程度 | 1m以下灰石、チャート | | | 底面内面灰方ナデ | |
| 46 | 6 | 6C-1 | ④-①①③ 土師器 杯 | | 残高4.5 | 5B6/1 赤褐色 | 良 | 3m以下灰石、チャート | | | 内面露ナデ | |
| 46 | 7 | 6C-1 | ④-①①③ 土師器 杯 | 12.6 | 3.2 | 内外 5B6/1 青灰 底面 2.5YR4/2 灰赤 | 良好程度 | 1m以下灰石、チャート | | | 外部外面ヘラクスリ、他ロコナデ、外側 内面仕上げナデ、赤 | |
| 46 | 8 | 6C-1 | ④-①①③ 土師器 杯 | 14.6 | 残高2.8 | 外 5B5/1 青灰 内側 5B7/1 青灰 底面 2.5YR5/2 灰赤 | 良好程度 | 1m以下灰石、チャート | | | ロコナデ | |
| 46 | 9 | 6C-1 | ④-①①③ 土師器 杯 | 14.3 | 残高 1.9 | 5Y/ 灰白 | 良好程度 | 1m以下灰石 | | | ロコナデ | |

表1-(2) 報告書掲載遺物一覧

| 国名 | No | 遺跡名 | 遺跡番号 | 遺跡 | 口数 | 形状 | 高さ | 色別 | 構造 | 出土 |
|----|----|-----|------|-------------------------|-----|----|------|---|-----|---|
| 46 | 10 | 17 | 6C-1 | 3層 | 土師器 | 円筒 | 22 | 残高4.7 内外黄褐色 断面 5YR6/6 黄 | 瓦 | 2m以下瓦石、石質、チャート 遺物出土方向に広がる。口縁部断面三角。器底軌状工具痕跡も残るコナテ |
| 46 | 11 | 17 | 6C-1 | 4層 | 灰土層 | 遺 | 30.2 | 残高2.6 外 7.5YR4/3 黄 内 5YR5/4 灰白 | 瓦 | 1m以下瓦石、チャート |
| 46 | 12 | 17 | 6C-1 | 4層 | 土師器 | 丸 | | 残高7 外 7.5YR4/3 黄 内 5YR5/4 灰白 | 瓦 | 0.5m以下瓦石、石質 胴部と腰部の境目なし。チャート多い |
| 55 | 1 | 18 | 3B-1 | 溝4.6 | 土師器 | 筒 | 12 | 3.1 外 7.5YR2/1 に近い黄 内 7.5YR6/4 に近い黄 断面 10YR8/2 黄褐色 | 瓦 | 1m前後の瓦石わずかにあり 0.5m以下の石質、瓦、長石あり 口縁部内面同心円、外周平行タタキのちり 0.5m以下の石質、瓦石あり 口縁部コナテ、腰部、器底外面指すオキ、木炭痕跡、口縁部粗点 |
| 55 | 2 | 18 | 3B-1 | 溝4.6 | 灰土層 | 遺 | 18.8 | 残高7.15 内外 2.5Y6/1 黄灰 断面 2.5Y7/1 灰白 | 瓦 | 1~2mの石質、長石あり 器底内面同心円、外周平行タタキのちり 0.5m以下の石質、瓦石あり 口縁部コナテ、腰部、器底外面指すオキ、木炭痕跡、口縁部粗点 |
| 55 | 3 | 18 | 3B-1 | 溝4.7 | 土師器 | 皿 | 28.5 | 2.9 断面 5YR5/6 黄 | 瓦 | 0.5m以下の瓦石、石質あり 口縁部内面同心円、外周平行タタキあり 木炭痕跡、口縁部粗点 |
| 55 | 4 | 18 | 3B-1 | 溝4.7 | 土師器 | 丸 | 32.4 | 残高3.1 断面 5YR5/6 黄 | 瓦 | 0.5m以下の瓦石、石質あり 器底内面同心円、外周平行タタキあり 木炭痕跡、口縁部粗点 |
| 55 | 5 | 18 | 3B-1 | 溝4.7 | 灰土層 | 遺 | 8.2 | 残高2.7 断面 5Y7/ 灰白 | 瓦 | 0.5m以下の瓦石、石質あり 器底内面同心円、外周平行タタキあり 木炭痕跡、口縁部粗点 |
| 55 | 6 | 18 | 3B-1 | 溝4.6 (溝4.6 er4.7) | 灰土層 | 遺 | 1 | 残高4.9 断面 5Y7/ 灰白 | 瓦 | 2m以下瓦石、チャート 天井部外周ヘラケズリ、内面コナテ、不定方向のナテ |
| 55 | 7 | 18 | 3B-1 | 溝4.6 (溝4.6 er4.7) | 灰土層 | 遺 | 10.1 | 残高3.1 断面 5Y5/ 青灰 内面 5Y7/ 灰 | 瓦 | 良好状態 2m以下瓦石、チャート コナテ |
| 55 | 8 | 18 | 3B-1 | 溝4.6 (溝4.6 er4.7) | 灰土層 | 遺 | 11.3 | 残高2.7 断面 5Y5/ 青灰 内面 5Y6/1 青灰 | 瓦 | 良好状態 1m以下瓦石、チャート コナテ |
| 55 | 9 | 18 | 3B-1 | 溝4.3 | 土師器 | 皿 | 15.4 | 2.1 外 7.5YR5/2 に近い黄 内 5YR7/4 黄褐色 断面 5YR5/6 黄 | やや軟 | 1m以下瓦石、石質、雲母 全体に黄褐色、口縁部コナテ、指すオキあり |
| 55 | 10 | 18 | 3B-1 | 溝4.4 | 土師器 | 皿 | 8.6 | 残高0.9 断面 5Y7/ 灰 | 不登 | 1m以下瓦石、雲母 ナテ |
| 55 | 11 | 18 | 3B-1 | 溝4.2 | 灰土層 | 遺 | | 残高3.8 断面 5Y6/1 青灰 | 瓦 | 密 胴部2条の沈積 コナテ |
| 55 | 12 | 18 | 3B-1 | 溝4.3 | 灰土層 | 遺 | 11 | 残高2.9 断面 5Y4/1 灰 内 5Y5/ 灰 | 瓦 | 0.5m以下の瓦石、石質あり コナテ |
| 55 | 13 | 18 | 3B-1 | 溝4.3 | 灰土層 | 遺 | 11 | 残高2.2 断面 5Y6/ 灰 | 瓦 | 0.5m以下の瓦石、石質あり コナテ、塵芥 |
| 55 | 14 | 18 | 3B-1 | 溝4.3 | 灰土層 | 遺 | 12.8 | 残高3.1 断面 5Y7/ 灰白 | 瓦 | 0.5m以下の瓦石、石質あり 口縁部、器底外面と手コナテ、下平ヘラケズリ、外面自然焼 |
| 55 | 15 | 18 | 3B-1 | 溝4.3 | 瓦器 | 丸 | 14.8 | 残高4.4 断面 5Y5/1 青灰 内 5Y6/1 青灰 | 瓦 | 1m以下瓦石、チャート 密、高台欠損 コナテ、内面自然焼付着 |
| 55 | 16 | 18 | 3B-1 | 溝4.3 | 灰土層 | 遺 | 16 | 残高3.7 断面 5Y6/1 青灰 | 瓦 | 密 コナテ、内面自然焼付着 |
| 55 | 17 | 18 | 3B-1 | 溝4.3 | 灰土層 | 遺 | 19.9 | 残高3.0 断面 5Y6/1 青灰 内 5Y6/1 青灰 | 瓦 | 良好状態 4m以下瓦石、チャート 胴部、軌状工具痕跡方向に広がる |
| 55 | 18 | 18 | 3B-1 | 溝4.4 | 灰土層 | 遺 | 21.7 | 残高2.6 断面 5Y7/ 灰白 内 5Y6/1 青灰 | 瓦 | 良好状態 2m以下瓦石、チャート 器底内面同心円、外周平行タタキ、口縁部コナテ |
| 55 | 19 | 18 | 3B-1 | 溝4.4 | 瓦器 | 皿 | 8.4 | 1.7 内外 5Y6/ 灰白 断面 5Y6/ 灰白 | 瓦 | 1m以下瓦石、チャート 全体に黄褐色。器底下平ヘラケズリ |
| 55 | 20 | 18 | 3B-1 | 溝4.4 | 灰土層 | 遺 | 11.2 | 残高2.2 断面 5Y6/1 灰 内 5Y5/1 灰 | 瓦 | 0.5m以下の瓦石、長石あり コナテ |
| 55 | 21 | 18 | 3B-1 | 溝4.4 | 灰土層 | 遺 | 10.2 | 3.4 断面 5Y5/1 青灰 | 瓦 | 良好状態 2m以下瓦石、チャート 器底下平ヘラケズリ、器底内面 変方向のナテ |
| 55 | 22 | 18 | 3B-1 | 溝4.4 | 灰土層 | 遺 | 11.1 | 残高3.8 断面 5Y7/ 灰白 | 瓦 | 良好状態 2m以下瓦石、チャート 器底コナテ、外面自然焼 |
| 55 | 23 | 18 | 3B-1 | 溝4.4 | 灰土層 | 遺 | 14.2 | 残高3.1 断面 5Y7/ 灰 | 瓦 | 2~1mの石質若干0.5m以下の瓦石、石質あり 内面自然焼付着 |
| 55 | 24 | 18 | 3B-1 | 溝4.4 | 灰土層 | 遺 | 17.7 | 残高4.8 断面 5Y7/1 灰白 | 瓦 | 0.5m以下の瓦石、長石あり コナテ、自然焼付着 |
| 55 | 25 | 18 | 3B-1 | 溝4.4 | 灰土層 | 遺 | 19.6 | 残高5.9 断面 2.5Y7/1 灰白 内 5Y5/ 灰 | 瓦 | 0.5m以下の瓦石、石質あり(磁石) 口縁部内面コナテ、器底内面同心円、外周平行タタキ |
| 55 | 26 | 18 | 3B-1 | 溝4.4 | 土師器 | 丸 | 21 | 残高4.4 断面 5YR6/4 黄褐色 内 5YR6/4 黄褐色 断面 4.2 5YR5/6 黄 | 瓦 | 2~1mの石質多く0.5m以下の瓦石、石質あり 遺物出土方向に広がる。口縁部断面三角。器底軌状工具痕跡も残る。ナテあり |
| 55 | 27 | 17 | 3B-1 | 溝4.3 | 埴輪 | 丸 | 43 | 残高8.4 断面 5YR5/6 黄 | 瓦 | 2~1mの石質多くあり 0.5m以下の瓦石、石質あり |
| 55 | 28 | 17 | 3B-1 | 溝4.3 | 灰土層 | 遺 | 43 | 残高6.4 断面 5YR6/4 黄褐色 断面 5YR6/4 黄褐色 | 瓦 | 2~1mの石質多くあり 0.5m以下の瓦石、石質あり |
| 55 | 29 | 17 | 3B-1 | 溝4.3 | 灰土層 | 遺 | 43 | 残高2.0 断面 5YR6/4 黄褐色 断面 5YR6/4 黄褐色 | 瓦 | 2~1mの石質多くあり 0.5m以下の瓦石、石質あり |
| 56 | 1 | 20 | 3B-1 | 溝4.6 | 平瓦 | 丸 | 10.4 | 残高5.2 断面 5YR2/1 黒黄 断面 5YR5/2 に近い黄 | 瓦 | 器、石質、長石を含む 器底平瓦、凸面焼付。一次焼 |
| 56 | 2 | 20 | 3B-1 | 溝4.6 | 平瓦 | 丸 | 65.3 | 残高5.3 断面 5YR2/1 黒黄 断面 5YR5/2 に近い黄 | 瓦 | 器、石質、長石を含む 器底平瓦、凸面焼付。一次焼 |
| 56 | 3 | 20 | 3B-1 | 溝4.6 | 平瓦 | 丸 | 65.9 | 残高5.9 断面 5YR2/1 黒黄 断面 5YR5/2 に近い黄 | 瓦 | 器、石質、長石を含む 器底平瓦、凸面焼付。一次焼 |
| 56 | 4 | 20 | 3B-1 | 溝4.6 | 平瓦 | 丸 | 10.5 | 残高3.5 断面 5YR2/1 に近い黄 断面 5YR5/2 に近い黄 | 瓦 | 器、石質、長石を含む 器底平瓦、凸面焼付。一次焼 |
| 56 | 5 | 20 | 3B-1 | 溝4.6 | 平瓦 | 丸 | 10.3 | 残高3.3 断面 5YR2/1 に近い黄 断面 5YR5/2 に近い黄 | 瓦 | 器、石質、長石を含む 器底平瓦、凸面焼付。一次焼 |

表1-(3) 報告書掲載遺物一覧

| 図No | No | トレンチ | 遺物・層名 | 形状 | 口径 | 底径 | 高さ | 色面 | 産地 | 出土 | 説明 |
|------|------|------|--------|--------|-------|------|---------|--|------|-----------|---|
| 56 | 6 | 3B-1 | 磁器(44) | 平瓦 | 楕 | 12.0 | 長9.4 | 555/1 青灰 | 良 | 埋 | 西面着色、コビキ痕、凸面側へ龍れ砂、縦目跡も、西面快速面取り |
| 56 | 7 | 3B-1 | 磁器 | 平瓦 | 楕 | | 長9.8 | 2.97/3 黄灰 | やや軟 | 密、長石含む | 西面着色、コビキ痕、凸面側へ龍れ砂、西面着色、コビキ痕、凸面側へ龍れ砂、縦目跡 |
| 56 | 8 | 20 | 3B-1 | 磁器(44) | 平瓦 | 楕 | 長17.8 | 2.97/1 灰白 | 良 | 密、石炭、長石含む | 凸面コビキ痕、縦目、凸面側方向にナダ、凸面側面側面取り、西面側面側面取り |
| 56 | 9 | 3B-1 | 磁器 | 丸瓦 | 楕 | | 長8.0 | 内 外 585/1 青灰 外 579/4 1.5に多い赤褐色 内 572/3 5.0以下に多い灰 | 良 | 埋 | 凸面コビキ痕、縦目、凸面側方向にナダ、凸面側面側面取り、西面側面側面取り |
| 62 | 1 | 18 | 3B-2 | ビット7 | 土師器 壺 | 17.4 | 残高8.8 | 内外 579/4 1.5に多い赤褐色 外 579/4 1.5に多い赤褐色 内 572/3 5.0以下に多い灰 | 良 | 密 | 口縁部隆起あり、底面着色あり |
| 62 | 2 | 3B-2 | ビット6 | 土師器 壺 | 楕 | 22.1 | 残高11.85 | 内外 579/4 1.5に多い赤褐色 外 579/4 1.5に多い赤褐色 内 572/3 5.0以下に多い灰 | 良 | 密 | 1-2mmの石炭、長石あり 0.5mm以下の長石、石炭あり(散在) |
| 62 | 3 | 18 | 3B-2 | ビット7 | 土師器 壺 | 18.8 | 残高2.3 | 579/6 8 橙 | 良 | 密 | 1.5mm以下の長石、石炭あり(散在) |
| 62 | 4 | 3B-2 | 赤もみま | 土師器 壺 | 楕 | 14 | 残高2.4 | 外 579/4 1.5に多い赤褐色 内 572/3 5.0以下に多い灰 | 良 | 密 | 1mm以下の長石、石炭 |
| 62 | 5 | 3B-2 | 赤もみま | 土師器 壺 | 楕 | 14.8 | 残高2.4 | 外 579/4 1.5に多い赤褐色 内 572/3 5.0以下に多い灰 | 良 | 密 | 1mm以下の長石、石炭 |
| 62 | 6 | 19 | 3B-2 | 溝1 | 土師器 杯 | 12.6 | 残高3.4 | 内外 579/6 8 橙 外 2.97/1 青灰 | 良 | 密 | 0.1mm石、石炭 4mm以下長石、雲母、内 凹のみ |
| 62 | 7 | 3B-2 | 溝1 | 土師器 杯 | 楕 | | 残高3.5 | 579/6 4 に多い赤褐色 | 良 | 密 | 1mm以下長石、石炭、雲母 |
| 62 | 8 | 19 | 3B-2 | 溝1 | 土師器 杯 | 11.9 | 残高3.1 | 外 585/1 赤灰 内 574/1 赤灰 外 585/1 赤灰 | 良好程度 | 密 | 5mm以下長石、チャート 1mm以下長石、石炭、黒 色粒 |
| 62 | 9 | 19 | 3B-2 | 溝1 | 土師器 杯 | 14.2 | 残高3.7 | 584/1 青灰 | 軟弱 | 密 | 1mm以下長石、石炭、黒 色粒 |
| 62 | 10 | 3B-2 | 溝1 | 土師器 杯 | 楕 | 13.8 | 残高3.5 | 内外 579/6 8 橙 外 1082/2 暗赤褐色 | 軟弱 | 密 | 2mm以下長石、石炭 |
| 62 | 11 | 18 | 3B-2 | 溝1 | 土師器 杯 | 14 | 残高3.6 | 外 7.97/2 黒褐色 内 56/1 灰 外 7.97/2 4に多い赤褐色 | 良好程度 | 密 | 2mm以下長石、石炭、黒 色粒 |
| 62 | 12 | 19 | 3B-2 | 溝1 | 土師器 杯 | 13.9 | 残高2.9 | 外 7.97/2 4に多い赤褐色 内 56/1 灰 | 良好程度 | 密 | 2mm以下長石、石炭 |
| 62 | 13 | 16 | 3B-2 | 溝1 | 土師器 杯 | 30.4 | 残高31 | 外 579/6 8 橙 内 56/1 灰 | 軟弱 | 密 | 5mm以下の長石、石炭 |
| 62 | 14 | 3B-2 | 1層 | 土師器 壺 | 楕 | 3.4 | 残高1.1 | 579/6 8 橙 | 良 | 密 | 1mm以下の長石、石炭 |
| 62 | 15 | 3B-2 | 1層 | 土師器 壺 | 楕 | 3.6 | 残高1.3 | 内外 1079/1 黒褐色 外 1079/1 1 暗灰 | 良 | 密 | 2mm以下長石、石炭 |
| 62 | 16 | 3B-2 | 1層 | 土師器 壺 | 楕 | 9 | 残高1.2 | 1075/1 灰 | 軟弱 | 密 | 1mm以下長石、石炭、黒 色粒 |
| 62 | 17 | 3B-2 | 1層 | 土師器 壺 | 楕 | 10.2 | 残高3.0 | 56/1 灰 | 良好程度 | 密 | 2mm以下長石、石炭、黒 色粒 |
| 62 | 18 | 3B-2 | 1層 | 土師器 壺 | 楕 | 11.3 | 残高1.7 | 586/1 青灰 | 良好程度 | 密 | 2mm以下長石、長石 粒 |
| 62 | 19 | 3B-2 | 1層 | 土師器 壺 | 楕 | 14 | 残高1.2 | 56/1 灰 | 軟弱 | 密 | 1mm以下長石、石炭、黒 色粒 |
| 62 | 20 | 3B-2 | 1層 | 土師器 壺 | 楕 | 8.3 | 残高2.3 | 56/1 灰 | 良好程度 | 密 | 2mm以下長石、長石 |
| 62 | 21 | 3B-2 | 1層 | 土師器 壺 | 楕 | 15.6 | 残高2.9 | 内外 2.97/1 黒 外 1079/2 黒褐色 | 良 | 密 | 1mm以下長石、石炭 |
| 62 | 22 | 3B-2 | カクタン | 土師器 壺 | 楕 | | 残高2.9 | 外 579/6 8 赤褐色 内 572/3 5.0以下に多い赤褐色 | 良 | 密 | 0.5mm以下長石、石炭 |
| 62 | 23 | 3B-2 | 1層 | 土師器 壺 | 楕 | | 残高2.9 | 579/6 8 橙 | 良 | 密 | 1mm以下長石、石炭 |
| 62 | 24 | 3B-2 | 1層 | 土師器 壺 | 楕 | 20 | 残高6.8 | 橙 | 良 | 密 | 0.5mm以下の長石、石炭 |
| 63 | 1 | 21 | 7C | 麻糸織 | 石織 | 幅2.4 | 長1.8 | | | | ヤスカイト |
| 63 | 2 | 21 | 3B-1 | 3層 | 石織 | 幅2.3 | 長1.4 | | | | ヤスカイト |
| 63 | 3 | 21 | 3B-2 | 2層 | 銅片 | 幅2.5 | 長1.9 | | | | ヤスカイト |
| 63 | 4 | 21 | 3B-2 | 1層 | 石織糸織品 | 幅3.8 | 長1.2 | | | | ヤスカイト |
| 63 | 5 | 21 | 3B-2 | 銅織 | 石織糸織品 | 幅4.0 | 長1.9 | | | | ヤスカイト |
| 63 | 6 | 21 | 3B-2 | 1層 | 石織糸織品 | 幅3.4 | 長1.1 | | | | ヤスカイト |
| 63 | 7 | 21 | 3B-2 | 溝1 | 石織糸織品 | 幅3.2 | 長1.0 | | | | ヤスカイト |
| 63 | 8 | 21 | 3B-2 | 1層 | 石織糸織品 | 幅3.3 | 長1.3 | | | | ヤスカイト |
| 63 | 9 | 21 | 3B-2 | 2層 | 石織糸織品 | 幅3.0 | 長1.1 | | | | ヤスカイト |
| 63 | 10 | 21 | 3B-2 | 1層 | 石織糸織品 | 幅3.4 | 長1.3 | | | | ヤスカイト |
| 63 | 11 | 21 | 3B-2 | 2層 | 石織糸織品 | 幅4.8 | 長1.7 | | | | ヤスカイト |
| 63 | 12 | 21 | 3B-2 | 溝2 | 石織糸織品 | 幅5.7 | 長2.0 | | | | ヤスカイト |
| 63 | 13 | 21 | 3B-2 | カクタン | 石織糸織品 | 幅6.3 | 長2.4 | | | | ヤスカイト |
| 63 | 14 | 21 | 3B-2 | 1層 | 銅片 | 幅4.4 | 長1.1 | | | | ヤスカイト |
| 63 | 15 | 21 | 3B-2 | 1層 | 銅片 | 幅4.3 | 長1.3 | | | | ヤスカイト |
| 63 | 16 | 21 | 3B-2 | 7C | 溝2 | 幅2.1 | 長1.7 | | | | ヤスカイト |
| 63 | 17 | 21 | 3B-2 | 2層 | 銅片 | 幅2.2 | 長1.2 | | | | ヤスカイト |
| 63 | 18 | 21 | 3B-2 | 溝2 | 銅片 | 幅3.2 | 長1.2 | | | | ヤスカイト |
| 17-a | 3B-1 | 1層 | 吉塩織 | | | | | 内外 緑灰 | 良 | やや硬 | |
| 17-b | 7C | 溝166 | 吉塩織 | | | | | 内外 緑灰 | 良 | 密 | |
| 17-c | 3B-2 | 1層 | 銅織糸織品 | | | | | 白 | 良 | 密、長石 | 西面側面側面取り |
| 17-d | 3B-2 | 1層 | 黒色土師器 | | | | | NO/ 無 | 良 | 密 | ヘラミダギ |
| 17-e | 3B-2 | 1層 | 黒色土師器 | | | | | NO/ 無 | 良 | 密 | ヘラミダギ |
| 17-f | 3B-1 | 銅織 | | | | | | | | | |
| 19-a | 3B-2 | 溝1 | 土師器 壺 | | | | | 579/1 青灰 | 良 | 密 | 5mm前後の石炭、1-2mm前後の長石、石炭 |
| 19-b | 3B | 溝5 | 銅織 | | | | | | | | 層取りあり |

表 2 - (1) 主要ビット観察表

| 観測年 | 観測月 | 観測日 | 観測時間 | 観測地点 | 観測方法 | 観測結果 | 備考 | 観測日時 | 観測者 | 観測回数 | 観測回数 | 観測回数 | |
|-----|------|------|------|---------|---------|----------------------|--------------------------|-------------------------|------|------|--------|------|----|
| 20 | 7-2 | 観測 1 | 235 | A | 2.516/2 | にぶい青 | 中継砂 (下方ベース土着色) | | | 0.44 | 0.54 | 0.16 | 積り |
| | | | | B | 2.516/2 | 明黄砂 | 中継砂 (濁含む) | | | | | | |
| 20 | 7-2 | 観測 1 | 236 | A | 2.516/2 | 濁赤土 | 中継砂 (濁含む) | | | 0.22 | 0.42 | 0.19 | 積り |
| | | | | B | 10754/3 | にぶい黄濁 | 中継砂 (濁含む) | | | | | | |
| 20 | 7-2 | 観測 1 | 237 | A | 2.516/2 | にぶい青 | 中継砂 (下方ベース土着色) | | | 0.46 | 0.58 | 0.13 | 積り |
| | | | | B | 2.516/2 | 明黄砂 | 中継砂 (濁含む) | | | | | | |
| 20 | 7-2 | 観測 1 | 238 | A | 10757/6 | 黄濁 | シルト混じり礫砂 (堆土ブロック含む) | | | 0.62 | 0.68 | 0.25 | 積り |
| | | | | B | 2.516/2 | 明黄砂 | 中継砂 (濁含む) | | | | | | |
| 20 | 8-1 | 観測 2 | 1 | A | 2.516/2 | 黄濁 | 中継砂 (濁含む) | | | 0.54 | 0.62 | 0.17 | 積り |
| | | | | B | 2.516/2 | 黄濁 | 中継砂 (濁含む) | | | | | | |
| 20 | 8-1 | 観測 2 | 2 | A | 2.516/2 | 黄濁 | 中継砂 (濁含む) | | | 0.58 | 0.64 | 0.16 | 積り |
| | | | | B | 2.516/2 | 黄濁 | 中継砂 (濁含む) | | | | | | |
| 20 | 8-1 | 観測 2 | 3 | A | 2.516/2 | 黄濁 | 中継砂 (濁含む) | | | 0.62 | 0.62 | 0.20 | 積り |
| | | | | B | 2.516/2 | 黄濁 | 中継砂 (濁含む) | | | | | | |
| 20 | 8-1 | 観測 2 | 4 | A | 10756/8 | 明黄濁 | 細砂混じりシルト | | | 0.48 | 0.52 | 0.13 | 積り |
| | | | | B | 2.516/2 | 黄濁 | 中継砂 (濁含む) | | | | | | |
| 20 | 8-1 | 観測 2 | 5 | A | 2.516/2 | 黄濁 | シルト混じり礫砂 | | | 0.48 | 0.52 | 0.15 | 積り |
| | | | | B | 2.516/2 | 黄濁 | 中継砂 (濁含む) | | | | | | |
| | | | | C | 2.516/6 | 黄濁 | 細砂混じりシルト | | | | | | |
| 20 | 8-1 | 観測 3 | 21 | A | 10755/2 | にぶい黄濁 | 中継砂 | | | 0.4 | - | 0.14 | 積り |
| | | | | B | 10755/3 | にぶい黄濁 | 粗粒中継砂 | | | | | | |
| 20 | 8-4 | 観測 3 | 22 | A | 2.516/2 | にぶい黄 | シルト混じり礫砂 | | | 0.36 | 0.5 | 0.10 | 積り |
| | | | | B | 2.516/2 | 明黄濁 | 細砂混じりシルト | | | | | | |
| 20 | 8-1 | 観測 3 | 37 | A | 10754/2 | にぶい黄濁 | 中継砂 (濁含む) | | | - | 0.64 | 0.14 | 積り |
| | | | | B | 2.516/2 | 黄濁 | 中継砂 (堆土ブロック状に含む) | | | | | | |
| | | | | C | 2.516/2 | 黄濁 | 中継砂混じりシルト | | | | | | |
| 30 | | 観測 4 | 189 | A | 2.516/6 | オリーブ濁 | 細砂混じりシルト | | | - | - | 0.17 | 積り |
| | | | | B | 10754/2 | 明黄濁 | シルト | | | | | | |
| | | | | C | 10754/3 | 明黄濁 | 細砂混じりシルト | | | | | | |
| 30 | | 観測 4 | 161 | A | 2.516/6 | オリーブ濁 | 細砂混じりシルト | | | 0.1 | 0.5 | 0.11 | 積り |
| | | | | B | 10756/8 | 明黄濁 | 砂混じりシルト | | | | | | |
| 30 | | 観測 4 | 162 | B | 10755/2 | 黄濁 | 細砂混じりシルト | (多く含む) やや暗め | | 0.62 | 0.64 | 0.20 | 積り |
| | | | | C | 10755/3 | 黄濁 | 細砂混じりシルト | (多く含む) (細ブロック含む) (濁り含む) | | | | | |
| 30 | | 観測 4 | 163 | B | 10756/8 | 明黄濁 | シルト | (堆土ブロック含む) | | 0.54 | 0.54 | 0.13 | 積り |
| 15 | | 観測 5 | 126 | A | 10752/4 | 黄濁 | シルト混じり中継砂 | | | 0.2 | - | - | 積り |
| 15 | | 観測 5 | 209 | B | 2.516/2 | 黄濁 | シルト混じり礫砂 | | | 0.2 | <-12> | - | 積り |
| 15 | | 観測 5 | 224 | B | 2.516/2 | 黄濁 | シルト混じり礫砂 | | | 0.2 | <-12> | - | 積り |
| 15 | | 観測 5 | 226 | B | 2.516/2 | 黄濁 | シルト混じり礫砂 | | | 0.2 | - | - | 積り |
| 15 | | 観測 5 | 228 | B | 10752/4 | 黄濁 | シルト混じり中継砂 | | | 0.3 | <-6.0> | - | 積り |
| 15 | | 観測 5 | 311 | B | 2.516/2 | 黄濁 | シルト混じり礫砂 (多く含む) | | | 0.3 | <-6.0> | - | 積り |
| 18 | 6-3 | 観測 1 | 144 | A | 10754/3 | にぶい黄濁 | シルト混じり礫砂 | | | | | | |
| | | | | B | 10754/2 | 黄濁 | 中継砂 | | | | | | |
| | | | | C | 10754/3 | 黄濁 | 細砂混じりシルト | (上に比べてシルト量多い) | | 0.62 | 0.7 | 0.26 | 積り |
| 18 | 6-3 | 観測 1 | 145 | A | 10754/3 | にぶい黄濁 | 細砂混じりシルト (堆土ブロック含む) | | | 0.58 | 0.82 | 0.32 | 積り |
| | | | | B | 10754/3 | にぶい黄濁 | シルト混じり礫砂 (堆土ブロック Ms. 含む) | | | | | | |
| | | | | C | 10754/4 | 濁 | シルト | | | | | | |
| 18 | 6-3 | 観測 1 | 146 | A | 10754/3 | にぶい黄濁 | シルト混じり礫砂 (堆土ブロック Ms. 含む) | | | 0.6 | 0.72 | 0.41 | 積り |
| | | | | B | 10754/3 | にぶい黄濁 | シルト混じり礫砂 (堆土ブロック Ms. 含む) | | | | | | |
| | | | | C | 10754/4 | 濁 | シルト | | | | | | |
| 18 | 6-3 | 観測 1 | 147 | B | 10754/3 | にぶい黄濁 | シルト混じり礫砂 (堆土ブロック Ms. 含む) | | | 0.56 | 0.6 | 0.31 | 積り |
| | | | | C | 10754/4 | 濁 | シルト | | | | | | |
| 18 | 6-3 | 観測 1 | 148 | A | 10754/3 | にぶい黄濁 | シルト混じり礫砂 (堆土ブロック Ms. 含む) | | | 0.5 | 0.51 | 0.30 | 積り |
| | | | | B | 10754/3 | にぶい黄濁 | シルト混じり礫砂 (堆土ブロック Ms. 含む) | | | | | | |
| | | | | C | 10754/4 | 濁 | シルト | | | | | | |
| 18 | 6-3 | 観測 1 | 149 | A | 10754/3 | にぶい黄濁 | シルト混じり礫砂 (堆土ブロック Ms. 含む) | | | 0.5 | 0.56 | 0.25 | 積り |
| | | | | B | 10754/3 | にぶい黄濁 | シルト混じり礫砂 (堆土ブロック Ms. 含む) | | | | | | |
| | | | | C | 10754/4 | 濁 | シルト | | | | | | |
| 18 | 6-3 | 観測 1 | 150 | B | 10754/3 | にぶい黄濁 | シルト混じり礫砂 (堆土ブロック Ms. 含む) | | | 0.5 | 0.52 | 0.14 | 積り |
| | | | | C | 10754/4 | 濁 | シルト | | | | | | |
| 18 | 6-3 | 観測 1 | 151 | B | | | 一般掘りで出た | | | 0.48 | 0.6 | 0.03 | 積り |
| 18 | 6-3 | 観測 1 | 152 | A | 10754/3 | にぶい黄濁 | シルト混じり中継砂 (濁含む) | | | | | | |
| | | | | B | 10754/3 | にぶい黄濁 | シルト混じり礫砂 (堆土ブロック Ms. 含む) | | | 0.62 | 0.56 | 0.21 | 積り |
| | | | | C | 2.516/2 | にぶい黄濁 | 細砂混じりシルト (堆土ブロック含む) | | | | | | |
| 7-1 | 観測 2 | 122 | B | 2.516/2 | 明黄濁 | 中継砂混じりシルト (堆土ブロック含む) | | | 0.54 | 0.88 | 0.18 | 積り | |
| | | | | C | 2.516/2 | 明黄濁 | シルト混じり中継砂 | | | | | | |
| | | | | D | 2.516/2 | 明黄濁 | 堆土ブロック状に含む | | | | | | |
| 7-1 | 観測 2 | 125 | B | 2.516/2 | 明黄濁 | 中継砂 | 堆土ブロック状に含む | | | 0.54 | 0.54 | 0.15 | 積り |
| | | | | C | 2.516/2 | 明黄濁 | 中継砂 | | | | | | |
| 7-1 | 観測 2 | 121 | B | 2.516/2 | 明黄濁 | 中継砂 | 堆土ブロック状に含む | | | 0.56 | 0.68 | 0.28 | 積り |
| | | | | C | 2.516/2 | 明黄濁 | 中継砂 | | | | | | |
| 7-1 | 観測 2 | 123 | B | 2.516/2 | 明黄濁 | 中継砂 | 堆土ブロック状に含む | | | 0.44 | 0.64 | 0.16 | 積り |
| | | | | C | 2.516/2 | 明黄濁 | 中継砂 | | | | | | |
| 7-1 | 観測 2 | 124 | B | 2.516/2 | 明黄濁 | 中継砂 | 堆土ブロック状に含む | | | 0.68 | 0.54 | 0.18 | 積り |
| | | | | C | 2.516/2 | 明黄濁 | 中継砂 | | | | | | |
| 7-1 | 観測 2 | 125 | B | 2.516/2 | 明黄濁 | 中継砂 | 堆土ブロック状に含む | | | 0.64 | 0.56 | 0.16 | 積り |
| | | | | C | 2.516/2 | 明黄濁 | 中継砂 | | | | | | |
| 7-1 | 観測 2 | 126 | B | 2.516/2 | 明黄濁 | 中継砂 | 堆土ブロック状に含む | | | 0.44 | 0.58 | 0.18 | 積り |
| | | | | C | 2.516/2 | 明黄濁 | 中継砂 | | | | | | |
| 7-1 | 観測 2 | 127 | B | 2.516/2 | 明黄濁 | 中継砂 | 堆土ブロック状に含む | | | 0.72 | 0.72 | 0.32 | 積り |
| | | | | C | 2.516/2 | 明黄濁 | 中継砂 | | | | | | |
| 7-2 | 観測 3 | 221 | B | 2.516/2 | 明黄濁 | シルト混じり礫砂 (砂、濁含む) | 堆土ブロック含む | | | 0.66 | 0.72 | 0.29 | 積り |
| | | | | C | 2.516/2 | 明黄濁 | 中継砂 | | | | | | |
| 7-2 | 観測 3 | 222 | B | 2.516/2 | 明黄濁 | シルト混じり礫砂 (砂、濁含む) | 堆土ブロック含む | | | 0.7 | 0.78 | 0.30 | 積り |
| | | | | C | 10754/4 | 濁 | シルト | | | | | | |
| 7-2 | 観測 3 | 223 | B | 2.516/2 | 明黄濁 | シルト混じり礫砂 (砂、濁含む) | 堆土ブロック含む | | | 0.68 | 0.74 | 0.26 | 積り |

表2- (2) 主要ビット観察表

| 図号 | 図名 | 構造 | 寸法 | 土質 | 層土 | 番号 | 厚み | 長さ | 深さ | 形 |
|----|-----|-----|-----|--|--------------------------|-----------------------------|------|------|--------|----|
| 20 | 7-2 | 観測3 | 224 | A 10784/4 B 2.576/6 C 10785/4 | 明貫砲 明貫砲 明貫砲 | シルト混じり中細砂 (砂、粘土含む、堆山ブロック含む) | 0.66 | 0.76 | 0.25 | 円筒 |
| 20 | 7-2 | 観測3 | 225 | A 10784/4 B 2.576/6 | 明貫砲 明貫砲 | シルト混じり中細砂 (堆山ブロック含む、粘土含む) | 0.62 | 0.72 | 0.26 | 円筒 |
| 20 | 7-2 | 観測3 | 226 | A 10784/4 B 2.576/6 | 明貫砲 明貫砲 | シルト混じり中細砂 (堆山ブロック含む、粘土含む) | 0.66 | 0.68 | 0.15 | 円筒 |
| 20 | 7-2 | 観測3 | 227 | A 10784/4 B 2.576/6 | 明貫砲 明貫砲 | シルト混じり中細砂 (堆山ブロック含む、粘土含む) | 0.62 | 0.66 | 0.17 | 円筒 |
| 20 | 7-2 | 観測3 | 228 | A 10784/4 B 2.576/6 | 明貫砲 明貫砲 | シルト混じり中細砂 (堆山ブロック含む、粘土含む) | 0.54 | 0.68 | 0.06 | 円筒 |
| 20 | 7-2 | 観測3 | 229 | A 10784/4 B 2.576/6 | 明貫砲 明貫砲 | シルト混じり中細砂 (堆山ブロック含む、粘土含む) | 0.54 | 0.58 | 0.03 | 円筒 |
| 20 | 7-2 | 観測3 | 230 | A 10785/2 B 2.576/6 | 明貫砲 明貫砲 | シルト混じり中細砂 (堆山ブロック含む、粘土含む) | 0.48 | 0.62 | 0.06 | 円筒 |
| 20 | 7-2 | 観測3 | 231 | A 10784/2 A' 2.576/2 B 10784/2 | 明貫砲 明貫砲 明貫砲 | シルト混じり中細砂 (堆山ブロック含む、粘土含む) | 0.58 | 0.6 | 0.18 | 円筒 |
| 20 | 7-2 | 観測3 | 232 | A 10784/2 B 10784/2 | 明貫砲 明貫砲 | シルト混じり中細砂 (堆山ブロック含む、粘土含む) | 0.68 | 0.84 | 0.18 | 円筒 |
| 20 | 7-2 | 観測3 | 233 | A 10785/2 B 2.576/6 | 明貫砲 明貫砲 | シルト混じり中細砂 (砂、粘土含む、堆山ブロック含む) | 0.6 | 0.78 | 0.14 | 円筒 |
| 20 | 7-2 | 観測3 | 234 | A 2.576/2 B 10784/2 | 明貫砲 明貫砲 | シルト混じり中細砂 (砂、粘土含む、堆山ブロック含む) | 0.62 | 0.72 | 0.22 | 円筒 |
| 21 | 7-3 | 観測4 | 239 | A 10784/4 B 10784/4 C 10783/2 | 明貫砲 明貫砲 明貫砲 | シルト混じり中細砂 (砂、粘土含む、堆山ブロック含む) | 0.42 | 0.54 | 0.29 | 円筒 |
| 21 | 7-3 | 観測4 | 241 | A 10784/4 B 10784/4 | 明貫砲 明貫砲 | シルト混じり中細砂 (堆山ブロック含むが少くない) | 0.5 | 0.42 | 0.42 | 円筒 |
| 21 | 7-3 | 観測4 | 243 | A 10784/4 B 10784/2 | 明貫砲 明貫砲 | シルト混じり中細砂 (中細砂と互層、堆山ブロック含む) | 0.64 | 0.72 | 0.48 | 円筒 |
| 21 | 7-3 | 観測4 | 244 | A 10784/2 B 10784/2 C 10783/2 | 明貫砲 明貫砲 明貫砲 | シルト混じり中細砂 (堆山ブロック含むが少くない) | 0.5 | 0.64 | 0.39 | 円筒 |
| 21 | 7-3 | 観測4 | 245 | A 10784/2 B 10783/2 C 2.5763/2 | 明貫砲 明貫砲 明貫砲 | シルト混じり中細砂 (堆山ブロック含む) | 0.62 | 0.7 | 0.37 | 円筒 |
| 21 | 7-3 | 観測4 | 246 | A 10785/2 B 10783/2 A' 5783/2 | 明貫砲 明貫砲 明貫砲 | シルト混じり中細砂 (堆山ブロック含む) | 0.5 | 0.58 | 0.11 | 円筒 |
| 21 | 7-3 | 観測4 | 247 | A 10784/2 B 10783/2 C 10782/8 D 10782/2 | 明貫砲 明貫砲 明貫砲 明貫砲 | シルト混じり中細砂 (堆山ブロック含むが少くない) | 0.5 | 0.5 | 0.28 | 円筒 |
| 21 | 7-3 | 観測4 | 248 | A 10784/2 B 10784/2 C 10784/2 | 明貫砲 明貫砲 明貫砲 | シルト混じり中細砂 (堆山ブロック含むが少くない) | 0.52 | 0.7 | 0.41 | 円筒 |
| 21 | 7-3 | 観測4 | 249 | A 10784/4 B 10784/2 C 10787/6 | 明貫砲 明貫砲 明貫砲 | シルト混じり中細砂 (堆山ブロック含むが少くない) | 0.54 | 0.64 | 0.28 | 円筒 |
| 21 | 7-3 | 観測4 | 270 | A 10783/4 B 2.577/6 C 10784/4 | 明貫砲 明貫砲 明貫砲 | シルト混じり中細砂 (堆山ブロック含む) | 0.28 | 0.5 | 0.1 | 円筒 |
| 21 | 7-3 | 観測4 | 242 | A 10784/4 B 10784/2 C 10787/6 | 明貫砲 明貫砲 明貫砲 | シルト混じり中細砂 (堆山ブロック含むが少くない) | 0.66 | 0.86 | (3.41) | 円筒 |
| 21 | 7-3 | 観測4 | 238 | A 10784/4 B 10785/2 C 10787/6 | 明貫砲 明貫砲 明貫砲 | シルト混じり中細砂 (堆山ブロック含む) | 0.62 | 0.86 | (3.60) | 円筒 |
| 21 | 7-3 | 観測4 | 257 | A 10784/4 B 10787/6 C 10787/6 | 明貫砲 明貫砲 明貫砲 | シルト混じり中細砂 (堆山ブロック含む) | 0.36 | 0.4 | (0.21) | 円筒 |
| 21 | 7-3 | 観測4 | 249 | A 10785/2 B 10785/2 C 10787/6 | 明貫砲 明貫砲 明貫砲 | シルト混じり中細砂 (堆山ブロック含む) | 0.62 | 0.61 | 0.2 | 円筒 |
| 15 | 7-3 | 観測4 | 256 | A 10785/2 B 10785/2 C 10787/6 | 明貫砲 明貫砲 明貫砲 | シルト混じり中細砂 (堆山ブロック含む) | 0.4 | 0.5 | 0.42 | 円筒 |
| 22 | 8-1 | 観測5 | 319 | A 2.576/6 B 2.577/6 C 2.576/6 | 明貫砲 明貫砲 明貫砲 | 中細砂混じりシルト (粘土含む) | 0.62 | 0.66 | 0.45 | 円筒 |
| 22 | 8-1 | 観測5 | 320 | A 2.576/6 B 2.577/6 C 2.576/6 | 明貫砲 明貫砲 明貫砲 | 中細砂混じりシルト (粘土含む) | 0.62 | 0.66 | 0.34 | 円筒 |
| 22 | 8-1 | 観測5 | 321 | A 2.576/6 B 2.577/6 C 2.576/6 | 明貫砲 明貫砲 明貫砲 | 中細砂混じりシルト (粘土含む) | 0.52 | 0.64 | 0.37 | 円筒 |
| 22 | 8-1 | 観測5 | 322 | A 2.577/6 B 2.576/6 C 2.577/6 | 明貫砲 明貫砲 明貫砲 | 中細砂混じりシルト (粘土含む) | 0.28 | 0.66 | 0.35 | 円筒 |
| 22 | 8-1 | 観測5 | 323 | A 2.577/6 B 2.577/6 C 2.577/6 | 明貫砲 明貫砲 明貫砲 | 中細砂混じりシルト (粘土含む) | 0.58 | 0.6 | 0.35 | 円筒 |
| 22 | 8-1 | 観測5 | 324 | A 2.576/6 B 2.577/6 C 2.577/6 | 明貫砲 明貫砲 明貫砲 | 中細砂混じりシルト (粘土含む) | 0.42 | 0.7 | 0.22 | 円筒 |

表2-(3) 主要ビット観察表

| 測点 | 試料 | 番号 | 年代 | 土層 | 遺構 | 観察 | 壁厚 | 長さ | 深さ | 形状 | | |
|----|------|------|----|---------|---------|------------------------------|------------------------------------|----------------------------|--------|--------|------|----|
| 22 | 8-1 | 325 | A | 2.575/8 | 青灰 | 中硬砂混じりシルト(灰含む) | 土師器片 | 0.44 | 0.5 | 0.18 | 溝丸 | |
| | | | B | 2.577/8 | 青灰 | シルト混じり中硬砂(灰、粘土ブロック含む) | | | | | | |
| 23 | 8-2 | 198 | A | 10784/3 | 黒 | 中硬砂 | | 0.44 | 0.5 | 0.22 | 溝丸 | |
| | | | B | 10784/4 | 黒 | 中硬砂(灰含む) | | | | | | |
| | | | C | 2.576/8 | 青灰 | 細砂混じりシルト | | | | | | |
| 23 | 8-2 | 200 | A | 10784/3 | 黒 | 中硬砂 | 土師器片 | 0.5 | 0.52 | 0.11 | 溝丸 | |
| | | | B | 10784/4 | 黒 | 中硬砂 粘土がブロック状に混ざる | | | | | | |
| 23 | 8-2 | 201 | A | 10784/4 | 黒 | 中硬砂 粘土がブロック状に混ざる | 土師器片(ear) 古代 灰意器 壺 | 0.48 | 0.52 | 0.42 | 溝丸 | |
| | | | B | 10784/3 | 黒 | 中硬砂 | | | | | | |
| | | | C | 10784/4 | 黒 | 中硬砂 粘土がブロック状に混ざる | | | | | | |
| 23 | 8-2 | 289 | A | 10784/4 | 黒 | 中硬砂 粘土がブロック状に混ざる | | 0.58 | 0.64 | 0.36 | 溝丸 | |
| | | | B | 10784/3 | 黒 | 中硬砂 | | | | | | |
| | | | C | 10784/4 | 黒 | 中硬砂 粘土がブロック状に混ざる | | | | | | |
| 25 | 集物7 | 173 | A | 10784/3 | 黒 | 中硬砂 | 土師器片 | 0.3 | 0.32 | 0.14 | 溝丸 | |
| | | | B | 10784/4 | 黒 | 中硬砂 | | | | | | |
| 25 | 集物7 | 175 | A | 10784/4 | 黒 | 中硬砂混じりシルト(灰含む) | 土師器片 | 0.32 | 0.36 | 0.21 | 溝丸 | |
| | | | B | 10784/6 | 黒 | 中硬砂 | | | | | | |
| 25 | 集物7 | 177 | A | 10784/6 | 青灰 | 細砂 | 土師器 壺 鉢 | 0.32 | 0.44 | 0.13 | 溝丸 | |
| | | | B | 10785/3 | 黒 | 細砂 | | | | | | |
| 25 | 集物7 | 178 | A | 10785/3 | 黒 | 細砂 | 古代 土師器片 現代品埋設体 | 0.38 | 0.46 | 0.14 | 溝丸 | |
| | | | B | 10785/6 | 青灰 | 細砂 | | | | | | |
| 25 | 集物7 | 262 | A | 10785/3 | 黒 | 細砂 | 土師器片 | 0.3 | - | 0.11 | 溝丸 | |
| | | | B | 10785/6 | 青灰 | 細砂(土師器含む) | | | | | | |
| 25 | 集物7 | 290 | A | 10785/3 | 黒 | 細砂(土師器含む) | 土師器片 | 0.3 | 0.4 | 0.16 | 溝丸 | |
| | | | B | 10785/6 | 青灰 | シルト混じり細砂(粘土ブロック含む) | | | | | | |
| | | | C | 10785/2 | 黒 | 中硬砂(粘土ブロック含む) | | | | | | |
| 25 | 集物7 | 261 | A | 10783/2 | 黒 | 中硬砂(粘土ブロック含む) | 土師器片 壺 鉢 灰意器 壺 ビット200 に埋められる | - | 0.46 | (3.40) | 溝丸 | |
| | | | B | 10783/2 | 黒 | 中硬砂 | | | | | | |
| 25 | 集物7 | 295 | A | 10783/2 | 青灰 | 中硬砂 | | 0.4 | - | 0.02 | 溝丸 | |
| | | | B | 2.575/4 | 青灰 | 細砂 | | | | | | |
| 24 | 8-3 | 277 | A | 2.577/8 | 青灰 | シルト混じり細砂(粘土ブロック含む) | | 0.4 | 0.54 | 0.12 | 溝丸 | |
| | | | B | 2.577/8 | 青灰 | シルト混じり細砂(粘土ブロック含む) | | | | | | |
| 24 | 8-3 | 287 | A | 10785/3 | 黒 | 中硬砂(粘土ブロック含む) | | 0.44 | 0.72 | 0.50 | 溝丸 | |
| | | | B | 10785/3 | 黒 | 中硬砂 | | | | | | |
| 24 | 8-3 | 288 | A | 2.575/4 | 青灰 | 細砂 | | 0.42 | 0.44 | 0.12 | 溝丸 | |
| | | | B | 2.577/8 | 青灰 | シルト混じり細砂(粘土ブロック含む) | | | | | | |
| 24 | 8-3 | 304 | A | 10783/2 | 黒 | 中硬砂(粘土ブロック、灰含む) | | 0.36 | 0.43 | 6.10 | 溝丸 | |
| | | | B | 10784/4 | 黒 | 中硬砂(粘土ブロック、灰含む) | | | | | | |
| 24 | 8-3 | 307 | A | 10784/4 | 黒 | 中硬砂(粘土ブロック、灰含む) | 土師器片 | 0.46 | 0.6 | 6.18 | 溝丸 | |
| | | | B | 10785/2 | 黒 | 中硬砂(粘土ブロック含む) | | | | | | |
| 24 | 8-3 | 421 | A | 10785/3 | 黒 | シルト混じり中硬砂(粘土ブロック含む) 目と目 | | 0.52 | 0.64 | 0.34 | 溝丸 | |
| | | | B | 10785/3 | 黒 | シルト混じり中硬砂(粘土ブロック、灰含む) | | | | | | |
| | | | C | 10785/3 | 黒 | シルト混じり中硬砂(粘土ブロック、灰含む) | | | | | | |
| 24 | 8-3 | 275 | A | 2.574/4 | 青灰 | シルト混じり中硬砂(灰含む) | 土師器片 | 0.45 | 0.46 | 6.3 | 溝丸 | |
| | | | B | 2.574/4 | 青灰 | シルト混じり中硬砂 | | | | | | |
| 24 | 8-3 | 300 | A | 10783/4 | 黒 | 細砂 | | 0.44 | - | 0.12 | 溝丸 | |
| | | | B | 2.575/4 | 青灰 | シルト混じり細砂(灰含む) | | | | | | |
| 24 | 8-3 | 308 | A | 2.575/4 | 青灰 | シルト混じり細砂(灰含む) | 土師器片 | 0.2 | 0.4 | - | 溝丸 | |
| | | | B | 10785/2 | 黒 | シルト混じり細砂(粘土ブロック含む) | | | | | | |
| 24 | 8-3 | 309 | A | 2.575/2 | 青灰 | シルト混じり細砂(灰多く含む) | 土師器片 | 0.58 | (3.20) | 内凹 | 溝丸 | |
| | | | B | 10783/4 | 黒 | シルト混じり細砂 | | | | | | |
| 27 | 集物10 | 88 | A | 10783/4 | 黒 | シルト混じり細砂 | 土師器片 | 0.28 | (3.16) | 内凹 | 溝丸 | |
| | | | B | 10785/4 | 黒 | シルト混じり粗砂(粘土ブロック、灰含む) | | | | | | |
| 27 | 集物10 | 82 | A | 2.573/3 | 青灰 | シルト混じり細砂(灰多く含む) | | 0.22 | (0.10) | 内凹 | 溝丸 | |
| | | | B | 2.573/3 | 青灰 | シルト混じり細砂(灰多く含む) | | | | | | |
| 27 | 集物10 | 118 | A | 10785/4 | 黒 | 細砂混じりシルト(粘土ブロック含む) | 土師器 壺 鉢 | 0.36 | 0.2 | 0.21 | 溝丸 | |
| | | | B | 2.573/3 | 青灰 | シルト混じり細砂(灰多く含む) | | | | | | |
| 27 | 集物16 | 429 | A | 10783/4 | 黒 | 中硬砂(遺物含む) | 灰意器 壺 古代 | - | - | (0.04) | 溝丸 | |
| | | | B | 10784/4 | 黒 | 中硬砂 | | | | | | |
| 26 | 6-2 | 集物11 | 13 | A | 10784/3 | 黒 | 中硬砂(遺物含む) | | 0.48 | 0.58 | 6.08 | 溝丸 |
| | | | | B | 10784/4 | 黒 | 中硬砂 | | | | | |
| 26 | 6-2 | 集物11 | 26 | A | 10784/3 | 黒 | 中硬砂(遺物含む) | 灰意器 壺 土師器片 (ear) 竹筒 古代 | 0.38 | 0.48 | 6.15 | 溝丸 |
| | | | | B | 2.576/8 | 青灰 | 中硬砂(粘土ブロック状に含む) | | | | | |
| 26 | 6-2 | 集物11 | 11 | A | 10784/3 | 黒 | 中硬砂(遺物含む) | 土師器片 灰意器 環 1637-1648埋設体 | 0.64 | 0.68 | 6.18 | 溝丸 |
| | | | | B | 10784/4 | 黒 | 中硬砂 | | | | | |
| 26 | 6-2 | 集物12 | 11 | A | 10784/3 | 黒 | 中硬砂(遺物含む) | | 0.4 | 6.5 | 6.18 | 溝丸 |
| | | | | B | 10784/4 | 黒 | 中硬砂 | | | | | |
| 26 | 6-2 | 集物12 | 7 | A | 10784/3 | 黒 | シルト混じり細砂 | 土師器片 | 0.68 | 0.7 | 0.30 | 溝丸 |
| | | | | B | 10784/3 | 黒 | シルト混じり細砂(粘土ブロックわずかに含む) | | | | | |
| 26 | 6-2 | 集物12 | 12 | A | 10784/3 | 黒 | 中硬砂 | 土師器片 | 0.5 | 0.58 | 0.11 | 溝丸 |
| | | | | B | 10784/4 | 黒 | 中硬砂 | | | | | |
| 17 | 6 | 9 | A | 10784/3 | 黒 | 2.576/8埋設中硬砂(一段盛りで灰) 観測2の延長等 | 土師器片 | 0.68 | - | - | 溝丸 | |
| | | | B | 10784/3 | 黒 | 中硬砂 | | | | | | |
| 17 | 6 | 14 | A | 10784/3 | 黒 | 中硬砂 | 土師器片 | 0.25 | - | 3.11 | 溝丸 | |
| | | | B | 2.575/8 | 青灰 | 中硬砂 | | | | | | |
| 17 | 6 | 15 | A | 10784/3 | 黒 | 中硬砂(粘土ブロック状に含む) | 古代 土師器片 鉄 (ear) 磁器 | 0.4 | 0.45 | 0.1 | 溝丸 | |
| | | | B | 10785/2 | 黒 | 中硬砂 | | | | | | |
| 17 | 6 | 16 | A | 10785/2 | 黒 | 硬砂混じり中硬砂 | | 0.5 | 0.56 | 0.04 | 溝丸 | |
| | | | B | 10785/2 | 黒 | 硬砂混じり中硬砂 | | | | | | |
| 17 | 6 | 17 | A | 10784/3 | 黒 | 土色記入 赤黄に染み | | 0.6 | 0.54 | 0.02 | 溝丸 | |
| | | | B | 10784/3 | 黒 | 中硬砂 | | | | | | |
| 17 | 6 | 17 | A | 10784/3 | 黒 | 中硬砂(粘土ブロック状に含む) | | 0.36 | 0.42 | 0.08 | 溝丸 | |
| | | | B | 2.575/6 | 青灰 | 中硬砂 | | | | | | |
| 17 | 6 | 19 | A | 10784/3 | 黒 | 中硬砂 | 土師器片 | 0.36 | - | 0.05 | 溝丸 | |
| | | | B | 10784/3 | 黒 | 中硬砂 | | | | | | |
| 17 | 6 | 20 | A | 10784/3 | 黒 | 土色記入(一段盛りの段境で灰) | | 0.24 | - | 6.04 | 溝丸 | |
| | | | B | 10784/3 | 黒 | 中硬砂 | | | | | | |
| 17 | 6 | 22 | A | 10785/3 | 黒 | 中硬砂 | | 0.48 | 0.6 | 6.08 | 溝丸 | |
| | | | B | 10784/2 | 黒 | 中硬砂 | | | | | | |
| 17 | 6 | 24 | A | 10784/3 | 黒 | 中硬砂 | | 0.38 | 0.4 | 6.11 | 溝丸 | |
| | | | B | 2.575/6 | 青灰 | 中硬砂(粘土ブロック状に含む) | | | | | | |
| 17 | 6 | 27 | A | 2.571/3 | 青灰 | 細砂混じりシルト(灰含む) | 土師器片 | 0.24 | 0.38 | 0.1 | 溝丸 | |
| | | | B | 10785/4 | 黒 | 細砂混じりシルト(灰方より粘土ブロック多く含む) | | | | | | |
| 17 | 6 | 28 | A | 10785/4 | 黒 | 中硬砂 | 土師器片 | 0.4 | 0.45 | 0.07 | 溝丸 | |
| | | | B | 10785/4 | 黒 | 中硬砂 | | | | | | |
| 17 | 6 | 29 | A | 2.571/3 | 青灰 | 細砂混じりシルト(粘土含む) | | 0.24 | - | 0.07 | 溝丸 | |
| | | | B | 10784/2 | 黒 | 中硬砂 | | | | | | |
| 17 | 6 | 30 | A | 10784/3 | 黒 | シルト混じり中硬砂 | 土師器片 | 0.3 | - | 0.05 | 溝丸 | |
| | | | B | 10784/3 | 黒 | 中硬砂 | | | | | | |
| 17 | 6 | 31 | A | 0982/8 | 青灰 | 中硬砂 | 土師器片 | 0.28 | 0.28 | 3.11 | 溝丸 | |
| | | | B | 2.575/2 | 青灰 | 中硬砂(遺物含む) | | | | | | |
| 17 | 6 | 32 | A | 10785/3 | 黒 | 中硬砂 | 古代 土師器片 1637-17埋設体埋設体 | 0.4 | 0.5 | 0.18 | 溝丸 | |
| | | | B | 2.576/2 | 青灰 | 中硬砂 | | | | | | |
| 17 | 6 | 33 | A | 2.576/2 | 青灰 | 中硬砂 | | 0.4 | 0.6 | 0.1 | 溝丸 | |
| | | | B | 2.576/2 | 青灰 | 中硬砂 | | | | | | |

表2- (4) 主要ビット観察表

| 観測No. | 試料No. | 層名 | 地層 | 柱上 | 異常 | 泥片 | 長さ | 深さ | 形 | | | |
|-------|-------|----------|-------------|--------------------|-----------------------|-----------------------|------|------|--------|------|------|----|
| 20 | 9-5 | 30 | A 1975/4 | にぶい黄褐色 | 細砂 | 土層部 | | | | | | |
| | | | B 2.575/6 | 黄褐色 | シルト混じり細砂 (灰色粘土ブロック含む) | 須藤 豊 奥 須藤 毅 内藤タケキ | 0.72 | 0.76 | 0.19 | 楕丸 | | |
| | | | C 1976/3 | にぶい黄褐色 | 粗砂混じり細砂 | 内藤タケキ | | | | | | |
| 17 | 42 | A 1974/2 | 黄褐色 | シルト混じり細砂 | | | | 0.34 | 0.12 | 楕円 | | |
| | | B 1976/6 | 明黄褐色 | 細砂混じり (粘土ブロック多く含む) | | | | | | | | |
| 17 | 43 | 17 | A 1975/4 | にぶい黄褐色 | シルト混じり細砂 | | | 0.4 | 0.76 | 0.09 | 楕円 | |
| | | | B 1976/2 | にぶい黄褐色 | 中細砂 | | | | 0.32 | 0.62 | 0.12 | 楕円 |
| 17 | 45 | 17 | A 1975/4 | にぶい黄褐色 | 粗砂、砂礫混じり細砂 (中に鉄石) | | | | | | | |
| | | | A 2.576/6 | 明黄褐色 | 細砂 | | | 0.38 | 0.4 | 0.15 | 楕丸 | |
| 16 | 47 | 17 | B 2.574/6 | オリーブ褐色 | (粘土ブロック含む) | | | | | | | |
| | | | A 7.574/2 | 黒 | シルト混じり細砂 | 土層部片 | 0.38 | 0.48 | 0.11 | 楕円 | | |
| 16 | 91 | 17 | A 1975/4 | にぶい黄褐色 | シルト混じり粗砂 (粘土ブロック、細含む) | | | | | | | |
| | | | B 1975/4 | にぶい黄褐色 | シルト混じり粗砂 (粘土ブロック、細含む) | 図37-13須藤喜栄 | 0.24 | 0.32 | 0.09 | 楕円 | | |
| 16 | 94 | 17 | A 2.574/2 | オリーブ褐色 | シルト混じり細砂 | 須藤 豊 | 0.34 | 0.46 | 0.05 | 楕円 | | |
| | | | A 1975/4 | にぶい黄褐色 | シルト混じり粗砂 (粘土ブロック、細含む) | | | | 0.5 | 0.50 | 円形 | |
| 16 | 95 | 17 | A 1975/4 | にぶい黄褐色 | シルト混じり粗砂 (粘土ブロック、細含む) | | | | 0.42 | - | 0.1 | 楕円 |
| | | | B 7.574/2 | 黒 | シルト混じり粗砂 | | | | 0.44 | - | 0.08 | 楕丸 |
| 16 | 97 | 17 | A 7.574/2 | 黒 | シルト混じり粗砂 | | | | 0.2 | 0.24 | - | 楕円 |
| | | | B 1975/4 | にぶい黄褐色 | 中細砂 | | | 0.38 | 0.45 | 0.12 | 楕円 | |
| 16 | 69 | 17 | A 1975/4 | にぶい黄褐色 | シルト混じり粗砂 (粘土ブロック、細含む) | 土層部片 | | | 0.42 | 0.12 | 円形 | |
| | | | B 1976/4 | 黒 | 中細砂混じりシルト | | | | | | | |
| 16 | 72 | 17 | A 1975/4 | にぶい黄褐色 | 細砂混じりシルト | 土層部片 | 0.4 | 0.4 | 0.2 | 楕円 | | |
| | | | C 1976/5 | 青灰色 | 細砂混じりシルト (粘土ブロック) | | | 0.22 | 0.4 | 0.12 | 楕円 | |
| 16 | 73 | 17 | A 7.574/2 | 黒 | シルト混じり粗砂 | 土層部片 | 須藤喜栄 | 0.28 | - | 円形 | | |
| | | | B 1976/5 | 青灰色 | 細砂混じりシルト | | | 0.12 | 0.45 | 0.15 | 楕円 | |
| 16 | 74 | 17 | A 1976/4 | 黒 | 中細砂混じりシルト | | | | | | | |
| | | | B 1975/4 | にぶい黄褐色 | 中細砂混じりシルト | 土層部片 | 0.5 | | 0.12 | 円形 | | |
| 16 | 77 | 17 | A 1976/4 | にぶい黄褐色 | シルト混じり粗砂 | | | | | | | |
| | | | B 1976/4 | 黒 | 中細砂混じりシルト | | | | | | | |
| 16 | 78 | 17 | A 1975/4 | にぶい黄褐色 | シルト混じり粗砂 | | | | 0.3 | 0.15 | 円形 | |
| | | | B 1975/4 | にぶい黄褐色 | シルト混じり粗砂 (細含む) | 土層部片 | | | | | | |
| 16 | 80 | 17 | - 7.575/2 | 黒 | 粗砂 | | | | 0.2 | 0.24 | - | 楕円 |
| | | | A 7.575/2 | にぶい黄褐色 | シルト混じり中細砂 | | | 0.34 | 0.42 | 0.11 | 楕円 | |
| 15 | 81 | 17 | A 1975/4 | にぶい黄褐色 | シルト混じり粗砂 (粘土ブロック、細含む) | | | | 0.28 | 0.31 | 0.04 | 楕円 |
| | | | B 7.574/2 | 黒 | 細砂 (粘土ブロック含む) | | | 0.28 | 0.24 | 0.07 | 楕円 | |
| 15 | 84 | 17 | A 7.574/2 | 黒 | シルト混じり粗砂 | | | | 0.4 | 0.13 | 円形 | |
| | | | B 1976/2 | 黄褐色 | 細砂混じりシルト | | | 0.34 | 0.26 | 0.18 | 楕円 | |
| 15 | 87 | 17 | A 1976/2 | 黄褐色 | 中細砂混じりシルト | 図37-14須藤喜栄 | 0.36 | 0.46 | 0.14 | 楕丸 | | |
| | | | B 1975/2 | 黒 | 粗砂 (中細砂含む) | 須藤 豊 | | | | | | |
| 16 | 95 | 17 | A 2.572/6 | 明黄褐色 | 中細砂混じりシルト | | | | - | 0.7 | 0.28 | 楕円 |
| | | | A 2.572/6 | 明黄褐色 | 粗砂混じりシルト | | | 0.5 | 0.84 | 0.27 | 楕円 | |
| 16 | 96 | 17 | B 2.576/6 | 明黄褐色 | 粗砂混じりシルト (鉄塊あり) | | | | | | | |
| | | | C 2.572/6 | 明黄褐色 | 粗砂混じりシルト | | | 0.36 | 0.46 | 0.05 | 楕円 | |
| 16 | 103 | 17 | A 7.574/2 | 黒 | シルト混じり粗砂 | | | | 0.1 | 0.5 | - | 楕丸 |
| | | | B 1975/4 | にぶい黄褐色 | シルト混じり粗砂 (粘土ブロック、細含む) | | | 0.4 | 0.32 | 0.06 | 楕円 | |
| 16 | 104 | 17 | A | | 中に鉄石がやや多い | | | | | | | |
| | | | B 1975/4 | にぶい黄褐色 | シルト混じり粗砂 (粘土ブロック、細含む) | | | 0.42 | 0.48 | 0.12 | 楕円 | |
| 16 | 107 | 17 | A | | | | | | | | | |
| | | | B 1976/5 | 黄褐色 | 細砂 | | | 0.09 | 0.1 | 0.05 | 楕円 | |
| 16 | 109 | 17 | A 1976/5 | 黄褐色 | 粗砂 | | | | 0.12 | 0.06 | 円形 | |
| | | | B 1976/5 | 黄褐色 | 粗砂 | | | 0.02 | | | | |
| 16 | 114 | 17 | A 2.574/5 | オリーブ褐色 | 粗砂混じりシルト (粘性やや強い) | 図37-20原田豊 | 0.22 | | 0.29 | 円形 | | |
| | | | B 1.736/4-6 | 黄緑-明黄褐色 | 粗砂シルト (粘土含む) | | | 0.34 | 0.58 | 0.12 | 楕円 | |
| 16 | 124 | 17 | - | | 土色黒 | 土層部片 | | | (0.06) | 楕円 | | |
| | | | B 1976/5 | 明黄褐色 | 細砂 | | | 0.24 | 0.5 | 0.76 | 0.21 | 楕円 |
| 21 | 139 | 17 | A 2.577/5 | 明黄褐色 | 中細砂混じりシルト | | | | 0.44 | 0.45 | 楕円 | |
| | | | B 1976/5 | 明黄褐色 | シルト | | | 0.4 | 0.82 | 0.16 | 楕円 | |
| 21 | 164 | 17 | C 2.577/5 | 黄 | 中-細砂混じりシルト | | | | 0.48 | 0.6 | 0.19 | 楕円 |
| | | | B 1976/5 | 明黄褐色 | シルト | | | 0.48 | 0.8 | 0.23 | 楕円 | |
| 31 | 155 | 17 | A 2.572/6 | 明黄褐色 | 粗砂混じりシルト | | | | 0.72 | 0.8 | 0.22 | 楕円 |
| | | | B 2.572/6 | 明黄褐色 | 中細砂混じりシルト | | | 0.42 | 0.66 | 0.26 | 楕円 | |
| 31 | 156 | 17 | A 2.573/4 | 黄褐色 | 粗砂混じりシルト (粘性やや強い) | 土層部片 (黄) | 0.42 | 0.66 | 0.26 | 楕円 | | |
| | | | B 2.572/6 | 明黄褐色 | 中細砂混じりシルト | | | | | | | |
| 15 | 165 | 17 | A 2.576/6 | 黄褐色 | 粗砂混じりシルト (鉄塊あり) | | | | 0.1 | 0.12 | 0.13 | 楕円 |
| | | | B 1976/4 | 明黄褐色 | 粗砂混じりシルト | | | 0.4 | 0.42 | 0.08 | 楕円 | |
| 15 | 168 | 17 | A 1976/6 | 明黄褐色 | シルト (鉄塊あり、粘土) | | | | | | | |
| | | | B 1975/6 | 黄褐色 | シルト (鉄塊を含む) | | | 0.34 | 0.1 | 0.1 | 円形 | |
| 15 | 170 | 17 | C 1976/6 | 明黄褐色 | シルト (鉄塊あり、粘土) | | | | | | | |
| | | | B 1975/4 | 暗褐色 | シルト混じり粗砂 | | | 0.36 | 0.5 | 0.1 | 楕円 | |
| 15 | 180 | 17 | A 2.572/6 | 黄 | 粗砂 | | | | 0.34 | 0.14 | 円形 | |
| | | | B 1976/4 | 暗褐色 | シルト混じり粗砂 | 土層部片 | 0.62 | | | | | |
| 36 | 中: 2 | 183 | - | | | 図37-1, 2, 土層部片 24ヶ所観察 | | | 0.48 | 0.75 | 円形 | |

表2- (5) 主要ビット観察表

| 観測区 | 観測期 | 観測日 | 時刻 | 層 | 地質 | 備考 | 傾斜 | 長さ | 形 | |
|--------|------|------|----|----------|----------|------------------------|-------------------------------|------|--------|--------|
| 16 | | 184 | A | 7.5932/2 | 砂層 | シルト混じり細砂 (炭を多く含む) | | 0.34 | 0.27 | 円形 |
| | | | B | 10932/4 | 砂層 | シルト混じり中細砂 | | | | |
| 16 | | 186 | B | 10932/4 | 砂層 | シルト混じり中細砂 | 黒色土層 0.06 | 0.02 | - | 円形 |
| 16 | | 188 | B | 10932/4 | 砂層 | シルト混じり中細砂 | | 0.34 | 0.2 | 円形 |
| 16 | | 189 | B | 7.5932/3 | 砂層 | シルト混じり細砂 (炭を多く含む) | 0.07-0.25土層砂 | 0.28 | 0.21 | 円形 |
| 16 | | 192 | B | 7.5932/3 | 砂層 | シルト混じり細砂 (炭を多く含む) | | 0.24 | 0.11 | 円形 |
| 16 | | 195 | B | 2.517/8 | 泥 | 細砂 | | 0.3 | 0.15 | 楕円 |
| | | | | 7.5932/3 | 砂層 | シルト混じり細砂 (炭を多く含む) | | 0.03 | - | 円形 |
| 16 | | 205 | B | 7.5932/3 | 砂層 | シルト混じり細砂 (炭を多く含む) | | 0.02 | - | 円形 |
| 16 | | 207 | B | 7.5932/3 | 砂層 | シルト混じり細砂 (炭を多く含む) | | 0.02 | - | 円形 |
| 16 | | 219 | B | 7.5932/3 | 砂層 | シルト混じり細砂 (炭を多く含む) | | 0.02 | - | 円形 |
| 16 | | 229 | A | 2.517/8 | 泥 | 細砂 | | 0.64 | 0.14 | 円形 |
| | | | | 7.5932/2 | 砂層 | シルト混じり細砂 (炭を含む) | | | | |
| 16 | | 260 | B | 10932/4 | 泥 | シルト混じり中細砂 | | 0.32 | 0.11 | 楕円 |
| | | | | 2.517/8 | 泥 | 細砂 | | 0.34 | 0.16 | 楕円 |
| | | | | 2.517/2 | オリープ層 | 細砂 | | 0.22 | 0.09 | 円形 |
| 16 | | 262 | B | 10932/4 | 砂層 | シルト混じり中細砂 | | 0.3 | 0.14 | 円形 |
| 16 | | 265 | B | 10932/4 | 砂層 | シルト混じり中細砂 | | 0.31 | 0.2 | 円形 |
| | | | | 10932/4 | 砂層 | シルト混じり中細砂 (亀山ブロック含む) | | 0.01 | - | 円形 |
| 16 | | 292 | C | 10932/4 | 砂層 | シルト混じり中細砂 (亀山ブロック含まない) | | 0.01 | - | 円形 |
| 16 | | 295 | B | 10932/4 | 砂層 | シルト混じり中細砂 | | 0.62 | 0.54 | 楕円 |
| 16 | | 298 | A | 2.517/2 | オリープ層 | 中細砂 | | 0.44 | 0.38 | 楕円 |
| | | | | 2.517/2 | オリープ層 | シルト混じり中細砂 | | | | |
| 16 | | 301 | B | 2.517/2 | オリープ層 | シルト混じり中細砂 (亀山ブロック状を含む) | | 0.58 | - | 楕円 |
| | | | | 2.517/2 | オリープ層 | シルト混じり中細砂 | | | | |
| 16 | | 302 | B | 2.517/2 | オリープ層 | 中細砂と (亀山) の互層 | | 0.2 | 0.06 | 楕円 |
| | | | | 2.517/2 | 泥 | 中細砂 | | | | |
| 16 | | 303 | B | 10932/4 | 砂層 | シルト混じり中細砂 | 土層砂片 炭塵層 珪 | 0.2 | - | 円形 |
| 16 | | 310 | A | 2.517/8 | 泥 | 細砂 | | 0.28 | 0.06 | 楕円 |
| | | | | 10932/4 | 砂層 | シルト混じり中細砂 | | 0.3 | 0.6 | 楕円 |
| 16 | | 315 | B | 10932/4 | 砂層 | シルト混じり中細砂 | | 0.3 | 0.56 | 楕円 |
| 16 | | 316 | B | 2.517/8 | 明黄泥 | 細砂混じりシルト (炭を含む) | | 0.3 | 0.23 | 楕円 |
| 16 | | 317 | B | 7.5932/2 | 砂層 | シルト混じり細砂 (炭を多く含む) | | 0.3 | 0.34 | 楕円 |
| 16 | | 402 | A | 5932/1 | 黒泥 | 中細砂 | | 0.32 | 0.09 | 円形 |
| | | | | 10934/4 | 泥 | 中細砂 (炭を含む) | | 0.2 | - | 楕円 |
| 16 | | 422 | B | 10932/4 | 砂層 | シルト混じり中細砂 | | 0.4 | - | 楕円 |
| | | | | 10932/4 | 砂層 | シルト混じり中細砂 | | | | |
| 16 | | 425 | B | 10932/4 | 砂層 | シルト混じり中細砂 (亀山ブロック混じり) | | | | |
| ◎Cトレンチ | | | | | | | | | | |
| 44 | | 観測6 | 75 | B | 10932/3 | 明黄泥 | 砂層シルト | 0.2 | (0.06) | 円形 |
| 44 | | 観測6 | 81 | B | 2.517/2 | 泥 | 細砂混じりシルト | 0.28 | (0.01) | 円形 |
| 44 | | 観測6 | 89 | B | 2.517/2 | 泥 | 細砂混じりシルト | 0.28 | (0.06) | 円形 |
| 44 | | 観測7 | 79 | B | 2.517/2 | 泥 | 細砂混じりシルト | 0.3 | 0.34 | (0.06) |
| 44 | 11-5 | 観測7 | 89 | B | 2.517/2 | 泥 | 細砂混じりシルト | 0.22 | 0.32 | (0.12) |
| 44 | | 観測7 | 91 | B | 2.517/2 | 泥 | 細砂混じりシルト | 0.29 | 0.32 | (0.10) |
| 41 | 10-2 | 観測13 | 2 | C | 2.516/8 | 明黄泥 | 中細砂混じりシルト | 0.36 | - | 0.24 |
| 41 | 10-2 | 観測13 | 4 | A | 2.516/4 | 明黄泥 | 0.4-1.0mm級混じりシルト (やや粘り有り) | | | |
| 41 | 10-2 | 観測13 | 5 | B | 2.516/6 | 明黄泥 | 細砂混じりシルト (亀山ブロック含む) | 0.44 | 0.6 | 0.39 |
| 41 | 10-2 | 観測13 | 4 | A | 10934/4 | 泥 | シルト混じり細砂 (亀山ブロック含まない) | 0.44 | 0.5 | 0.26 |
| | | | | B | 10934/2 | 泥 | 細砂混じりシルト (わずかに粘土ブロック含む) | | | |
| 41 | 10-2 | 観測13 | 6 | A | 10934/4 | 泥 | 0.2と粘土ブロック混じり (亀山ブロック少ない) | 0.44 | 0.48 | 0.36 |
| | | | | D | 10935/4 | 泥 | 細砂 (亀山ブロック含む) | | | |
| | | | | A | 10926/6 | 明黄泥 | 細砂混じりシルト 亀山ブロック状を含む | | | |
| 41 | 10-2 | 観測13 | 7 | B | 10926/9 | 明黄泥 | 細砂混じりシルト (Aより粘性強い) 亀山ブロック状を含む | 0.34 | 0.54 | 0.35 |
| | | | | C | 2.516/8 | 明黄泥 | 0.4-1.0mm級混じりシルト (やや粘り有り) | | | |
| 41 | 10-2 | 観測13 | 82 | B | 10934/3 | 泥 | シルト混じり細砂 (下の方に亀山ブロック多く含む) | 0.48 | 0.54 | 0.22 |
| | | | | A | 10934/4 | 泥 | 細砂混じりシルト | | | |
| 41 | 10-2 | 観測13 | 94 | B | 10934/3 | 泥 | 中細砂 (炭を含む) | 0.4 | 0.44 | 0.16 |
| 41 | 10-3 | 観測14 | 9 | A | 10934/4 | 泥 | シルト混じり細砂 (下の方に亀山ブロック多く含む) | 0.46 | 0.46 | 0.38 |
| | | | | B | 10934/2 | 泥 | 細砂混じりシルト | | | |
| 41 | 10-3 | 観測14 | 10 | A | 2.516/8 | 明黄泥 | 細砂混じりシルト (亀山ブロック含む) | 0.46 | 0.52 | 0.40 |
| | | | | B | 2.516/6 | 明黄泥 | 細砂混じりシルト (亀山ブロック含む) | | | |
| | | | | C | 10934/4 | 泥 | シルト混じり中細砂 | | | |
| 41 | 10-3 | 観測14 | 11 | A | 10935/4 | 泥 | 細砂混じりシルト (亀山ブロック含む、やや粘り有り) | 0.42 | 0.44 | 0.41 |
| | | | | B | 10934/2 | 泥 | シルト混じり中細砂 | | | |
| | | | | C | 2.516/6 | 明黄泥 | 中細砂混じりシルト (亀山ブロック含む) | | | |
| 41 | 10-3 | 観測14 | 12 | A | 10934/4 | 泥 | シルト混じり中細砂 | 0.42 | 0.54 | 0.43 |
| | | | | B | 10934/4 | 泥 | シルト混じり中細砂 | | | |
| 41 | 10-3 | 観測14 | 13 | A | 10934/4 | 泥 | 細砂混じりシルト | 0.44 | 0.54 | 0.22 |
| | | | | B | | | | | | |
| 41 | 10-3 | 観測14 | 14 | A | | | | 0.4 | 0.44 | 0.26 |
| | | | | B | | | | | | |
| 41 | 10-3 | 観測14 | 63 | A | 2.517/2 | オリープ層 | 泥-細砂 | 0.4 | 0.44 | 0.17 |
| | | | | B | 2.516/6 | 明黄泥 | 泥-細砂 | 0.4 | 0.42 | 0.19 |
| 41 | 10-3 | 観測14 | 89 | B | 10927/6 | 明黄泥 | シルト混じり細砂 (ベースに粘土) | 0.4 | 0.44 | 0.34 |
| 41 | 10-3 | 観測14 | 88 | B | 7.5934/2 | 灰泥 | 中細砂 (亀山ブロック含む) | 0.52 | 0.54 | 0.14 |
| 41 | 10-2 | 観測14 | 90 | | | | | 0.32 | (0.26) | 円形 |

表2-7(7) 主要ビット観察表

| 測点 | 測深 | 試料No | 層 | 土層 | 番号 | 備考 | 厚み | 長さ | 径 | 形 | | | |
|---------|--------------|------|----|---------|---------|---------------------|-------------------------------|----------------------|------|--------|------|---------------------|----|
| 46 | 12-2 | 建物17 | 16 | A | 10Y32/2 | 雑泥 | シルト混じり中細砂 (炭・土器含む) | 古代 土層 褐色細砂層 | 0.6 | 0.6 | 0.18 | 隅丸 | |
| | | | | B | 10Y36/6 | 明黄泥 | シルト混じり中細砂 | | | | | | |
| | | | | C | 10Y36/6 | 明黄泥 | 中細砂混じりシルト (0.04%/焼灰 雑砂混じる) | | | | | | |
| 49 | 12-2 13-1 | 建物17 | 16 | A | 10Y32/2 | 雑泥 | シルト混じり中細砂 (炭・土器含む) | 土層部片 | 0.54 | 0.72 | 0.25 | 隅丸 | |
| | | | | B | 10Y34/4 | 明灰 | 中細砂 | | | | | | |
| | | | | B | 10Y36/6 | 明黄泥 | 中細砂混じりシルト (1.04%/焼灰 雑砂混じる) | | | | | | |
| 49 | 12-2 13-3 | 建物17 | 20 | A | 10Y32/2 | 雑泥 | シルト混じり中細砂 (炭・土器含む) | 土層部片 | 0.6 | 0.68 | 0.32 | 隅丸 | |
| | | | | B | 7.5Y8/4 | 黒灰 | 細砂混じり中細砂 | | | | | | |
| | | | | C | 10Y36/6 | 明黄泥 | 中細砂混じりシルト (1.04%/焼灰 雑砂混じる) | | | | | | |
| 49 | 12-2 | 建物17 | 21 | A | 5Y8/4 | 黒灰 | 細砂混じりシルト | 土層部片 | 0.5 | 0.68 | 0.17 | 隅丸 | |
| | | | | B | 10Y35/5 | 黄褐色 | シルト混じり中細砂 | | | | | | |
| 47 | | | | 6 | B | 5P1/1 | 黒泥 | シルト混じり中細砂 (粘性有り) | 土層部片 | 0.3 | - | - | 円形 |
| 51 | | | | 7 | B | 10Y81/4 | 黒 | 細砂混じりシルト | | 0.2 | - | - | 円形 |
| 51 | | | 29 | A | 10Y37/8 | 明黄泥 | 焼灰混じりシルト (焼灰他雑砂混じりシルト含む) | 土層部片 | 0.5 | 0.6 | 0.14 | 隅丸 | |
| | | | | B | 10Y36/6 | 明黄泥 | シルト混じり中細砂 | | | | | | |
| | | | | E | 7.5Y8/4 | 黒 | シルト混じり中細砂 | | | | | | |
| 51 | | | 30 | A | 10Y37/8 | 明黄泥 | シルト混じり中細砂 (粘土ブロック状に含む) | 土層部片 | - | - | 0.11 | 隅丸 | |
| | | | | B | 10Y37/8 | 明黄泥 | シルト混じり中細砂 (粘土ブロック状に含む) | | | | | | |
| | | | | C | 10Y32/2 | 雑泥 | シルト混じり中細砂 | | | | | | |
| 51 | 12-2 | | 31 | A | 10Y37/8 | 明黄泥 | 中細砂混じりシルト (粘土ブロック状に含む) | 土層部片 | 0.5 | 0.6 | 0.2 | 隅丸 | |
| | | | | B | 10Y37/8 | 明黄泥 | シルト混じり中細砂 (粘土ブロック状に含む) | | | | | | |
| 51 | | | 32 | A | 10Y32/2 | 雑泥 | シルト混じり中細砂 | 土層部片 | 0.44 | - | 0.15 | 隅丸 | |
| | | | | B | 10Y32/2 | 雑泥 | シルト混じり中細砂 (粘土ブロック状に含む) | | | | | | |
| 52 | | | 34 | A | 10Y34/4 | 黒 | 中細砂混じりシルト | 土層部片 | 0.42 | 0.5 | 0.29 | 隅丸 | |
| | | | | B | 10Y37/8 | 黄褐色 | 細砂混じりシルト (粘性有り) | | | | | | |
| 52 | | | 35 | A | 10Y34/4 | にぶい黄褐色 | 中細砂混じりシルト | 土層部片 | 0.5 | 0.58 | 0.2 | 隅丸 | |
| | | | | B | 10Y36/6 | 明黄泥 | 細砂混じりシルト | | | | | | |
| 52 | | | | 37 | | | | 土層部片 (焼灰) | | | | 隅丸 | |
| 51 | | | 42 | A | 10Y32/2 | 雑泥 | シルト混じり中細砂 | | 0.4 | 0.44 | 0.11 | 隅丸 | |
| | | | | B | 10Y37/8 | 明黄泥 | シルト混じり中細砂 | | | | | | |
| 51 | | | 43 | A | 10Y37/8 | 明黄泥 | シルト混じり中細砂 | | 0.44 | 0.48 | 0.11 | 隅丸 | |
| | | | | B | 7.5Y3/3 | 暗褐色 | 中細砂 (土器含む) | | | | | | |
| 51 | | | 49 | A | 7.5Y8/4 | 黒 | 中細砂混じりシルト | | 0.34 | | 0.26 | 隅丸 | |
| | | | | B | 10Y34/4 | 黒 | 中細砂混じりシルト | | | | | | |
| 52 | | | 50 | A | 10Y34/4 | にぶい黄褐色 | 中細砂混じりシルト | 土層部片 | 0.44 | 0.58 | 0.25 | 隅丸 | |
| | | | | B | 10Y37/8 | 黄褐色 | 中細砂混じりシルト (粘性有り) | | | | | | |
| 52 | | | 51 | A | 10Y34/4 | にぶい黄褐色 | 中細砂混じりシルト | | 0.48 | 0.52 | 0.12 | 隅丸 | |
| | | | | B | 10Y36/6 | 明黄泥 | 砂混じりシルト | | | | | | |
| 47 | | | 52 | A | 5Y4/1 | 灰 | シルト混じり中細砂 | | 0.2 | 0.44 | 0.08 | 角円 | |
| | | | | B | 10Y37/8 | 明黄泥 | 中細砂 | | | | | | |
| 51 | | | 53 | A | 10Y36/6 | 明黄泥 | 中細砂混じりシルト | | 1.28 | - | 0.22 | 隅丸 | |
| | | | | B | 10Y36/6 | 明黄泥 | 中細砂 | | | | | | |
| | | | | C | 10Y36/6 | 明黄泥 | 中細砂混じりシルト | | | | | | |
| 47 | | | 55 | A | 7.5Y8/4 | 黒 | シルト混じり中細砂 | | 0.8 | 0.18 | 円形 | | |
| | | | | B | 10Y37/8 | 黄褐色 | 中細砂混じりシルト | | | | | | |
| 52 | | | 56 | A | 7.5Y4/2 | 緑オリーブ | 細砂混じりシルト (粘性有り) | | 1 | 1.02 | 0.1 | 隅丸 | |
| | | | | B | 2.5Y7/8 | 黄 | 細砂混じりシルト | | | | | | |
| 52 | | | 65 | A | 8A/0 | 灰 | 中細砂 | | 0.6 | 0.6 | 0.41 | 隅丸 | |
| | | | | B | 7.5Y2/8 | 黄褐色 | 細砂混じりシルト | | | | | | |
| | | | | C | 10Y35/5 | 黄褐色 | 細砂混じりシルト | | | | | | |
| | | | | D | 7.5Y2/8 | 黄褐色 | シルト混じり中細砂 | | | | | | |
| | | | | A | 7.5Y1/1 | 灰 | シルト混じり中細砂 | | | | | | |
| 50 | 12-5 5 | | 66 | A | 7.5Y4/2 | にぶい黄褐色 | 細砂混じりシルト マンガン含む | 土層部片 (焼灰あり) 珪砂層 炭 | 1.24 | 1.24 | 0.33 | 隅丸 | |
| | | | | B | 7.5Y6/6 | 黄 | 細砂混じりシルト 粘性有り | | | | | | |
| | | | | C | 7.5Y6/6 | 黄 | 粗砂から細砂混じり 粘性シルト | | | | | | |
| | | | | C | 7.5Y6/6 | 黄 | 粗砂から細砂混じり 粘性シルト | | | | | | |
| 3号ミナレンヂ | | | | | | | | | | | | | |
| 52 | 溝埋10 | 33 | B | 7.5Y3/6 | 明灰 | 細砂混じりシルト (粘土ブロック含む) | | 0.32 | 0.32 | (0.08) | 角円 | | |
| 50 | 溝埋10 | 52 | A | 7.5Y8/4 | 黒 | 細砂混じりシルト (炭・土器含む) | | 0.46 | 0.32 | 0.3 | 角円 | | |
| | | | B | 7.5Y3/6 | 明灰 | シルト (部分的に含む) | | | | | | | |
| 50 | 溝埋10 | 53 | A | 7.5Y8/4 | 黒 | 細砂混じりシルト (炭・土器含む) | | 0.42 | 0.58 | 0.28 | 角円 | | |
| | | | B | 7.5Y3/6 | 明灰 | シルト (部分的に含む) | | | | | | | |
| 58 | 建物18 | 2 | B | 7.5Y3/2 | 暗褐色 | シルト混じり中砂 | 土層部片 | 0.32 | - | 0.19 | 円形 | | |
| | | | | A | 7.5Y3/2 | 暗褐色 | | | | | | シルト混じり中砂 | |
| 58 | 建物18 | 6 | B | 7.5Y3/2 | 暗褐色 | シルト混じり中砂 | 土層部片 | 0.3 | - | 0.26 | 円形 | | |
| | | | | A | 7.5Y3/2 | 暗褐色 | | | | | | シルト混じり中砂 (粘土ブロック含む) | |
| 58 | 建物18 | 16 | B | 7.5Y3/2 | 暗褐色 | シルト混じり中砂 | 土層部片 | 0.21 | - | (0.14) | 円形 | | |
| | | | | A | 7.5Y3/2 | 暗褐色 | | | | | | シルト混じり中砂 | |
| 58 | 建物18 | 19 | B | 7.5Y3/2 | 暗褐色 | シルト混じり中砂 | 土層部片 | 0.18 | - | (0.20) | 円形 | | |
| | | | | A | 7.5Y3/2 | 暗褐色 | | | | | | シルト混じり中砂 | |
| 58 | 建物18 | 20 | B | 7.5Y3/2 | 暗褐色 | シルト混じり中砂 | 土層部片 | - | - | (0.16) | 円形 | | |
| | | | | A | 7.5Y3/2 | 暗褐色 | | | | | | シルト混じり中砂 | |
| 58 | 建物18 | 22 | B | 7.5Y3/2 | 暗褐色 | シルト混じり中砂 | 土層部片 | 0.26 | - | 0.26 | 円形 | | |
| | | | | A | 7.5Y3/2 | 暗褐色 | | | | | | 粘土ブロック状に含む | |
| 58 | 建物18 | 23 | B | 7.5Y3/2 | 暗褐色 | シルト混じり中砂 | 土層部片 黄褐色部片 黄色土層部片 | 0.32 | - | (0.26) | 円形 | | |
| | | | | A | 7.5Y8/4 | 黒 | | | | | | シルト混じり中細砂 (土器含む) | |
| 57 | | | 3 | A | 7.5Y8/4 | 黒 | シルト混じり中細砂 (土器含む) | 土層部片 | 0.28 | - | 0.2 | 円形 | |
| | | | | B | 7.5Y3/2 | 暗褐色 | シルト混じり中細砂 | | | | | | |
| 60 | 15-2 | | 6 | A | 5Y8/4 | 黒 | 細砂混じりシルト (粘性有り) 上層炭含む | 珪砂層 | 0.26 | 0.58 | - | 角円 | |
| | | | | B | 5Y3/2 | 暗褐色 | 中細砂 (土器含む) | | | | | | |
| | | | | C | 5Y3/2 | 暗褐色 | シルト混じり中細砂 (粘土ブロック含む) | | | | | | |
| 57 | | | 13 | A | 7.5Y3/2 | 暗褐色 | シルト混じり中砂 | 珪砂-土層部片 | 0.32 | - | 0.18 | 円形 | |
| | | | | B | 7.5Y3/2 | 暗褐色 | 中細砂 | | | | | | |
| 57 | | | 32 | A | 0Y8/0 | 黄褐色 | シルト混じり中細砂 | 土層部片 | 0.28 | - | 0.13 | 円形 | |
| | | | | B | 5Y3/2 | 暗褐色 | 中細砂 | | | | | | |
| 57 | | | 33 | A | 5Y3/2 | 暗褐色 | 中細砂 (粘土ブロック含む) | 土層部片 | - | 0.62 | 0.26 | 隅丸 | |
| | | | | B | 7.5Y3/2 | 暗褐色 | シルト混じり中細砂 (炭含む) | | | | | | |
| 59 | | | 27 | A | 7.5Y3/2 | 暗褐色 | シルト混じり中細砂 (粘土ブロック状に含む) 土器・炭含む | 土層部片 黄色土層片 赤 土層片 | 0.56 | 0.6 | 0.24 | 隅丸 | |
| | | | | B | 7.5Y3/2 | 暗褐色 | シルト混じり中細砂 (炭含む) | | | | | | |
| 57 | | | 36 | A | 5Y3/2 | 暗褐色 | シルト混じり中細砂 (炭含む) | 土層部片 | 0.3 | - | 0.23 | 円形 | |
| | | | | B | 5Y3/2 | 暗褐色 | 細砂混じりシルト | | | | | | |

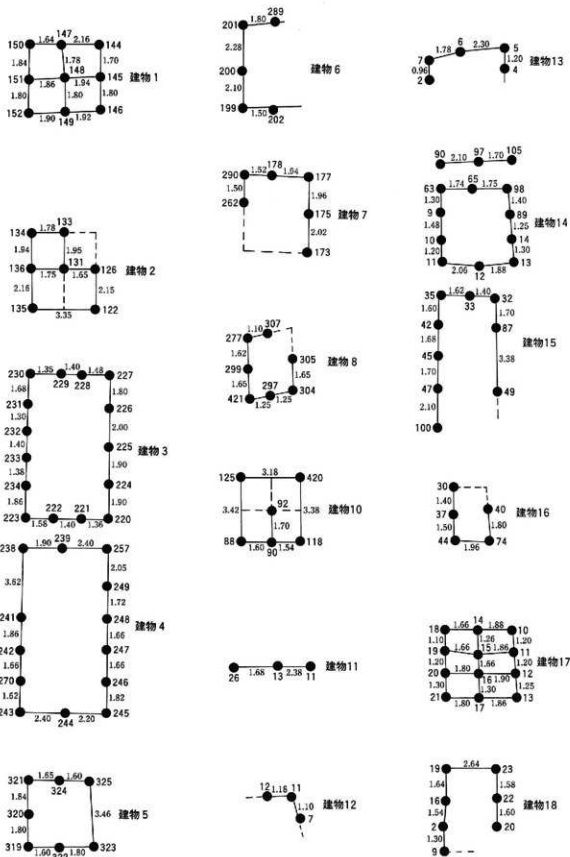


图65—(1) 孤立柱·建物·棚列模式图

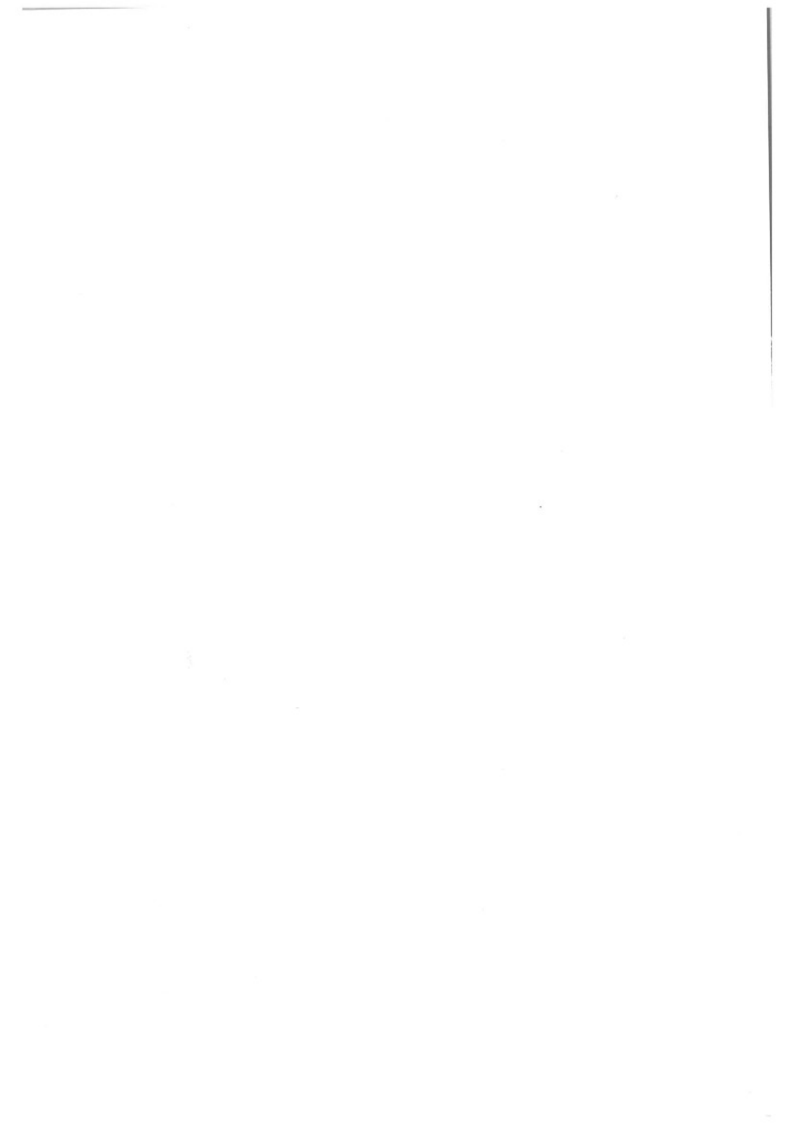


図65-(2) 掘立柱建物・欄列模式図

表3 掘立柱建物・欄列観察表

| 建物番号 | トレンチ | 方向 | 桁 | | | 梁 | | | 面積 m ² | ビット形状 | 図版 | |
|------|------|---------|------|------|----------|--------|------|------|----------------------|-------|----|------|
| | | | (間) | (m) | 平均柱間 | (間) | (m) | 平均柱間 | | | No | No |
| 建物1 | 7C | 北-15°-西 | 2 | 3.64 | 1.82 | 2 | 3.82 | 1.91 | 13.9 | 隅丸方形 | 18 | 6-3 |
| 建物2 | 7C | 北-6°-東 | 2 | 4.1 | 2.05 | 2 | 3.35 | 1.68 | 13.74 | 隅丸方形 | 19 | 7-1 |
| 建物3 | 7C | 北-38°-東 | 5 | 7.66 | 1.53 | 3 | 4.34 | 1.45 | 33.24 | 隅丸方形 | 20 | 7-2 |
| 建物4 | 7C | 北-77°-東 | 5 | 8.88 | 1.78 | 2 | 4.5 | 2.25 | 39.96 | 隅丸方形 | 21 | 7-3 |
| 建物5 | 7C | 北-23°-西 | 2 | 3.62 | 1.81 | 2 | 3.44 | 1.72 | 12.45 | 隅丸方形 | 22 | 8-1 |
| 建物6 | 7C | 北-16°-西 | 2 | 4.38 | 2.19 | 2 | 3.4 | 1.7 | 14.89 | 隅丸方形 | 23 | 8-2 |
| 建物7 | 7C | 北-20°-西 | 2 | 3.98 | 1.99 | 2 | 3.46 | 1.73 | 13.77 | 円形 | 25 | |
| 建物8 | 7C | 北-45°-西 | 2 | 3.3 | 1.65 | 2 | 2.5 | 1.25 | 8.25 | 隅丸方形 | 24 | 8-3 |
| 建物10 | 7C | 北-5°-西 | 2 | 3.42 | 1.71 | 2 | 3.14 | 1.57 | 10.74 | 円形 | 27 | |
| 建物11 | 7C | - | 2 | 4.6 | 2.3 | - | - | - | - | 隅丸方形 | 26 | 6-2 |
| 建物12 | 7C | - | - | - | - | - | - | - | - | 隅丸方形 | 26 | 6-2 |
| 建物13 | 6C | 北-36°-西 | 2 | 4.06 | 2.03 | 1.5m以上 | 1.2 | - | - | 隅丸方形 | 41 | 10-2 |
| 建物14 | 6C | 北-35°-西 | 3 | 3.94 | 1.31 | 2 | 3.9 | 1.95 | 15.37 | 隅丸方形 | 42 | 10-3 |
| 建物15 | 6C | 北-19°-西 | 4 | 7.08 | 1.77 | 2 | 3.02 | 1.51 | 21.38 | 円形 | 43 | 11-1 |
| 建物16 | 6C | 北-7°-西 | 2 | 2.9 | 1.45 | 2 | 1.96 | 0.98 | 5.68 | 円形 | 44 | 11-1 |
| 建物17 | 3B-1 | 北-2°-西 | 3 | 3.66 | 1.22 | 2 | 3.66 | 1.83 | 13.4 | 隅丸方形 | 49 | 12-2 |
| 建物18 | 3B-2 | 北-77°-東 | 3 | 4.4 | 1.47 | 1 | 2.64 | 2.64 | 11.61 | 円形 | 58 | |
| 欄列1 | 7C | 北-36°-東 | 3(4) | 6.3 | 2.1(2.3) | | | | | 隅丸方形 | 20 | 7-2 |
| 欄列2 | 7C | 北-45°-東 | 4 | 7.22 | 1.81 | | | | | 隅丸方形 | 28 | 6-1 |
| 欄列3 | 7C | 北-45°-東 | 2 | 3.3 | 1.65 | | | | | 隅丸方形 | 29 | |
| 欄列4 | 7C | 北-21°-西 | 3 | 5.02 | 1.67 | | | | | 隅丸方形 | 30 | |
| 欄列6 | 6C | 北-65°-西 | 2 | 2.42 | 1.21 | | | | | 隅丸方形 | 44 | |
| 欄列7 | 6C | 北-71°-西 | 2 | 3.34 | 1.67 | | | | | 隅丸方形 | 44 | |
| 欄列8 | 3B-1 | 北-11°-西 | 3 | 4.8 | 1.6 | | | | | 隅丸方形 | 51 | 12-3 |
| 欄列9 | 3B-1 | 北-22°-西 | 2 | 2.5 | 1.25 | | | | | 隅丸方形 | 50 | |
| 欄列10 | 3B-2 | 北-5°-西 | 3 | 4.1 | 1.37 | | | | | 楕円 | 59 | |

圖 版





1. 調査区近景 飛鳥川を望む (南から)



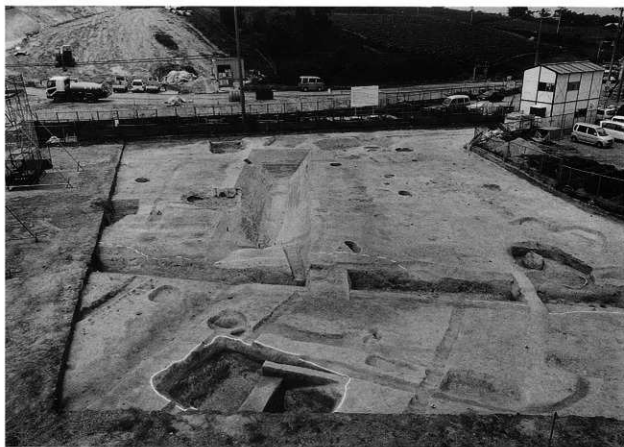
2. 調査区近景 丘陵部を望む (東から)



1. 7Cトレンチ北、西側部 航空写真



2. 3B-1トレンチ 航空写真



1. 8Cトレンチ北 全景 (南東から)



2. 8Cトレンチ南 全景 (北から)
4. 8Cトレンチ北 土坑1 (南から)

3. 8Cトレンチ北 確認トレンチ (南東から)
5. 8Cトレンチ北 土坑1 南東壁断面



1. 調査地から二上山を望む（西から）



2. 7Cトレンチ 建物群（北東から）

1. 7Cトレンチ北側部
全景（北東から）



2. 7Cトレンチ北側部
全景（北から）



3. 7Cトレンチ西側部
全景（北から）



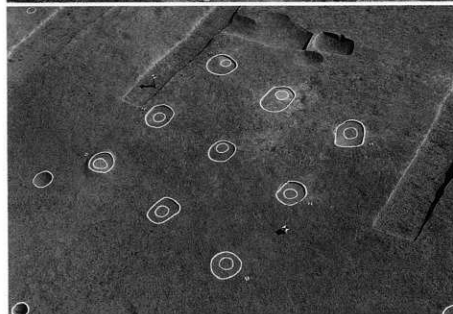
1. 7Cトレンチ南側部
全景（東から）



2. 7Cトレンチ
建物 11、12（東から）



3. 7Cトレンチ
建物 1（北西から）



1. 7Cトレンチ
建物2 (南西から)



2. 7Cトレンチ
建物3 (南東から)



3. 7Cトレンチ
建物4 (南から)



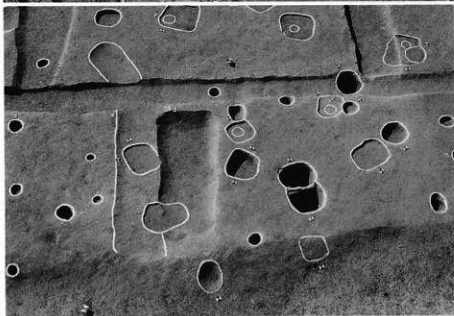
1. 7Cトレンチ
建物5 (東から)



2. 7Cトレンチ
建物6 (東から)



3. 7Cトレンチ
建物8 (東から)

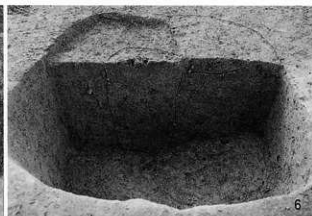




1. 7Cトレンチ ビット183 土師器皿出土状況(南東から) 2. 7Cトレンチ ビット183 土師器皿出土状況(南東から)

3. 7Cトレンチ 土坑318 須恵器出土状況

4. 7Cトレンチ ビット23 根石検出状況(南東から)



5. 7Cトレンチ ビット39 断面(北東から)

7. 7Cトレンチ ビット243 断面(北から)

6. 7Cトレンチ ビット323 断面(東から)

8. 7Cトレンチ ビット242 断面(北から)

1. 6Cトレンチ北西側
全景（南から）



2. 6Cトレンチ
建物13（南西から）

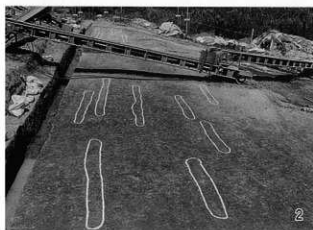


3. 6Cトレンチ
建物14（南西から）





1. 6Cトレンチ南東側 全景 (南西から)



2



3



4



5

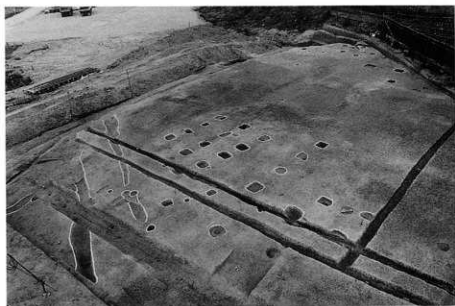
2. 6Cトレンチ 3層上面 (南から)

4. 6Cトレンチ ビット11 断面 (南西から)

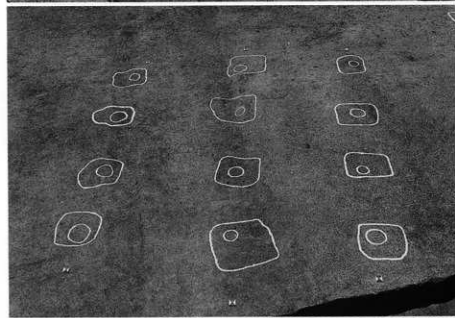
3. 6Cトレンチ 谷部 断面 (北東から)

5. 6Cトレンチ ビット80 須恵器出土状況

1. 3B-1トレンチ
全景（北から）

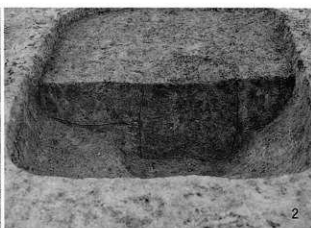


2. 3B-1トレンチ
建物17（北から）



3. 3B-1トレンチ
柵列8（西から）





1. 3B-1トレンチ西側 全景 (北東から)
3. 3B-1トレンチ ピット20 断面 (西から)

2. 3B-1トレンチ ピット31 断面 (東から)
4. 3B-1トレンチ ピット19 断面 (西から)



5. 3B-1トレンチ ピット66 柱状出土状況 (東から)
7. 3B-1トレンチ 溝46 断面 (東から)

6. 3B-1トレンチ ピット66 柱状出土状況 (北から)
8. 3B-1トレンチ 溝47 断面 (東から)

1. 3B-1トレンチ
斜面（南から）



2. 3B-1トレンチ
斜面断面A（南から）

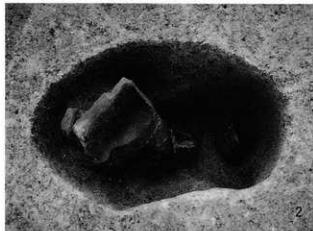


3. 3B-1トレンチ
斜面断面C（西から）





1. 3B-2トレンチ 全景（北西から）



2



3



4



5

2. 3B-2トレンチ ビット6 土師器出土状況
4. 3B-2トレンチ 溝1 断面（東から）

3. 3B-2トレンチ 土坑29 サヌカイト出土状況
5. 3B-2トレンチ 溝1 須恵器出土状況（東から）



図 37-26



図 37-27



図 37-32



図 37-28



図 37-30



図 37-25



図 37-2



図 37-1



図 37-3



図 46-10



図 46-2



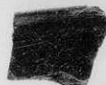
図 46-1



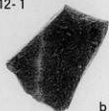
図 46-4



図 12-1



a



b



c



d



e



図 37-21



図 37-13



図 37-4

図 37-17



図 55-28



図 55-27



図 55-29



f



図 55-1



図 55-3



図 55-22



図 55-4



図 55-23



図 55-2



図 62-3



図 55-25

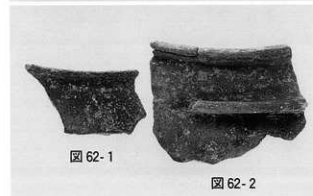


図 62-1

図 62-2



図 62-8



図 62-11



図 62-9



図 62-6



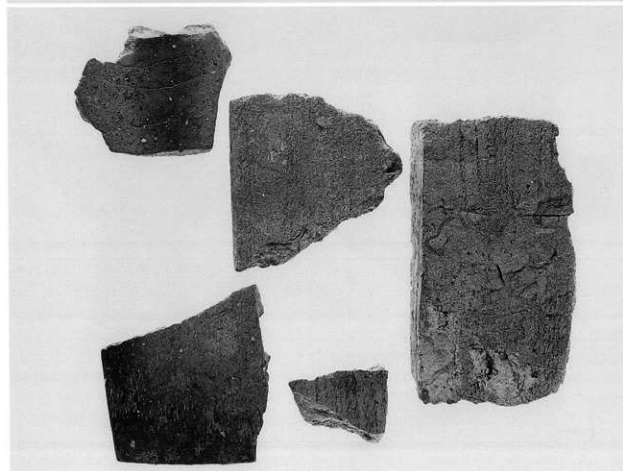
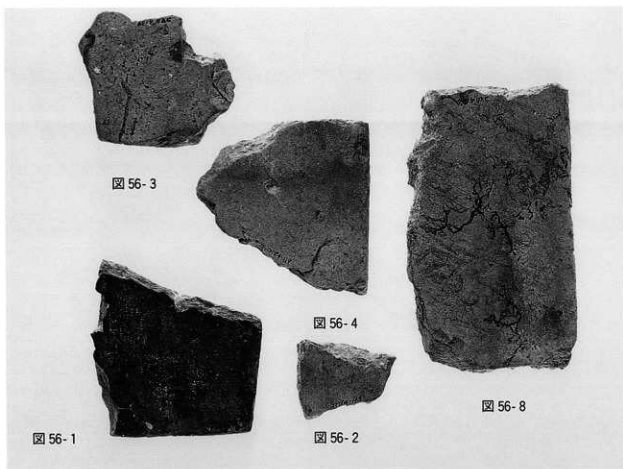
図 62-12

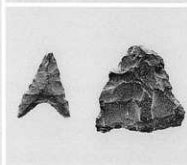
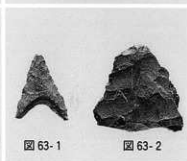
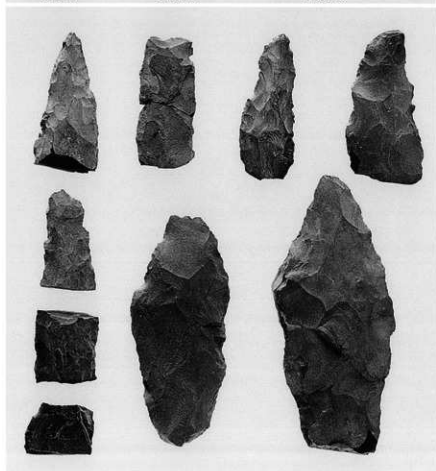
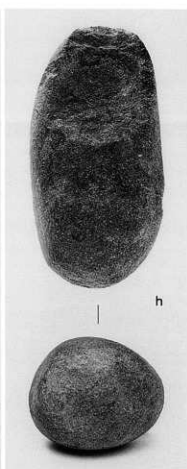
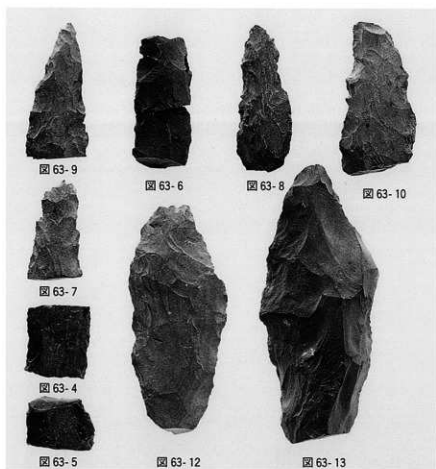


g



図 62-13





| | | | | | | | | |
|-----------------------|--|------------|------|------------------------|----------------|-----------------------|--------|--|
| ふりがな | こまがたにいせき | | | | | | | |
| 書名 | 駒ヶ谷遺跡 III | | | | | | | |
| 副書名 | 国道165号(南阪奈道路)の建設に伴う発掘調査報告書 | | | | | | | |
| シリーズ名 | (財)大阪府文化財センター調査報告書 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 第96集 | | | | | | | |
| 編者名 | 高崎久恵 鈴木雅美 | | | | | | | |
| 編著機関 | 財団法人 大阪府文化財センター | | | | | | | |
| 所在地 | 〒590-0105 大阪府堺市竹城台3丁21番4号 TEL 072(299)8791・FAX 072(299)8905 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 2003年3月31日 | | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | コード 市町村 | 遺跡番号 | 北緯 | 東緯 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
| こまがたにいせき 駒ヶ谷遺跡 | おおさかふ はびきのし あすか・ おおぐろ・ こまがたに 大阪府 羽曳野市 飛鳥・大 黒・駒ヶ谷 | 27222 | 153 | 34度31 分59秒 | 135度37 分58秒 | 2002.4～ 2003. 3 | 5,723㎡ | 一般国道165号(南 阪奈道路)の建設 に伴う事前の埋蔵 文化財の調査 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | | 主な遺構 | | 主な遺物 | | 特記事項 |
| 駒ヶ谷遺跡 | | 弥生時代 | | | | 石器 | | 石棺未製品が多数 出土 |
| | | 古墳時代後期 | | 溝、土坑 | | 須恵器 | | 高坏形器台をほぼ 完形に復元 |
| | 官衙関連 | 飛鳥～奈良時代 | | 掘立柱建物、 溝、土坑、 ピット | | 土師器、須恵器 | | 多数の掘立柱建物 を検出 |
| | 集落 | 平安～鎌倉 | | 掘立柱建物、 ピット | | 土師器、須恵器、黒色土 器、瓦器、瓦 | | |

(財)大阪府文化財センター調査報告書 第96集

駒ヶ谷遺跡Ⅲ

- 国道165号(南阪奈道路)の建設に伴う発掘調査報告書 -

発行年月日/2003年3月31日

編集・発行/財団法人 大阪府文化財センター
大阪府堺市竹城台3丁21番4号

印刷・製本/株式会社 中島弘文堂印刷所
大阪市東成区深江南2丁目6番8号